



Cisco Jabber 14.1 の機能設定

初版：2022年2月24日

最終更新：2024年4月1日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター

0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NON-INFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2022–2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

Full Cisco Trademarks with Software License ?

はじめに :

変更履歴	ix
新規および変更情報	ix

第 1 章

機能設定を使い始める	1
Cisco Jabber について	1
このマニュアルの目的	1
機能設定の概要	2

第 2 章

チャットとプレゼンス	11
Webex メッセンジャーユーザ向けのブロッキングドメインのサポート	11
チャットボット	12
ブラウザクリック通話	13
Google Chrome からのクリック通話	14
Mozilla Firefox からのクリック通話	14
Internet Explorer からのクリック通話	14
カスタム顔文字	15
顔文字の定義	16
DND ステータスカスケード	18
Cisco Unified CM IM およびプレゼンスサービスのエンタープライズグループ	19
ファイル転送とスクリーン キャプチャ	21
ファイル転送とスクリーン キャプチャの有効化	22
グループ チャットとチャットルームのファイル転送とスクリーン キャプチャの有効化	22

ピアツーピア チャット専用のファイル転送とスクリーン キャプチャの有効化	23
ECM 添付ファイル設定 (ECM File Attachment Configuration)	24
ECM ファイル添付を設定する	24
最大ファイル転送サイズの設定	24
位置情報の共有	25
Windows 上の保存されたチャットおよびファイルの場所	26
クラウド展開およびオンプレミス展開でのマルチ デバイス メッセージング	26
Multiple Device Messaging の有効化	27
People Insights	28
ユーザインサイト (People Insights)	29
常設チャット ルーム	29
パーシステント チャットの設定	30
常設チャットルームの管理とモデレータ管理	35
常設チャットルームの負荷分散	36
常設チャットルームのパスワードの有効化	36
制約事項	37
シスコ ヘッドセットを使用したプレゼンスの同期	37
プレゼンス サブスクリプション要求のプロンプト	37
IM 用プッシュ通知サービス	39
ログイン時のチャットの復元	40
一時プレゼンス	41

第 3 章

音声およびビデオ	43
CMS ミーティング用ミーティングコントロール	44
Webex Meetings のミーティング制御	45
CMR ミーティング用ミーティングコントロール	46
ブリッジのエスカレーション	49
コール パーク	50
コール ピックアップ	50
コール ピックアップ グループの設定	53
電話番号の割り当て	54

他のコール ピックアップの設定	55
ダイレクト コール ピックアップの設定	55
自動コール ピックアップ	56
自動コール ピックアップの設定	57
Dial via Office	57
Dial via Office をサポートするための Cisco Unified Communications Manager の設定	60
エンタープライズ機能アクセス番号の設定	60
モビリティ プロファイルの設定	61
デバイス COP ファイルのバージョンの確認	62
各デバイスに対する Dial via Office の設定	62
モビリティ ID の追加	62
各デバイス上での Dial via Office の有効化	64
遠端カメラ制御 (FECC)	65
フレキシブル DSCP 値	66
ハント グループ	67
回線グループ	68
回線グループの設定	68
ハント リスト	69
ハント リストの設定	69
ハント リストへの回線グループの追加	70
ハントパイロット	70
ハントパイロットの設定	71
Jabber 間コール	71
Jabber 間ハイブリッドモード	74
Jabber 間帯域幅	75
ボイスメールを使用しないユーザが通話無視できるようにする	75
ボイスメールを使用しないデバイスのセットアップ	75
携帯電話に移動	76
VoIP からモバイル ネットワークへのハンドオフの有効化	78
ハンドオフ DN の設定	78
発信者 ID とモビリティ ID の一致	79

ハンドオフのためのユーザおよびデバイス設定のセットアップ	80
VoIP からモバイル ネットワークへの転送の有効化	80
マルチライン	81
複数回線の設定	82
マルチライン MRA アクセスを有効にする	83
パーソナル ルーム	83
Cisco Jabber ビデオおよび音声通話のプッシュ通知サービス	84
Cisco Unified Communications Manager のプッシュ通知サービスを有効にする	86
(オプション) シングル ナンバー リーチでのプッシュ通知の使用	87
(オプション) ボイスメールでのプッシュ通知の使用	87
単一番号リーチ	87
単一番号リーチを有効にする	88
制約事項	89
URI ダイヤル	89
URI とディレクトリ番号の関連付け	90
URI を使用した電話番号の自動入力	90
ディレクトリ URI パーティションの関連付け	91
連絡先の解決のための SIP 要求における FQDN の有効化	92
ボイスメールの無効化	92
タイマーで制御されたボイスメールの無効化のセットアップ	93
ユーザ制御のボイスメールの無効化のセットアップ	93
ボイスメールの無効化をサポートするための Cisco Unified Communications Manager の設定	94
モビリティ ID のボイスメールの無効化の有効化	94
「リモート接続先のボイスメールの無効化の有効化」	95
ボイス メッセージ	96
送信されたボイスメッセージの表示	97
自動応答コール	98
シスコユニファイド コンタクト センターを備えた Jabber	98
電話番号解決リクエストのサーバ負荷の軽減	99

第 4 章

セキュリティおよびモニタリング	101
ログアウト非アクティビティ タイマー	101
問題のレポート	102
問題レポートの復号化	103
リモートでの PRT ログの収集	104
リモート PRT ログコレクションのセットアップ	104
デバイス PIN 設定	105
モバイルクライアントでのバイOMETリック認証	106
サイレント モニタリングおよびコール録音	107
オンデマンド レコーディング	108
Cisco Jabber 分析テレメトリ	108
Webex Control Hub Jabber 分析	110
ワイヤレスロケーション モニタリングサービス	111
インスタントメッセージ用 セキュリティラベル	112

第 5 章

Platform	115
カスタム埋め込みタブ	115
カスタム埋め込みタブの定義	116
ユーザのカスタム タブ	118
カスタム アイコン	119
カスタム タブからのチャットとコール	119
UserID トークン	119
JavaScript 通知	120
カスタム タブでのコール イベントの表示	124
カスタム埋め込みタブの例	125
Chromebook Android 版 Cisco Jabber の設定	126
Cisco Jabber モバイルアプリのプロモーション	128

第 6 章

サードパーティ製品との統合	129
カレンダーの統合および連絡先の解決	129

Microsoft Outlook のチャット履歴	131
チャット履歴の保存にパラメータをセットアップする	132
Office 365 (Exchange Online)	133
オンプレミスの Exchange サーバ	134
認証のログイン情報を指定する	134
Exchange サーバのアドレスの指定	135
Outlook フォルダに保存するチャット履歴の制限事項	135
IBM Notes の連絡先検索とカレンダー統合	136
Microsoft 製品との統合	137
ミーティング用 Mac カレンダーの統合	138
Microsoft Outlook カレンダー統合	139
Microsoft Outlook プレゼンスの統合	140
Active Directory ユーザとコンピュータ ツールとのプレゼンスの有効化	141
Microsoft Outlook からのローカル連絡先の追加	142



変更履歴

- [新規および変更情報 \(ix ページ\)](#)

新規および変更情報

日付 (Date)	説明	Location
2023 年 10 月	トーンの録音に関する制限を削除しました。	サイレントモニタリングおよびコール録音
2022 年 2 月	ドキュメントの初公開	
	常設チャットルームの負荷分散を追加しました。	常設チャットルーム
	WKWebView による Apple WebView の置換に関する情報を追加しました。	カスタム埋め込みタブ



第 1 章

機能設定を使い始める

- [Cisco Jabber について](#) (1 ページ)
- [このマニュアルの目的](#) (1 ページ)
- [機能設定の概要](#) (2 ページ)

Cisco Jabber について

Cisco Jabber は、あらゆる場所から連絡先とのシームレスな対話を実現する Unified Communications アプリケーションスイートです。Cisco Jabber は、IM、プレゼンス、音声およびビデオ通話、ボイスメール、および会議を提供します。

Cisco Jabber 製品ファミリには、次のようなアプリケーションが含まれています。

- Cisco Jabber for Windows
- Cisco Jabber for Mac
- Cisco Jabber for iPhone and iPad
- Android 版 Cisco Jabber
- Cisco Jabber Softphone for VDI

Cisco Jabber 製品スイートの詳細については、<https://www.cisco.com/go/jabber> または <https://www.cisco.com/c/en/us/products/unified-communications/jabber-softphone-for-vdi/index.html> を参照してください。

このマニュアルの目的

このドキュメントでは、Cisco Jabber の機能の一部を説明します。設定に関する情報や、サポート対象のクライアントのリストについては、機能ごとに示します。

機能設定の概要

次の表に、このドキュメントで説明する機能のアルファベット順のリストと、各機能に対してサポートされているクライアントのリストを示します。

表 1: 機能のクイック リファレンス

機能名	説明	サポート対象クライアント
ActiveControl	Cisco ミーティングサーバ (CMS) 2.3 以降を使用して Jabber で会議を開催します。	すべてのクライアント
Webex Messenger ユーザ向けのブロッキングドメイン サポート	Webex Messenger ユーザは、特定のドメインや特定のドメインの連絡先をブロッキングリストに追加できます。その特定のドメインの連絡先で、ユーザの可用性ステータスを表示したりユーザにインスタントメッセージを送信したりすることはできません。	Mac 版 Cisco Jabber
Bots	チャットボットは、Jabber ユーザのように表示され動作する自動化サービスです。Jabber ユーザは連絡先リストにチャットボットを追加して、ボットとチャット会話を始めることができます。	すべてのクライアント
ブリッジのエスカレーション	ブリッジエスカレーションを使用すると、グループチャットを即座に電話会議へとエスカレーションできます。	すべてのクライアント
ブラウザ クリック通話	ユーザは任意の番号、URI、または英数字の文字列を右クリックすることで、ブラウザからコールを開始できます。	Windows 版 Cisco Jabber VDI 版 Cisco Jabber Softphone
カレンダーの統合および連絡先の解決	[ミーティング] タブのイベントをユーザが表示できるようにしましょう。また、ユーザがローカルの連絡先を検索できるようにしましょう。	すべてのクライアント

機能名	説明	サポート対象クライアント
コール パーク	コールパークを使用すると、コールを保留にして、Cisco Unified Communication Manager システム内の別の電話でそのコールに出ることができます。	すべてのクライアント
コール ピックアップ	コールピックアップ機能では、ユーザはグループからの着信通話をピックアップできます。	Windows 版 Cisco Jabber Mac 版 Cisco Jabber VDI 版 Cisco Jabber Softphone Android 版 Cisco Jabber iPhone および iPad 版 Cisco Jabber
Microsoft Outlook のチャット履歴	ユーザは、ユーザの Microsoft Outlook アプリケーションの Cisco Jabber Chats フォルダにチャット履歴を自動的に保存できます。	Windows 版 Cisco Jabber Mac 版 Cisco Jabber VDI 版 Cisco Jabber Softphone
Chromebook	Android 版 Cisco Jabber を Google Play ストアから Chromebook にダウンロードすることができます。Cisco Jabber は Chromebook で Android タブレットとして動作します。ユーザは、MRA を介して接続したときに、Chromebook 上のすべての Cisco Jabber サービスにアクセスできます。	Android 版 Cisco Jabber
Cisco Jabber モバイルアプリのプロモーション	通知を有効にして、モバイルアプリ (Android および iOS) 版 Cisco Jabber の使用を促進することができます。	Windows 版 Cisco Jabber VDI 版 Cisco Jabber Softphone
コラボレーション会議室	Cisco Collaboration Meeting Rooms (CMR) Cloud を使用すると、ユーザーは簡単に Webex Meetings	すべてのクライアント

機能名	説明	サポート対象クライアント
カスタム埋め込みタブ	カスタム埋め込みタブは、クライアントインターフェイスでHTMLコンテンツを表示します。	すべてのクライアント
カスタム顔文字	XMLファイルで顔文字定義を作成して、それをファイルシステムに保存することによって、Windows版Cisco Jabberにカスタム顔文字を追加できます。	Windows版 Cisco Jabber VDI版 Cisco Jabber Softphone
Dial via Office	DvO機能を使用すると、ユーザはデバイスのモバイルボイスネットワークを使用して、勤務先番号でCisco Jabber発信コールを開始できます。	モバイルクライアント用 Cisco Jabber
DNDステータスカスケード	Cisco Jabberクライアントから手動でIMプレゼンスステータスを応答不可 (Do Not Disturb) 設定すると、所有するすべての電話機デバイスにステータスがカスケードダウンします。	すべてのクライアント
Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service のエンタープライズグループ	Cisco Jabber ユーザは Microsoft Active Directory のグループを検索して、自分の連絡先リストに追加できます。	すべてのクライアント
遠端カメラ制御	ユーザは、遠端カメラを調整して、ビデオコール時の表示を鮮明にすることができます。	すべてのクライアント
ファイル転送とスクリーンキャプチャ	ユーザは、ファイルやスクリーンキャプチャを他のユーザ、アドホックグループチャットルーム、および常設チャットルームに転送できます。	すべてのクライアント

機能名	説明	サポート対象クライアント
フレキシブル DSCP 値	フレキシブル DiffServ コードポイント (DSCP) を使用すると、異なる DSCP 値を指定して、ネットワーク上のオーディオストリームとビデオストリームを分離することができます。	Mac 版 Cisco Jabber モバイルクライアント用 Cisco Jabber
ハントグループ	ハントグループは階層的に編成された回線のグループで、ハントグループリストの最初の番号が話中の場合は2番目の番号にダイヤルされます。2番目の番号が話中の場合は次の番号がダイヤルされるという具合に続きます。	すべてのクライアント
IBM Notes の連絡先検索とカレンダー統合	Windows 版 Cisco Jabber では、クライアントの [会議 (Meetings)] タブでの IBM Notes のカレンダー統合がサポートされています。Cisco Jabber を使用すれば、IBM Notes からローカル連絡先を検索または追加することができます。	Windows 版 Cisco Jabber VDI 版 Cisco Jabber Softphone
Microsoft 製品との統合	Windows 版 Cisco Jabber は、アプリケーションと統合するさまざまな Microsoft 製品をサポートします。 <ul style="list-style-type: none"> • Internet Explorer • Microsoft Office • Microsoft Office 365 • Microsoft SharePoint 	Windows 版 Cisco Jabber Mac 版 Cisco Jabber VDI 版 Cisco Jabber Softphone
Jabber 間コール	Jabber 間音声ビデオ コールは、Cisco Unified Communications Manager を使用せずに、2つの Cisco Jabber クライアント間に基本的な通話機能を提供します。	すべてのクライアント

機能名	説明	サポート対象クライアント
ボイスメールを使用しない ユーザが通話無視できるようにする	ボイスメールを使用しないユーザの場合は、[ボイスメールなし (No Voicemail)] プロファイルを選択します。	すべてのクライアント
位置情報の共有	位置情報と連絡先を共有できるようにします。	Windows 版 Cisco Jabber Mac 版 Cisco Jabber
ログアウト非アクティビティタイマー	サインアウト非アクティビティタイマーにより、指定された時間にわたって非アクティブ状態のユーザをクライアントから自動的にサインアウトさせることができます。	すべてのクライアント
ミーティング用 Mac カレンダーの統合	カレンダーの Cisco Jabber クライアントへの接続を許可します。	Mac 版 Cisco Jabber
Microsoft Outlook カレンダー統合	Microsoft Outlook のカレンダーイベントを、Cisco Jabber の [会議 (Meetings)] タブに表示します。	Windows 版 Cisco Jabber VDI 版 Cisco Jabber Softphone
Microsoft Outlook プレゼンスの統合	Microsoft Outlook のプレゼンスステータスを表示します。	Windows 版 Cisco Jabber Mac 版 Cisco Jabber VDI 版 Cisco Jabber Softphone
携帯電話に移動	ユーザはアクティブな VoIP コールを、Cisco Jabber からモバイル ネットワーク上の自分の携帯電話番号に転送できます。	モバイルクライアント用 Cisco Jabber
マルチライン	ユーザが Cisco Jabber のデイレータスクを実行する複数の電話回線を設定できます。ユーザごとに最大 8 回線までの電話回線を追加できます。	Windows 版 Cisco Jabber Mac 版 Cisco Jabber VDI 版 Cisco Jabber Softphone

機能名	説明	サポート対象クライアント
クラウド展開のマルチ デバイス メッセージング	複数のデバイスにサインインしているユーザは、どのデバイスがアクティブの場合でも、各デバイスで送受信されたすべての IM を確認できます。	すべてのクライアント
My Jabber Chats および My Jabber Files ディレクトリの場所	保存したインスタントメッセージやファイルの転送用のディレクトリの場所を指定します。また、ユーザが自分の場所を指定できます。	Windows 版 Cisco Jabber VDI 版 Cisco Jabber Softphone
常設チャット ルーム	常設チャットは、ディスカッション スレッドへの継続的なアクセスを提供する常設チャットルームです。すべての参加者がチャット ルームを離れても、システムから明示的に削除されない限り継続して利用できます。	すべてのクライアント
パーソナル会議室	パーソナル ルームはいつでも利用可能な仮想会議室であり、ミーティングに使用できます。Cisco Jabber では、Cisco Webex Meetings のパーソナル会議室機能でクライアントの [いますぐミーティング] オプションを使用すると、すぐに連絡先とミーティングができます。	すべてのクライアント
問題のレポート	問題レポートを使用すると、ユーザはクライアントの使用中に発生した問題の概要を送信できます。	すべてのクライアント
プレゼンス サブスクリプション要求のプロンプト	社内の連絡先からのプレゼンス サブスクリプション要求のプロンプトを有効、無効のいずれかにすることができます。	すべてのクライアント

機能名	説明	サポート対象クライアント
インスタントメッセージ用のプッシュ通知サービス	<p>IM のプッシュ通知サービスは、Cisco Jabber が非アクティブであっても、Cisco Jabber に新しいIM通知を転送します。</p> <p>(注) プッシュ通知が有効で、Android 版 Cisco Jabber がアクティブでない場合、Android のタイトルバーに Jabber アイコンが表示されません。</p>	Jabber チームメッセージングモードの iPhone、iPad、Android 版 Cisco Jabber
ビデオおよび音声コール用のプッシュ通知サービス	<p>Cisco Jabber が非アクティブであっても、着信音声とビデオコールに関する通知を受信します。</p> <p>(注) プッシュ通知が有効で、Android 版 Cisco Jabber がアクティブでない場合、Android のタイトルバーに Jabber アイコンが表示されません。</p>	iPhone および iPad、Android 向け Cisco Jabber
ログイン時のチャットの復元	<p>ユーザは、開いている 1:1 のチャットセッションを次のログイン時に復元するかどうかを指定できます。</p>	すべてのクライアント
デバイス PIN 設定	<p>デバイスが PIN で保護されているかどうかを Jabber でチェックするかどうかを設定できます。</p>	モバイルクライアント用 Cisco Jabber
顔認証または指紋によるを使用して Cisco Jabber にサインインする	<p>Cisco Jabber は、Touch ID、Face ID、または指紋認証認証をサポートしてユーザに安全にログインしていただいています。</p>	モバイルクライアント用 Cisco Jabber

機能名	説明	サポート対象クライアント
サイレントモニタリングおよびコール録音	サイレントコールモニタリングにより、スーパーバイザは、両方の通話参加者の声を聞くことができますが、どちらの通話参加者にもスーパーバイザの声は聞こえません。通話の録音により、レコーディングサーバを設定してエージェントの会話をアーカイブします。	すべてのクライアント
シングルナンバーリーチ	他の任意の電話番号またはデバイス(単一番号リーチを使用する携帯電話、自宅の電話機など)からの Cisco Jabber 通話着信に応答できます。	すべてのクライアント
テレメトリ	ユーザエクスペリエンスと製品パフォーマンスを向上させるために、Cisco Jabber は、個人識別が不可能な利用状況とパフォーマンスに関するデータを収集してシスコに送信する場合があります。収集されたデータは、シスコによって、Jabber クライアントがどのように使用され、どのように役立っているかに関する傾向を把握するために使用されます。	すべてのクライアント
一時プレゼンス	連絡先リストの連絡先の可用性ステータスを表示する時間を設定できます。	すべてのクライアント
URI ダイアル	URI ダイアルは、ユーザが Uniform Resource Identifier (URI) を使用したコールの発信や連絡先の解決を実行できるようにします。	すべてのクライアント

機能名	説明	サポート対象クライアント
ボイスメールの無効化	ボイスメールの無効化は、コールがモバイルサービスプロバイダーのボイスメールによって応答されることを防ぐ機能です。	すべてのクライアント
ワイヤレスロケーションモニタリングサービス	ワイヤレスロケーションモニタリングサービス: これにより、社内ネットワークにアクセスしている Cisco Jabber ユーザの物理的な場所を判断することができます。	VDI 版 Cisco Jabber Softphone 以外のすべてのクライアント



第 2 章

チャットとプレゼンス

- [Webex メッセンジャーユーザ向けのブロッキングドメインのサポート](#) (11 ページ)
- [チャットボット](#) (12 ページ)
- [ブラウザクリック通話](#) (13 ページ)
- [カスタム顔文字](#) (15 ページ)
- [DND ステータスカスケード](#) (18 ページ)
- [Cisco Unified CM IM およびプレゼンスサービスのエンタープライズグループ](#) (19 ページ)
- [ファイル転送とスクリーンキャプチャ](#) (21 ページ)
- [位置情報の共有](#) (25 ページ)
- [Windows 上の保存されたチャットおよびファイルの場所](#) (26 ページ)
- [クラウド展開およびオンプレミス展開でのマルチデバイス メッセージング](#) (26 ページ)
- [People Insights](#) (28 ページ)
- [常設チャットルーム](#) (29 ページ)
- [シスコ ヘッドセットを使用したプレゼンスの同期](#) (37 ページ)
- [プレゼンス サブスクリプション要求のプロンプト](#) (37 ページ)
- [IM 用プッシュ通知サービス](#) (39 ページ)
- [ログイン時のチャットの復元](#) (40 ページ)
- [一時プレゼンス](#) (41 ページ)

Webex メッセンジャーユーザ向けのブロッキングドメインのサポート

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
—	可	—	—

Webex メッセンジャー ユーザは、特定のドメインの特定のドメインまたは連絡先を、[ブロック済み]リストに追加できるようになりました。その特定のドメインの連絡先で、ユーザの可用性ステータスを表示したりユーザにインスタントメッセージを送信したりすることはできません。

この機能で、承認されていないドメインからのスパムメッセージを防ぐことができます。組織間の承認されたドメイン間の通信のみを許可することによって、企業のコンプライアンスを維持します。

ステップ 1 Jabber > 環境設定 (Preferences) > プライバシーを選択します。

ステップ 2 [ポリシー (Policies)] セクションを選択し、[ブロックされたユーザの管理 (Managed People)]

ステップ 3 ブロッキングリストに連絡先 ID またはドメインを追加します。

チャットボット

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

Jabber クライアントは、XMPP チャットボットとの双方向のやり取りに使用します。チャットボットは、Jabber ユーザのように表示され動作する自動化サービスです。Jabber ユーザは連絡先リストにチャットボットを追加して、ボットとチャット会話を始めることができます。

ビジネスプロセスを支援したり、質問に回答したり、エンターテインメントに役立つチャットボットを開発できます。ボットは、株価に変化があった場合や温度変化をレポートするマシンセンサなどのアラートメッセージを発行することはお手のものです。さらに高度なボットが、人工知能を使用して、ユーザと対話し、「ダラス支店で次の火曜日の会議室を予約して」のような質問を理解しようとします。

Cisco は、ボットをビルドする開発者向けの SDK を提供しています。SDK では、パブリックドメイン Botkit プロジェクトに基づいてボットをすばやく開発できるように Node.js フレームワークが使用できます。Cisco Jabber ボット SDK の概要については、Cisco Devnet を参照してください。

SDK を使用して開発したチャットボットを展開する場合、Cisco Webex Messenger または Cisco Unified Communications Manager で Jabber のユーザアカウントを作成する必要があります。ボットが IM を使用するようにプロビジョニングを行うのみです。

ボット作成後、Cisco Jabber ユーザはボットを連絡先リストに手動で追加したり、AdminConfiguredBot パラメータを使用してユーザの連絡先リストに自動的に追加したりしてください。AdminConfiguredBot パラメータは Android 版 Cisco Jabber ではサポートされていません。さらに、ボットが WhitelistBot パラメータを設定して、を許可し、Jabber ユーザーを検索して会議コールを開始したり、Cisco Jabber でミーティングをセットアップしたりできるようにします。Cisco Jabber では、ボットとのプレーンテキストおよびリッチテキストメッセージのみがサポートされています。

AdminConfiguredBot と WhitelistBot パラメータ設定方法の詳細は、『Cisco Jabber パラメータリファレンスガイド (Parameters Reference Guide for Cisco Jabber)』を参照してください。

ブラウザクリック通話

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ブラウザクリック通話により、次のブラウザからコールを開始できます。

- Internet Explorer (バージョン 9 以降)
- Mozilla Firefox (バージョン 38.0a1 以降)
- Google Chrome (バージョン 45 以降)

任意の番号、URI、または英数字文字列を選択して右クリックし、次のいずれかのオプションを選択することができます。

- [コール (Call)]: スペースおよび句読点が削除され、発信が開始されます。

- [編集してコール (Call with Edit)]: スペースおよび句読点が削除され、番号がハブ ウィンドウの[検索 (Search)]ボックスに表示されます。コールを開始する前に番号を編集できます。

ブラウザクリック通話は、CLICK2Xインストールパラメータによって有効になります。このパラメータをENABLED (デフォルト値) に設定すると、この機能が有効になります。この機能を無効にするには、CLICK2X インストールパラメータを無効化 (DISABLED) するように設定する必要があります。CLICK2X パラメータの詳細については、ご使用のリリースに対応する展開ガイドを参照してください。

Google Chrome からのクリック通話

Google Chrome ブラウザからのクリック通話を有効にするには、ユーザ入力が必要です。ユーザは、Cisco Jabber をインストールし、サインインした後に、Google Chrome ブラウザを再起動する必要があります。ブラウザが開くと、「Jabber Call」拡張機能のインストールの許可を求めるポップアップウィンドウが表示されます。[拡張機能を有効にする (Enable Extension)]をクリックしてインストールを許可する必要があります。拡張機能がインストールされます。これにより、ブラウザに表示される電話番号を選択し、右クリックすることによってコールできるようになります。

ユーザにマシンの管理者権限がない場合は、「Jabber 通話」拡張機能のインストールの許可を求めるポップアップウィンドウは表示されません。この場合は、システム管理者に問い合わせ、拡張機能をインストールしてもらう必要があります。

Mozilla Firefox からのクリック通話

Mozilla Firefox ブラウザからのクリック通話を有効にするには、ユーザ入力が必要です。ユーザは、Cisco Jabber をインストールした後に、Firefox ブラウザを再起動する必要があります。ブラウザが開くと、「JabberCallAddOn」アドオンのインストールの許可を求めるポップアップウィンドウが表示されます。[このインストールを許可する (Allow this installation)]および[続ける (Continue)]をクリックしてインストールを許可する必要があります。アドオンがインストールされます。これにより、ブラウザに表示される電話番号を選択し、右クリックすることによってコールできるようになります。

Internet Explorer からのクリック通話

Internet Explorer ブラウザからのクリック通話には、ユーザによる許可またはインストールは不要です。

カスタム顔文字

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

Jabber の絵文字ライブラリは、既存の絵文字を置き換えたりオリジナルの絵文字を作成したりしてカスタマイズできます。これを行うには、画像ファイルを Jabber の絵文字ディレクトリに追加して、新しいファイル定義を書き込む必要があります。

オリジナルの絵文字は、ユーザがローカルで行った Jabber インストールで同じカスタム画像および定義を共有している場合にのみ表示されます。

-
- ステップ 1** プログラムファイルで、Cisco Systems\Cisco Jabber ディレクトリに移動し、CustomEmoticons という名前のフォルダを作成します。
- ステップ 2** オリジナルの絵文字画像を、20×20 ピクセル、40×40 ピクセル、60×60 ピクセルの3つの解像度で PNG ファイルとして作成します。最良の結果を得るには、RGB カラー値とおよび透明な背景を使用してください。これらのファイルを CustomEmoticons フォルダに保存し、example.png (20×20 ピクセル)、example@2.png (40×40 ピクセル)、example@3.png (60×60 ピクセル) の形式で名前を付けます。
- ステップ 3** 絵文字を emoticonDefs.xml ファイルと絵文字 emoticonRetinaDefs.xml ファイルで定義します。どちらも Cisco Systems\Cisco Jabber\Emoticons ディレクトリにあります。emoticonDefs.xml ファイルは、標準の顔文字 (20×20 ピクセル) を定義し、emoticonRetinaDefs.xml ファイルは、高-DPI ディスプレイ (40×40 ピクセル) の画像を定義します。ほとんどのシステムで通常の機能を実行するには、両方の定義の設定が必要です。これらのファイルの構造と使用可能なパラメータの詳細については、「*Emoticon Definitions*」を参照してください。Jabber を再起動すると、新しい定義がロードされます。
-

CustomEmoticons フォルダで定義した顔文字は、デフォルトの Emoticons フォルダの顔文字の定義よりも優先されます。

ディレクトリ %USERPROFILE%\AppData\Roaming\Cisco\Unified Communications\Jabber\CSF\CustomEmoticons の絵文字は、Windows 版 Cisco Jabber の個々のインスタンスのカスタム絵文字定義を含み、インストールディレクトリの CustomEmoticons フォルダ内の絵文字の定義よりも優先されます。

顔文字の定義

Windows 版 Cisco Jabber は `emoticonDefs.xml` から顔文字定義をロードします。

次の XML の抜粋は、顔文字の定義ファイルの基本構造を示します。

```
<emoticons>
  <emoticon defaultKey="" image="" text="" order="" hidden="">
    <alt></alt>
  </emoticon>
</emoticons>
```

次の表に、カスタム顔文字を定義するための要素および属性を示します。

要素または属性	説明
<code>emoticons</code>	この要素には、すべての顔文字の定義が含まれます。
<code>emoticon</code>	この要素には、1つの顔文字の定義が含まれます。
<code>defaultKey</code>	この属性により、顔文字を描画するデフォルトキーの組み合わせが定義されます。 値として任意のキーの組み合わせを指定します。 この属性は必須です。 <code>defaultKey</code> は <code>emoticon</code> 要素の属性です。
<code>image</code>	この属性では、顔文字イメージのファイルを指定します。 値として顔文字のファイル名を指定します。顔文字イメージは、 <code>emoticonDefs.xml</code> と同じディレクトリに存在する必要があります。 この属性は必須です。 Windows 版 Cisco Jabber は、 <code>.jpeg</code> 、 <code>.png</code> 、 <code>.gif</code> を含む Chromium 埋め込みフレームワークでレンダリング可能なアイコンをサポートします。 <code>image</code> は <code>emoticon</code> 要素の属性です。
<code>text</code>	この属性では、[顔文字の挿入 (Insert emoticon)] ダイアログボックスに表示される説明文を定義します。 任意の Unicode 文字の文字列を指定します。 この属性はオプションです。 <code>text</code> は <code>emoticon</code> 要素の属性です。

要素または属性	説明
order	<p>この属性では、[顔文字の挿入 (Insert emoticon)]ダイアログボックスに顔文字が表示される順序を定義します。</p> <p>値として 1 から始まる序数を指定します。</p> <p>order は emoticon 要素の属性です。</p> <p>この属性は必須です。ただし、hidden の値が true である場合、このパラメータは有効になりません。</p>
hidden	<p>この属性では、[顔文字の挿入 (Insert emoticon)]ダイアログボックスに顔文字が表示されるかどうかを指定します。</p> <p>値として次のいずれかを指定します。</p> <p>true [顔文字の挿入 (Insert emoticon)]ダイアログボックスに顔文字が表示されないことを指定します。ユーザは、顔文字を描画するキーの組み合わせを入力する必要があります。</p> <p>false [顔文字の挿入 (Insert emoticon)]ダイアログボックスに顔文字が表示されることを指定します。ユーザは、[顔文字の挿入 (Insert emoticon)]ダイアログボックスから顔文字を選択するか、顔文字を描画するキーの組み合わせを入力することができます。これがデフォルト値です。</p> <p>この属性はオプションです。</p> <p>hidden は emoticon 要素の属性です。</p>
alt	<p>この要素を使用すると、キーの組み合わせを顔文字にマップできます。</p> <p>値として任意のキーの組み合わせを指定します。</p> <p>たとえば、defaultKey の値が :) である場合、alt の値として :-) を指定し、両方のキーの組み合わせで同じ顔文字を描画できるようにします。</p> <p>この要素はオプションです。</p>



メモ デフォルトの顔文字の定義ファイルには、ユーザが他のユーザからコールを要求できる次のキーの組み合わせが含まれています。

- :callme
- :telephone

これらのキーの組み合わせによって、callme の顔文字、または communicon が送信されます。この顔文字を受信したユーザは、アイコンをクリックして音声コールを開始できます。任意のカスタム顔文字の定義ファイルにこれらのキーの組み合わせを含めて、callme の顔文字を有効にします。

顔文字の定義の例

```
<emoticons>
  <emoticon defaultKey=":" image="Emoticons_Smiling.png" text="Smile" order="1">
    <alt>:-)</alt>
    <alt>^_^</alt>
  </emoticon>
  <emoticon defaultKey=":( " image="Emoticons_Frowning.png" text="Frown" order="2">
    <alt>:-(</alt>
  </emoticon>
</emoticons>
```

DND ステータスカスケード

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

次のシナリオは、IM プレゼンスサービスが Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service によってのみサポートされている場合に発生します。

ユーザが、Cisco Jabber クライアントで IM プレゼンスステータスを手動で**応答不可 (Do Not Disturb)**に設定した場合、ステータスは、特定のユーザが所有しているすべての電話機デバイスにカスケードダウンします。

ただし、ユーザが手動でステータスを **応答不可 (Do Not Disturb)**に設定した場合は、ステータスは、そのユーザが所有している他の電話機デバイスにカスケードしません。

Cisco Unified CM IM およびプレゼンスサービスのエンタープライズグループ

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	—	—	—

ユーザは Cisco Jabber の連絡先リストにグループを追加できます。グループは企業の Microsoft Active Directory で作成され、Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service にインポートされます。エンタープライズグループが設定され、Unified CM IM およびプレゼンスサービスで有効になると、Cisco Jabber ユーザはエンタープライズグループをクライアントの連絡先リストに追加できます。

エンタープライズグループの使用は、Expressway for Mobile and Remote Access でサポートされます。

Cisco Jabber でエンタープライズグループを有効化するための前提条件

- Cisco Unified Communications Manager リリース 11.0(1) 以降
- Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service リリース 11.0 以降

ユーザが連絡先リストにエンタープライズグループを追加できるようにセットアップする前に、サーバでその機能を設定する必要がありますので、「エンタープライズグループの有効化」セクションを参照してください。エンタープライズグループの詳細については、『*Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

制約事項

- この機能は、オンプレミス展開でのみ使用できる機能です。クラウド展開ではすでにエンタープライズグループをサポートしています。
- セキュリティグループは、Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service 11.5 以降からサポートされています。
- ユーザが連絡先用の他のプレゼンスサブスクリプションを所有していない場合、100 人以上の IM 対応メンバーから成るエンタープライズグループでは、連絡先に対してプレゼンスはサポートされません。たとえば、ユーザが連絡先リストに追加した連絡先が 100 人以上

上から成るエンタープライズグループのリストにも含まれている場合は、その連絡先に対してプレゼンスが表示されます。IM 非対応のユーザは 100 人というプレゼンスの制限に影響しません。

- ネストされたグループはエンタープライズグループの一部としてインポートできません。たとえば、ADグループでは、埋め込みグループ以外のグループのメンバーのみがインポートされます。
- ユーザと ADグループが異なる組織単位 (OU) に存在している場合は、ADグループに連絡先を追加する前に、ADグループが存在する OU だけではなく、両方の OU を Cisco Unified Communications Manager と同期させる必要があります。
- 最小クエリー文字数がデフォルト値の 3 文字に設定されている場合、エンタープライズグループのユーザ検索で 2 文字のグループ名 (例: HR) は除外されます。CDI または UDS の最小クエリー文字数を変更するには、`MinimumCharacterQuery` パラメータの値を変更します。
- 名前の最初の 3 文字 (または、最小クエリー文字として定義された値) に特殊文字が含まれている場合、それらのエンタープライズグループは検索時に検出できません。
- 識別名を変更するとユーザに対する Cisco Jabber クライアントの動作が信頼できないものになるため、エンタープライズグループの識別名の変更は中心業務の時間外に行うことを推奨します。
- エンタープライズグループに変更を加える場合は、変更が適用されるように、変更後に Active Directory を Cisco Unified Communications Manager と同期させる必要があります。
- ディレクトリグループが Cisco Jabber に追加された場合、連絡先解像度がディレクトリサーバに突然の負荷をかけるため、プロフィール写真はすぐには表示されません。ただし、各グループメンバーを右クリックしてプロフィールを表示すると、連絡先の解像度が解決され、写真がダウンロードされます。
- 10.x クラスタとのクラスタ間ピアリング: 同期されたグループに 10.x クラスタ間ピアからのグループメンバーが含まれている場合、より高いクラスタ上のユーザは 10.x クラスタの同期されたメンバーのプレゼンスを確認できません。これは、エンタープライズグループの同期用に Cisco Unified Communications Manager 11.0(1) で導入されたデータベース更新が原因です。これらのアップデートは、Cisco Unified Communications Manager リリースの 10.x には含まれていません。より高いクラスタをホームにしているユーザが 10.x クラスタをホームにしているグループメンバーのプレゼンスを確認できることが保証されるには、より高いクラスタ上のユーザが連絡先リストに 10.x ユーザを手動で追加する必要があります。手動で追加されたユーザに関するプレゼンスの問題は存在しません。

UDS の制限 (モバイルおよび Remote Access 用 Expressway のユーザまたは UDS オンプレミス展開を使用するユーザに適用)

UDS を使用して接続している場合は、エンタープライズグループ検索機能がありません。そのため、ユーザは連絡先リストに追加するエンタープライズグループの正確な名前を把握しておく必要があります。

エンタープライズ グループ名では大文字と小文字が区別されます。

AD フォレスト内の2つのエンタープライズ グループが同じ名前である場合、グループを追加しようとするエラーが発生します。この問題は、BDI または EDI を使用しているクライアントには該当しません。

ファイル転送とスクリーンキャプチャ

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ファイル転送とスクリーンキャプチャは、Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service で有効にされます。Cisco Jabber クライアント コンフィギュレーション ファイルで指定される追加のパラメータがあります。これらのパラメータの詳細については、「ポリシーパラメータ」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service 9.x 以降でファイル転送とスクリーンキャプチャを設定するには、「ファイル転送とスクリーンキャプチャの有効化」を参照してください。

Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service リリース 10.5(2) 以降では、追加のファイル転送オプションが提供されます。

- ピアツーピア チャットについては、「ピアツーピア チャット専用のファイル転送とスクリーンキャプチャの有効化」を参照してください。
- グループチャットとチャットルームについては、「グループチャットとチャットルームのファイル転送とスクリーンキャプチャの有効化」を参照してください。
- 最大ファイル転送サイズを設定するには、「最大ファイル転送サイズの設定」を参照してください。

次のタスク

これらの追加のファイル転送方式をサポートしていない以前のバージョンの Cisco Jabber クライアントが展開に含まれている場合は、[マネージドおよびピアツーピアファイル転送 (Managed and Peer-to-Peer File Transfer)] を選択するためのオプションがあります。詳細については、

『*Configuration and Administration of IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

ファイル転送とスクリーンキャプチャの有効化

これは、Cisco Unified Communication Manager IM and Presence Service 9.x、10.0.x、10.5.1 に適用されます。Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service で Cisco XCP Router サービスを使用し、ファイル転送とスクリーンキャプチャを有効または無効にすることができます。ファイル転送と画面キャプチャのパラメータはデフォルトで有効になっています。

ファイル転送とスクリーンキャプチャは、デスクトップクライアントとモバイルクライアントでサポートされます。

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [システム (System)]>[サービス パラメータ (Service Parameters)]の順に選択します。

ステップ 3 [サーバ (Server)]ドロップダウンリストから適切なサーバを選択します。

ステップ 4 [サービス (Service)]ドロップダウンメニューから [Cisco XCP Router] を選択します。

[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)]ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [ファイル転送を有効にする (Enable file transfer)]パラメータを探します。

ステップ 6 [パラメータ値 (Parameter Value)]ドロップダウンリストから適切な値を選択します。

メモ Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service 上の設定を無効にした場合は、クライアント設定内のファイル転送とスクリーンキャプチャも無効にする必要があります。

ステップ 7 保存を選択します。

グループチャットとチャットルームのファイル転送とスクリーンキャプチャの有効化

転送されたファイルとスクリーンキャプチャは Jabber によってファイルサーバに保存され、メタデータはデータベースサーバに記録されます。この機能により、次のような機能が追加されます。

- チャットルームをサポートしない Cisco Jabber クライアントを使用したグループチャットでのファイル転送
- ピアツーピアでのファイル転送とスクリーンキャプチャ

始める前に

この機能は Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service リリース 10.5(2) 以降でのみ利用できます。

ファイル転送に関連付けられているメタデータをログに記録するように外部データベースを設定します。詳細については、『*Database Setup for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

転送されたファイルを保存するようにネットワークファイルサーバを設定します。詳細については、『*Configuration and Administration of IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [メッセージング (Messaging)] > [ファイル転送 (File Transfer)] の順に選択します。
 - ステップ 3 [ファイル転送設定 (File Transfer Configuration)] セクションで、[マネージドファイル転送 (Managed File Transfer)] を選択します。
 - ステップ 4 [マネージドファイル転送の割り当て (Managed File Transfer Assignment)] セクションで、クラスタ内のノードごとに外部データベースと外部ファイルサーバを割り当てます。
 - ステップ 5 [保存 (Save)] を選択します。
-

次のタスク

ノードごとに：

- ノードの公開キーを外部ファイルサーバ上の `authorized_keys` ファイルにコピーします。ノードの IP アドレス、ホスト名、または FQDN を含める。
- **Cisco XCP ファイル転送マネージャ** サービスがアクティブになっていることを確認します。
- **Cisco XCP Router** サービスを再起動します。

DNS サーバ上で、`_cisco-uds` および `_collab` エッジサービス (SRV) レコードを使用して Jabber の自動ログインを設定します。SRV レコードの詳細については、「[サービス \(srv\) レコード](#)」を参照してください。

ピアツーピアチャット専用のファイル転送とスクリーンキャプチャの有効化

Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service リリース 10.5(2) 以降でピアツーピアチャットのファイル転送を有効にします。ファイルとスクリーンキャプチャは、ピアツーピアチャットでのみ転送されます。ファイルまたはスクリーンキャプチャ情報は記録もアーカイブもされません。

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [メッセージング (Messaging)]>[ファイル転送 (File Transfer)]の順に選択します。
- ステップ 3** [ファイル転送設定 (File Transfer Configuration)]セクションで、[ピアツーピア (Peer-to-Peer)]を選択します。
- ステップ 4** 保存を選択します。
-

次のタスク

Cisco XCP Router サービスを再起動します。

ECM 添付ファイル設定 (ECM File Attachment Configuration)

エンタープライズコンテンツ管理者 (ECM) のファイル添付機能は、Cisco Jabber ファイル添付機能を拡張して、OneDrive または SharePoint Online からファイルをアップロードできるようにします。いま、このファイルを表示したり、表示の承認を受けた他の Jabber ユーザにチャット経由で送信したりすることができるようになりました。

ユーザーは添付ファイルを送信するときに、コンピューターまたは ECM アカウントからファイルをアップロードすることを選択できます。ユーザーは、組織内の他のユーザー、またはファイルにアクセスできる特定のユーザーにファイルを送信することを選択できます。受信者が ECM 添付ファイル付きのメッセージを取得したら、ファイルを表示または開く前に、その ECM サービスにサインインする必要があります。

ECM ファイル添付を設定する

-
- ステップ 1** ユーザの ECM 添付ファイルを有効にするには、コントロールハブに移動し、設定を選択します。
- ステップ 2** コンテンツ管理で、設定の編集を選択して Microsoft を選択して OneDrive と SharePoint オンラインで ECM を有効にします。
-

最大ファイル転送サイズの設定

最大ファイルサイズは Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service リリース 10.5(2) 以降でのみ利用できます。

始める前に

選択されているファイル転送タイプは、[マネージドファイル転送 (Managed File Transfer)]です。

- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [メッセージング (Messaging)]>[ファイル転送 (File Transfer)]の順に選択します。
- ステップ 3** [マネージドファイル転送設定 (Managed File Transfer Configuration)]セクションで、[最大ファイルサイズ (Maximum File Size)]の値を入力します。
- ステップ 4** 保存を選択します。

次のタスク

Cisco XCP Router サービスを再起動します。

位置情報の共有

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ロケーションの共有を使用すると、ユーザは連絡先と自分のロケーションを共有できます。クライアントが新しいネットワーク接続を検出すると、その場所の名前を入力するように求めるプロンプトが表示されます。たとえば、"ホームオフィスの" または "サンノゼ" などがあります。そのネットワークに接続するとユーザのプレゼンスステータスの横にその名前が表示されます。位置情報の共有は、デフォルトでは有効になっています。

次のパラメータを使用して、ロケーションの共有を設定することができます。詳細については、『*Parameters Reference Guide*』を参照してください。

- **Location_Mode**: この機能が有効になっているかどうかを確認します。
- **LOCATION_MATCHING_MODE**: Jabber が現在のネットワークの場所を検出する方法を決定します
- **Location_Enabled**: クライアントインターフェイスに [位置情報 (location)] タブを表示するかどうかを決定します。

Showiconwhenmobileパラメータが有効になっている場合、ユーザがデスクトップとモバイルクライアントの両方にログインしているときは、デスクトップの場所だけが表示されます。

Windows 上の保存されたチャットおよびファイルの場所

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	—	可

ユーザが EnableAutosaveパラメータを使用して会話を終了するたびに、インスタントメッセージおよび転送ファイルを自動的に保存できます。このパラメータは、Windows と Mac のどちらにも適用されます。(Mac 動作については、*Parameters Reference Guide*を参照してください。)

Windows では、保存されているチャットおよびファイルのデフォルトの場所は `..\documents\MyJabberChats` と `..\documents\MyJabberFiles` です。ただし、AutosaveChatsLocation パラメータを使用して別の場所を指定するか、AllowUserSelectChatsFileDirectory パラメータを使用してユーザに独自の場所を選択させることもできます。ユーザが独自のディレクトリの場所を設定できるようにした場合、そのユーザ設定はシステムで定義済みの設定に優先します。これらの Windows 限定パラメータの詳細については、ご使用のリリースに対応する『*Parameters Reference Guide*』を参照してください。

クラウド展開およびオンプレミス展開でのマルチデバイスメッセージング

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

オンプレミス展開でのマルチ デバイスメッセージングには、Cisco Unified Communications Manager IM and Presence 11.5 が必要です。

複数のデバイスにサインインしているユーザは、どのデバイスがアクティブの場合でも、各デバイスで送受信されたすべての IM を確認できます。通知は同期されます。あるデバイスで IM を表示すると、その IM はサインインしている他のデバイスでも既読と表示されます。この機能はデフォルトで有効になっていますが、Disable_MultiDevice_Message パラメータを使用して無効にすることができます。次の制限が適用されます。

- クライアントはサインインしている必要があります。サインアウトしたクライアントには、送受信された IM および通知は表示されません。
- ファイル転送はサポートされていません。ファイルは、ファイルを送信または受信したアクティブなデバイスでのみ使用できます。
- グループチャットはサポートされません。
- AES 暗号化が必要である場合は、マルチ デバイス メッセージングを有効にできません。

主要機能	説明
マルチ デバイス メッセージングに対応しているアクティブな Jabber クライアント	その会話全体で送受信したメッセージを表示します。
マルチ デバイス メッセージングに対応し、サインインしている非アクティブな Jabber クライアント	その会話全体で送受信したメッセージを表示します。
マルチ デバイス以外のメッセージングに対応している Jabber クライアントと、AES 暗号化に対応している Jabber クライアント	送信済みメッセージは送信側デバイスのみに表示されます。受信メッセージはアクティブなデバイスのみに表示されます。

パラメータの詳細については、最新の『Parameters Reference Guide for Cisco Jabber』を参照してください。

Multiple Device Messaging の有効化

この設定手順は、オンプレミス展開に適用されます。

- ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)] で、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] を選択します。
- ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウンリストから、[IM and Presence サービス パブリッシャ (IM and Presence Service Publisher)] ノードを選択します。
- ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウンリストから、[Cisco XCP ルータ (アクティブ) (Cisco XCP Router (Active))] を選択します。
- ステップ 4 [マルチデバイス メッセージングの有効化 (Enable Multi-Device Messaging)] ドロップダウンリストから [有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

People Insights

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
—	—	対応	—

People Insights では、連絡先の拡張プロファイルが利用できます。連絡先カードが表示される場所であればどこでも、連絡先リスト、会話、通話履歴、Voice Mail 履歴からユーザーは People Insights にアクセスできます。。この機能を使用すると、公にアクセス可能な情報を各ユーザープロファイルで表示できます。

また、同じ組織内の連絡先の場合は、連絡先の社内ディレクトリ情報も表示できます。この情報は、社外のユーザーに対して可視化されません。ユーザーの総合情報には、公に入手した情報とは別のデータソースに企業のディレクトリ情報が格納されています。

ユーザー総合情報プロファイルを編集することによって別のデータを追加するオプションも選べます。一部またはすべてのユーザー総合情報プロファイルを非表示にするオプションも選べます。

ユーザーの総合情報では、送信中と保存中のいずれの場合もプロファイルデータが暗号化されません。この機能は一般データ保護規制 (GDPR) に準拠しています。詳細については、[People Insights とは](#) を参照してください。

ユーザインサイト (People Insights)

始める前に

展開時に次のような条件を満たしている場合は、ユーザインサイト (People Insights) を有効にすることができます。

- 共通アイデンティティ (CI が有効であるか、または CI がリンクされている) を使用します。
- ディレクトリの同期の有効にする

ユーザインサイト (People Insights) は現在英語のみです。

ユーザインサイト (People Insights) を有効にするには、コントロールハブに移動し、設定 > ディレクトリ同期およびユーザインサイト (People Insights) を選択して、ユーザインサイト (People Insights) 表示トグルをオンにします。

常設チャットルーム

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	—	—	—



- (注) クラウドの導入では、Webex Messenger グループのチャットまたは Jabber チームメッセージングモードを、永続的なチャットルームの代わりに使用します。

常設チャットでは、ディスカッションスレッドに引き続きアクセスできます。チャットに、その時点でのアクティブユーザがいない場合でも、ルームが保持されます。ルームは、システムからユーザが明示的に削除するまで使用できます。これらのルームで、ユーザは他の場所、国、タイムゾーンのチームメンバー、顧客、パートナーと参加できます。新しいユーザは、継続中の会話のコンテキストを迅速に取得できるため、リアルタイムでのコラボレーションが容易になります。

パーシステントチャットの設定

クライアントの常設チャットルームにアクセスする前に、Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service で常設チャットを有効にして、セットアップします。常設チャットルームは、Webex Messenger モードまたは Jabber チームのメッセージモードでは利用できません。

始める前に

Cisco Jabber デスクトップクライアントの場合、常設チャットはCisco Unified Communications Manager IM and Presence Service 10.0 以降で使用できます。Cisco Jabber デスクトップクライアントの場合、常設チャットはCisco Unified Communications Manager IM and Presence Service 11.5 su5 で利用できます。

常設チャット機能をサポートするデータベース設定の詳細については、『*Database Setup for IM and Presence Service on Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。このタスクを続行する前に、データベース設定を実行する必要があります。

常設チャットでは、ローカルチャットメッセージのアーカイブを有効にしてください。Cisco Unified Communications Manager IM and Presence Service のローカルチャットメッセージのアーカイブは、[クライアントでのインスタントメッセージ履歴のログ記録を可能にする]設定を使用して有効にします。詳細については、『オンプレミス展開ガイド』の「*Enable Message Settings*」のトピックを参照してください。

複数のクライアントで Cisco Jabber にサインインする場合、メッセージを 1 回読み取ると、すべてのクライアントで読み取ったマークが付きます。

プッシュ通知サービスを有効にすると、Cisco Jabber チャットルームでプッシュ通知を受け取ります。この動作は、ユーザがデバイスから手動で Cisco Jabber を終了した場合でも継続されます。プッシュ通知の詳細については、[IM 用プッシュ通知サービス \(39 ページ\)](#) を参照してください。

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** [メッセージング (Messaging)]>[グループチャットとパーシステントチャット (Group Chat and Persistent Chat)]と選択します。
- ステップ 3** [パーシステントチャットの有効化 (Enable Persistent Chat)]を選択します。
- ステップ 4** [キャパシティの設定 (Occupancy Settings)]セクションの[同時にルームに入れるユーザ数 (How many users can be in a room at one time)]と[同時にルームに入れる非表示ユーザ数 (How many hidden users can be in a room at one time)]が、ゼロ以外の同一の値であることを確認します。
- ステップ 5** ご使用のパーシステントチャット展開に合わせて残りの設定を行います。Cisco は、次の表の常設チャット設定をお勧めします。

(注) 常設チャットルームは、作成時のセットアップを継承します。後で行った変更は、既存のルームには適用されません。これらの変更は、変更を有効にした後で、作成されたルームにのみ適用されます。

パーシステント チャット設定	推奨値	注記
プライマリグループチャットサーバのエイリアスをシステムで自動的に管理する (System automatically manages primary group chat server aliases)	無効	
パーシステントチャットの有効化 (Enable Persistent Chat)	[有効 (Enabled)]	
すべてのルームの参加および終了をアーカイブ (Archive all room joins and exits)	管理者指定 (Administrator Defined)	常設チャットでは、現在、この値を使用していません。
すべてのルームメッセージのアーカイブ (Archive all room messages)	[有効 (Enabled)]	
グループチャットのシステム管理者のみのパーシステントチャットルームの作成を許可する (Allow only group chat system administrators to create persistent chat rooms)	管理者指定 (Administrator Defined)	
許可されるパーシステントチャットルームの最大数 (Maximum number of persistent chat rooms allowed)	管理者指定 (Administrator Defined)	
データベース接続数	デフォルト値	
データベース接続のハートビート間隔 (秒) (Database connection heartbeat interval (seconds))	デフォルト値	
パーシステントチャットルームのタイムアウト値 (分) (Timeout value for persistent chat rooms (minutes))	デフォルト値	
許可されるルームの最大数 (Maximum number of rooms allowed)	デフォルト値	
デフォルトではルームはメンバー専用です (Rooms are for members only by default)	無効	
ルームのオーナーは、ルームをメンバー専用にするかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not rooms are for members only)	[有効 (Enabled)]	Cisco Jabberがこの値を 有効 にする必要があります。
他のユーザをメンバー専用ルームに招待できるのはモデレーターのみです (Only moderators can invite people to members-only rooms)	[有効 (Enabled)]	Cisco Jabberがこの値を 有効 にする必要があります。

パーシステント チャット設定	推奨値	注記
ルームのオーナーは、他のユーザをメンバー専用ルームに招待できるのはモデレーターに限定するかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not only moderators can invite people to members-only rooms)	[有効 (Enabled)]	
ユーザは自分自身をメンバーとしてルームに追加できます (Users can add themselves to rooms as members)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルームのオーナーは、ユーザが自分自身をメンバーとしてルームに追加できるようにするかどうかを変更できます (Room owners can change whether users can add themselves to rooms as members)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルーム内にいないメンバーや管理者がルームに表示されたままです (Members and administrators who are not in a room are still visible in the room)	[有効 (Enabled)]	Cisco Jabber では、このセットアップを有効にする必要があります。
ルームのオーナーは、ルーム内にいないメンバーや管理者がルームに表示されたままにするかどうかを変更できます (Room owners can change whether members and administrators who are not in a room are still visible in the room)	[有効 (Enabled)]	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルームは古いクライアントと下位互換性があります (Rooms are backwards-compatible with older clients)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルームのオーナーは、ルームが古いクライアントと下位互換性があるかようにするかどうかを変更できます (Room owners can change whether rooms are backwards-compatible with older clients)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
デフォルトで、ルームは匿名です (Rooms are anonymous by default)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットでサポートしていません。Cisco Jabberは匿名ルームに参加できません。
ルームのオーナーは、ルームを匿名にするかどうかを変更できます (Room owners can change whether or not rooms are anonymous)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットでサポートしていません。Cisco Jabberは匿名ルームに参加できません。

パーシステント チャット設定	推奨値	注記
他のユーザをルームに招待できるユーザの最低参加レベル (Lowest participation level a user can have to invite others to the room)	デフォルト値	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルームのオーナーは、他のユーザをルームに招待できるユーザの最低参加レベルを変更できません (Room owners can change the lowest participation level a user can have to invite others to the room)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
同時にルームに入れるユーザ数 (How many users can be in a room at one time)	管理者指定 (Administrator Defined)	シスコはデフォルト値を使用することを推奨します。
同時にルームに入れる非表示ユーザ数 (How many hidden users can be in a room at one time)	管理者指定 (Administrator Defined)	
デフォルトのルームの最大キャパシティ (Default maximum occupancy for a room)	デフォルト値	
ルームのオーナーは、デフォルトのルームの最大キャパシティを変更できます (Room owners can change default maximum occupancy for a room)	デフォルト値	
ルーム内からプライベートメッセージを送信できるユーザの最低参加レベル (Lowest participation level a user can have to send a private message from within the room)	デフォルト値	
ルームのオーナーは、ルーム内からプライベートメッセージを送信できるユーザの最低参加レベルを変更できます (Room owners can change the lowest participation level a user can have to send a private message from within the room)	デフォルト値	
ルームの話題を変更できるユーザの最低参加レベル (Lowest participation level a user can have to change a room's subject)	モデレータ (Moderator)	
ルームのオーナーは、ルームの話題を変更できるユーザの最低参加レベルを変更できます (Room owners can change the lowest participation level a user can have to change a room's subject)	無効	

パーシステント チャット設定	推奨値	注記
メッセージからすべてのXHTMLフォーマットを削除 (Remove all XHTML formatting from messages)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルームのオーナーは、XHTMLフォーマットの設定を変更できます (Room owners can change XHTML formatting setting)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
デフォルトで、ルームの議論を管理 (Rooms are moderated by default)	無効	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
ルームオーナーは、デフォルトでルームをモデレータ管理ルームにするかどうかを変更できません (Room owners can change whether rooms are moderated by default)	デフォルト値	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。
アーカイブから取得できるメッセージの最大数 (Maximum number of messages that can be retrieved from the archive)	デフォルト値	
デフォルトでチャット履歴に表示されるメッセージ数 (Number of messages in chat history displayed by default)	管理者指定 (Administrator Defined)	Ciscoでは15から50の値を推奨しています。[デフォルトで表示されるチャット履歴のメッセージ数 (Number of messages in chat history displayed by default)]は、過去に遡って常設チャットルームに適用することはできません。
ルームのオーナーはチャット履歴に表示されるメッセージ数を変更できます (Room owners can change the number of messages displayed in chat history)	デフォルト値	Cisco Jabberはこの値を常設チャットに使用していません。

次のタスク

常設チャットのクライアント固有のパラメータを設定していることを確認します。

- **デスクトップクライアント:** Persistent_Chat_Enabledを**true**に設定します。
- **モバイルクライアント:** Persistent_Chat_Mobile_Enabledを**true**に設定します。

チャットルームでのファイル転送を有効にします。詳細については、『*Enable File Transfer and Screen Captures for Group Chats and Chat Rooms*』を参照してください。

常設チャットルームの管理とモデレータ管理

Jabber クライアントでは、ルームの作成、モデレータの委任、メンバーの指定を行うことで、常設チャットルームを管理できます。Jabber は、ルームを作成するノードを自動的に選択します。また、上書きや、特定のノードの指定が可能です。管理者およびモデレータは常設チャットルーム内の特権ユーザです。IM and Presence サーバー上で管理者になっているサービスノードの常設チャットルームを管理できます。

管理者機能

管理者は、ハブクライアント ウィンドウの [パーシステント チャット (Persistent Chat)] の [すべてのルーム (All Rooms)] タブから次のタスクを実行できます。

- ルームの作成。ルームを作成すると、作成者は自動的にルーム管理者になります。
- チャット ルームの最大 30 名のモデレータ (ルームのオーナーになる) の定義および変更
- ルーム名の指定および変更。
- ルームの最大参加者数の定義。この数は、すでにルームに参加している参加者数未満にはできません。
- ルーム メンバーの追加および削除。
- 参加者のブロック、削除、および取り消し。
- ルームの破棄 (サーバから削除されますが、履歴は削除されません)。



(注) 管理者は、モバイルクライアント用 Cisco Jabber でルームを作成したりモデレータに追加または削除したりできず、参加者をブロックまたは取り消しを行うこともできません。

モデレータの機能

管理者は、1 つの常設チャットルームごとに最大 30 名までモデレータを定義できます。モデレータは次のタスクを実行できます。

- ルームの主題の変更
- メンバーの編集 (追加、削除、入出禁止など)

ルームの作成

会議室を作成するときに、これらのプロパティを設定できます。

- ルーム名 (必須、最大 200 文字)
- 説明

- ルームのタイプ（パブリックまたは限定的）
ルームの種類を定義した後は、どのユーザもそれを変更することはできません。
- Location
会議室を作成するノードを決定します。詳細については、[常設チャットルームの負荷分散（36 ページ）](#) を参照してください。
- マイルーム（My Rooms） タブにルームを追加かするかどうかを指定します。
- 最大 30 名のモデレータ（ルームの司会をするために有効な Jabber ID を持っている必要のある人物）の追加
- ルーム パスワード

ルームを作成すると、そのルームに、すぐにまたは後で、メンバーを追加できます。[すべての会議室（All Rooms）] リストを更新して、利用可能な会議室に新しい会議室を表示します。

常設チャットルームの負荷分散

新しい常設チャットルームを作成すると、Jabber はデフォルトでランダムなノードにルームを割り当てます。[場所（Location）] ドロップダウンから特定のノードに会議室を指定することもできます。

参加者が同じ地域にいる場合、ホームクラスタ内に会議室を作成すると、より良いパフォーマンスが得られます。Jabber にホームクラスタに永続的なチャットルームを指定させることができます。[新しい会議室（New Room）] ダイアログの [場所（Location）] ドロップダウンで、[自動選択（Automatically select）] から選択できます。



(注) この機能を使用するには、IM and Presence Service リリース 14 SU 1 が必要です。

常設チャットルームのパスワードの有効化

パスワード保護された常設チャットルームは、ユーザが Jabber セッション内のルームに入るときに、パスワードを入力する必要があることを意味します。パスワード保護されたルームは XMPP 標準機構の XEP-0045 仕様に準拠しています。

-
- ステップ 1** ルームのパスワードを設定するには、ハブウィンドウの [チャットルーム（Chat Rooms）] タブから、[すべてのルーム（All rooms）] > [新しいルーム（New room）] > [パスワード（Password）] の順に選択します。
- ステップ 2** ルームのパスワードを変更するには、チャットルームを開いて、[ルームの編集（Edit Room）] をクリックし、[パスワード（Password）] を選択してから、パスワードを編集して保存します。
-

制約事項

Disable_IM_History パラメータを無効にすると、それは永続的なチャットルームの @メンション 機能に影響します。

シスコ ヘッドセットを使用したプレゼンスの同期

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

Jabber 12.9 よりも前のリリースでは、デスクトップクライアントが一部のシスコヘッドセットのプレゼンス LED をオン/オフにして、通話中に表示することができます。Jabber 12.9 では、ヘッドセットのプレゼンス LED を手動で切り替えようとする、Jabber は、自分のプレゼンスを DND に設定することによって、その変更を反映することができます。

プレゼンス サブスクリプション要求のプロンプト

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

社内の連絡先からのプレゼンスサブスクリプション要求のプロンプトを有効、無効のいずれかにすることができます。クライアントは、社外の連絡先からのプレゼンスサブスクリプション要求には、ユーザに許可を求めるプロンプトを常に表示します。

ユーザは、クライアントのプライバシー設定を次のように指定します。

社内（Inside Your Organization）

ユーザは社内の連絡先を許可するかブロックするかを選択できます。

- ユーザがプレゼンス サブスクリプション要求を許可することを選択し、
 - [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンス ステータスを表示できるようにする（**Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval**）]を選択した場合、クライアントはユーザにプロンプトを表示せずに、すべてのプレゼンス サブスクリプション要求を自動的に許可します。
 - [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンス ステータスを表示できるようにする（**Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval**）]を選択しない場合、クライアントはすべてのプレゼンス サブスクリプション要求でユーザにプロンプトを表示します。
- ユーザが連絡先をブロックすることを選択した場合、既存の連絡先のみがそれらのユーザの在席ステータスを参照できます。つまり、ユーザのプレゼンスにサブスクライブ済みの連絡先のみが在席ステータスを確認できます。



- (注) 組織内で連絡先を検索する際は、組織内のすべてのユーザの一時的な在席ステータスが表示されます。しかし、ユーザ A がユーザ B をブロックした場合、ユーザ B には、検索一覧内のユーザ A の一時的な在席ステータスは表示されません。

社外（Outside Your Organization）

ユーザは、社外の連絡先に対する処理を次のオプションから選択できます。

- クライアントがプレゼンス サブスクリプション要求ごとにプロンプトを表示する。
- 既存の連絡先のみが在席ステータスを参照できるよう、すべての連絡先をブロックする。つまり、ユーザのプレゼンスにサブスクライブ済みの連絡先のみが在席ステータスを確認できます。

始める前に

この機能は、オンプレミス展開でサポートされ、Cisco Unified Communications Manager リリース 8.x 以降でのみ利用できます。

ステップ 1 [Cisco Unified CM IM and Presence の管理（Cisco Unified CM IM and Presence Administration）] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [プレゼンス（Presence）] > [設定（Settings）] の順に選択します。

[プレゼンスの設定（Presence Settings）] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [確認プロンプトなしで、ユーザが他のユーザのプレゼンス ステータスを表示できるようにする (Allow users to view the availability of other users without being prompted for approval)] を選択し、プロンプトを無効にして、社内からのすべてのプレゼンス サブスクリプション要求を自動的に許可します。

このオプションには、次の値があります。

- **[選択済み (Selected)]** : クライアントはプレゼンスサブスクリプション要求に対してユーザにプロンプトを表示しません。クライアントはユーザにプロンプトを表示せずに、すべてのプレゼンスサブスクリプション要求を自動的に許可します。
- **クリア済み (Cleared)** : クライアントは、プレゼンスサブスクリプション要求を許可するかどうか尋ねるプロンプトをユーザに表示します。この設定では、ユーザの在席ステータスを社内のほかのユーザが見られる状態である必要があります。

ステップ 4 保存を選択します。

IM 用プッシュ通知サービス

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
—	—	あり	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	—

IM のプッシュ通知サービスは、Cisco Jabber が非アクティブになった場合、または終了された場合、ユーザによってクローズされた場合でも、Cisco Jabber に新しい IM 通知を転送します。Cisco Jabber は、クラウドおよびオンプレミスの展開モード用プッシュ通知サービスをサポートしています。Cisco Jabber のサポート対象:

- iPhone and iPad 版 Apple プッシュ通知サービス (APNs)
- Android 版 Firebase クラウドメッセージング (FCM)

オンプレミスおよびクラウドの展開用のプッシュ通知サービスを導入するには、「プッシュ通知導入ガイド」 (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>) を参照してください。

Apple プッシュ通知 (APN) のプッシュ通知サービスを受け取るには、ポート 5223 および 443 が開いている必要があります。Firebase クラウドメッセージング (FCM) のプッシュ通知サービ

スを受け取るには、ポート 5228、5229、5230、443 が開いている必要があります。ポートの詳細については、『*Planning Guide for Cisco Jabber*』の「*Ports and Protocols*」のセクションを参照してください。

プッシュ通知サービスを有効にするには、パラメータ `Push_Notification_Enabled` (iOS 向け) および `FCM_Push_Notification_Enabled` (Android 向け) を設定する必要があります。このパラメータの設定の詳細については、最新版『*Parameter Reference Guide for Cisco Jabber*』を参照してください。

iPhone および iPad 版 Cisco Jabber リリース 12.1 以降、この機能は、エンドツーエンドの暗号化されたインスタントメッセージと Jabber ツー Jabber のコール向けの高度暗号化標準 (AES) をサポートしています。



(注) iOS 上の Jabber MAM のクライアントは、IM 向けのプッシュ通知はサポートせず、ボイスコールのプッシュ通知のみをサポートします。

ログイン時のチャットの復元

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

この機能を使用すると、開いているチャットセッションを次回のサインイン時に復元するかどうかを指定できます。これは 1:1 チャットにのみ適用されます。

デスクトップクライアントの場合、この機能は `RestoreChatOnLogin` パラメータを使用して設定します。このパラメータが `true` の場合、クライアントの [全般 (General)] タブにある [開いている会話を記憶する (Remember my open conversations)] チェックボックスが選択されます。このチェックボックスは、ユーザが初めて Cisco Jabber にサインインした際に、デフォルトでオフになっています。

モバイルクライアントの場合、この機能は `RememberChatList` パラメータを使用して設定されます。パラメータをオンに設定すると、ユーザのチャットリストは保存され、Jabber を再起動した後に復元されます。また、チャットリストの保存のオプションもクライアントで使用できます。

このパラメータの詳細については、ご使用のリリースに対応する『*Parameter Reference Guide*』を参照してください。

一時プレゼンス

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

プライバシー制御強化のために一時プレゼンスを無効化します。このパラメータを設定すると、Cisco Jabber がユーザの連絡先リスト内の連絡先にだけアベイラビリティ ステータスを表示します。

始める前に

この機能は、オンプレミス展開でサポートされ、Cisco Unified Communications Manager リリース 9.x 以降が必要です。

-
- ステップ 1** [Cisco Unified CM IM and Presence の管理 (Cisco Unified CM IM and Presence Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2** プレゼンス > 設定 > 標準設定 を選択します。
- ステップ 3** [アドホック プレゼンス サブスクリプションを有効にする (Enable ad-hoc presence subscriptions)]チェックボックスをオフにして、[保存 (Save)]を選択します。

Cisco Jabber は一時的なプレゼンスを表示しません。ユーザは、各自の連絡先リスト内の連絡先のみのアベイラビリティ ステータスを確認できます。



第 3 章

音声およびビデオ

- [CMS ミーティング用ミーティングコントロール \(44 ページ\)](#)
- [Webex Meetings のミーティング制御 \(45 ページ\)](#)
- [CMR ミーティング用ミーティングコントロール \(46 ページ\)](#)
- [ブリッジのエスカレーション \(49 ページ\)](#)
- [コールパーク \(50 ページ\)](#)
- [コールピックアップ \(50 ページ\)](#)
- [Dial via Office \(57 ページ\)](#)
- [遠端カメラ制御 \(FECC\) \(65 ページ\)](#)
- [フレキシブル DSCP 値 \(66 ページ\)](#)
- [ハントグループ \(67 ページ\)](#)
- [Jabber 間コール \(71 ページ\)](#)
- [ボイスメールを使用しないユーザが通話無視できるようにする \(75 ページ\)](#)
- [携帯電話に移動 \(76 ページ\)](#)
- [マルチライン \(81 ページ\)](#)
- [パーソナルルーム \(83 ページ\)](#)
- [Cisco Jabber ビデオおよび音声通話のプッシュ通知サービス \(84 ページ\)](#)
- [単一番号リーチ \(87 ページ\)](#)
- [URI ダイヤル \(89 ページ\)](#)
- [ボイスメールの無効化 \(92 ページ\)](#)
- [ボイスメッセージ \(96 ページ\)](#)
- [自動応答コール \(98 ページ\)](#)
- [シスコユニファイドコンタクトセンターを備えた Jabber \(98 ページ\)](#)
- [電話番号解決リクエストのサーバ負荷の軽減 \(99 ページ\)](#)

CMS ミーティング用ミーティングコントロール

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	はい

Jabber は、Cisco Meeting Server (CMS) アクティブコントロール機能を使用してミーティングコントロール機能を提供します。ミーティングコントロール機能には、参加者リスト、参加者のミュート、参加者のドロップ、ビデオレイアウトの変更などがあります。

ActiveControl を使用するには、展開時に次のものがが必要です:

- エンドポイントと会議サーバー間のコールパスは、iXメディアエンドツーエンドをサポートします。
- ミーティングサーバーで有効にされた適切なアクセス許可。

CMS の使用の詳細については、『[Cisco Meeting Server, Deployments with Expressway Planning and Preparation Guide](#)』を参照してください。

リリース 12.5 の時点で、Jabber は、ActiveControl を介して SIP デバイスとして Cisco Meeting Server 会議にアクセスできます。次のいずれかの方法で ActiveControl 会議に入室できます。

- CMS で設定されているルームへのダイヤル
- CMS 室が会議ブリッジとして設定されている場合の 2 つのコールのマージ

始める前に

アクティブコントロールを設定するには、次の情報が必要です。

- Cisco Meeting Server リリース 2.3 以降
- Cisco Unified Communications Manager



(注) これらは、ActiveControl の完全にサポートされたリリースです。Unified CM および Expressway の以前のリリースでは、Expressway 上のコントロール機能はサポートされていませんでした。

- ステップ 1** SIP シグナルを使用した通信を有効にするために、CMS を使用して Cisco Unified Communications Manager の SIP トランクを設定します。詳細については、『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』を参照してください。
- ステップ 2** 着信および発信 SIP コールをルーティングするように、Cisco Unified Communications Manager のルートパターンを設定します。詳細については、『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager の Configure Call Routing](#)』の章を参照してください。
- ステップ 3** CMS 内で、Cisco Unified Communications Manager サーバへの発信 SIP コールルーティング用のルールを設定します。詳細については、『[Cisco Meeting Server with Cisco Unified Communications Manager Deployment Guide](#)』を参照してください。
- ステップ 4** 会議リソースを管理するには、CMS スペースを設定します。詳細については、『[Cisco Meeting Server Release API Reference Guide](#)』を参照してください。

Webex Meetings のミーティング制御

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	はい

Cisco Jabber を設定すると、ユーザは Webex を起動せずに Jabber から Webex ミーティングに参加できるようになります。

- ステップ 1** 発信ファイアウォールを、次のドメインを許可するように設定します: *.ciscopark.com、*.wbx2.com、*.webex.com、*.clouddrive.com
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager の SIP トランクを MRA 用の Expressway で設定し、次に SIP 信号を使用した通信を有効にする Webex を使用します。詳細については、『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager](#)』を参照してください。
- ステップ 3** 着信および発信 SIP コールをルーティングするように、Cisco Unified Communications Manager のルートパターンを設定します。詳細については、『[System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager の Configure Call Routing](#)』の章を参照してください。

ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager サーバへの発信 SIP コールのルーティングについて、Webex でのルールを設定します。詳細については、『[For more information, see the Cisco Meeting Server 2.3 with Cisco Unified Communications Manager Deployment Guide](#)』を参照してください。

CMR ミーティング用ミーティングコントロール

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
—	はい	はい	はい

Cisco Collaboration Meeting Rooms (CMR) Cloud を使用すると、Cisco Webex ミーティングに参加したり開始したりするのが簡単です。Cisco Jabber でユーザは、Cisco Webex インターフェイスでミーティングにアクセスしたり、ビデオでミーティングに参加したりする権利が付与されます。

スケジュールされた CMR クラウド会議では、参加者の CMR クラウド参加エクスペリエンスに制限があります。この制限は、Outlook 予定表の統合を有効にしていない Mac ユーザや Windows ユーザです。サーバの制限により、これらの展開シナリオへの参加者は、Cisco Webex を使用することでのみミーティングに参加できます。ホストはすべてのエクスペリエンスを享受し、アドホック CMR クラウド会議への参加を招待されたユーザも同様に享受できます。

CTIコントロールモードのユーザは、Webex から参加するのではなく直接参加できます。

次の表は、ミーティング参加方法に関する Cisco Meeting Server としての Jabber サポートの一覧です。

ミーティングに参加	Jabber のサポート
ウェルカムページのクロスリリースからミーティングに参加	N
予定表からミーティングに参加	N
SIP URL としてミーティングに参加	Y
HTTP リンクとしてミーティングに参加	Y
ミーティング番号によるミーティング参加	Y

ミーティングに参加	Jabber のサポート
PIN (ホストとゲスト) を使用したミーティング参加	代わりに会議室番号を使用
ミーティングにもう一度参加する	Y



- (注) リリース 12.7 では、Jabber のデスクトップユーザは Jabber または Webex からミーティングに参加できます。管理者は、クライアントが使用するデフォルトを設定できます。この場合、選択はクライアントに表示されません。

次の表は、Cisco Jabber がクライアントにサポートされている CMR コントロールの一覧を示します。

コントロール	Jabber for Windows	Jabber for Mac	Jabber for Android	Jabber for iPhone/iPad	Jabber ソフトフォン for VDI
デバイスインジケータ (ビデオと音声)	Y	Y	N	N	Y
アクティブスピーカー	Y	Y	Y	Y	Y
参加者リスト (ホストとゲスト)	Y	Y	Y	Y	Y
ホストの指名	Y	Y	Y	Y	Y
ミュート/ミュート解除	Y	Y	Y	Y	Y
全員をミュート/全員をミュート解除	Y	Y	Y	Y	Y
自己ミュート/ミュート解除	Y	Y	Y	Y	Y
参加者の切断	Y	Y	Y	Y	Y
ロビーのユーザーを許可する	Y	Y	Y	Y	Y
ロビーで待機中	Y	Y	Y	Y	Y
会議の終了	Y	Y	Y	Y	Y

コントロール	Jabber for Windows	Jabber for Mac	Jabber for Android	Jabber for iPhone/iPad	Jabber ソフトフォン for VDI
ミーティングの退室とホストの割り当て	Y	Y	Y	Y	Y
ミーティングをロックまたはロック解除する	Y	Y	Y	Y	Y
録音の開始および停止	Y	Y	Y	Y	Y
ミーティングリンクのコピー	Y	Y	N	N	Y
ビデオレイアウト	Y	Y	Y	Y	Y
デスクトップ共有の送受信	Y	Y	Y	Y	Y
共有レイアウトの変更	Y	Y	Y	Y	Y
会議の情報	Y	Y	N	N	Y
録音の一時停止/再開	Y	Y	N	N	Y
参加者とチームのペアリング	Y	Y	N	N	Y
参加者の追加	N	N	N	N	N
モバイル Remote Access	Y	Y	Y	Y	Y

始める前に

Webex Meetings では、Webex Meeting Center ビデオ (CMR) のクラウドが利用できます。

ステップ1 Collaboration Meeting Rooms の設定

詳細については、<https://help.webex.com/> を参照してください。

- サイトの管理—<https://help.webex.com/en-us/6maub2/Configure-Webex-Meetings-in-Cisco-Webex-Site-Administration>

- 制御ハブ—<https://help.webex.com/en-us/n8pgczj/Configure-Teleconferencing-Options-for-a-Webex-Site-in-Cisco-Webex-Control-Hub>

- ステップ 2** Cisco Webex Meetings のユーザに対してコラボレーション会議室 (Collaboration Meeting Rooms) が有効にします。
- ステップ 3** お使いの Webex サイトの共通アイデンティティ (CI) を有効にします。
- Webex サイトで CI を有効化していない場合、Jabber からのミーティングに参加するユーザは、音声とビデオの制御のみを取得できます。また、これらの画面を共有することもできます。
- ステップ 4** Collaboration Meeting Rooms 機能では SIP URI が使用されるので、Cisco Unified Communications Manager のユーザに対して URI ダイアルを有効にする必要があります。URI ダイアルの詳細については、*URI ダイアル* のトピックを参照してください。

ブリッジのエスカレーション

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ブリッジエスカレーションを使用すると、グループチャットを即座に電話会議へとエスカレーションできます。参加者は自動的に追加されるので、参加者を電話会議にマージする必要はありません。

- ステップ 1** Cisco Jabber クライアントでブリッジエスカレーションを有効にするには、jabber-config.xml ファイルで EnableBridgeConferencing パラメータを true に設定します。
- ステップ 2** (任意) jabber-config.xml ファイルで、UserBridgeUriAdmin パラメータにルーム URI のマスクを指定します。マスクを指定しない場合、ユーザはクライアントで DN または SIP URI を入力できます。
- ステップ 3** URI ダイアルを有効にして、ユーザが電話会議番号の SIP URI を入力できるようにします。URI ダイアルの詳細については、*URI ダイアル* のトピックを参照してください。

コールパーク

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

コールパークを使用すれば、通話を保留にして、Cisco Unified Communications Manager システム内の別の電話でその通話を取ることができます。コールパークは有効である必要があり、内線番号はクラスタ内の Cisco Unified Communications Manager ノードごとに定義する必要があります。コールパーク内線番号として使用するために、単一のディレクトリ番号を定義することも、ディレクトリ番号の範囲を定義することもできます。

コールパークを有効にするには、次の作業を実行します。詳細については、『*Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

ステップ 1 クラスタ全体のコールパークの設定

(オプション) クラスタ全体のコールパークを設定するか、ステップ 3 の手順を使用してクラスタ内の個別のノードにコールパークを設定します。

ステップ 2 パーティションの設定

コールパーク番号を追加するためのパーティションを作成します。

ステップ 3 コールパーク番号の設定

クラスタ内のノード全体でコールパークを使用するためのコールパーク番号を設定します。

コールパーク内線番号として使用するために、単一のディレクトリ番号を定義することも、ディレクトリ番号の範囲を定義することもできます。各コールパーク内線番号にパークできるコールは1つだけです。

コールピックアップ

コールピックアップ機能により、ユーザは自分以外の電話番号に着信したコールに応答できます。コールピックアップグループがディレクトリ番号を割り当てました。Cisco Unified

Communications Manager (Unified CM) は、適切なコール ピックアップ グループ番号を自動的にダイヤルします。ユーザは [**ピックアップ (Pickup)**] を選択してコールに応答します。

グループ コール ピックアップ

この設定により、ユーザは別のグループの着信通話を受け取ることができます。ユーザがグループ ピックアップ番号を入力して、**ピックアップ** を選択すると、Unified CM は適切なコールピックアップグループ番号に自動的にダイヤルします。ユーザは、そのグループで利用可能な通話をピックアップできます。

他のグループのピックアップ

他のグループピックアップ機能を使用すると、ユーザは自分のグループに関連付けられているグループ内の着信コールをピックアップできます。ユーザが [**その他のピックアップ (Other Pickup)**] を選択すると、Unified CM は関連付けられているグループ内の着信コールを自動的に検索しコール接続を確立します。

ダイレクト コール ピックアップ

この設定を使用すると、ユーザはディレクトリ番号への着信コールをピックアップできます。ユーザがディレクトリ番号を入力して、**ピックアップ** を選択すると、Unified CM は着信コールを接続します。

コールピックアップを有効にするには、サポートするコールピックアップのタイプに応じて、jabber-config.xml ファイルで次のパラメータを使用します。

```
<Policies>
  <EnableCallPickup>true</EnableCallPickup>
  <EnableGroupCallPickup>true</EnableGroupCallPickup>
  <EnableOtherGroupPickup>true</EnableOtherGroupPickup>
  <EnableHuntGroup>true</EnableHuntGroup>
</Policies>
```

コールピックアップの設定の詳細については、『*Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

コールピックアップ通知

着信コールが複数ある場合は、「コールピックアップ」という通知が表示されます。ユーザはコールに応答すると、呼び出し時間が最長の着信コールに接続されます。

デスクフォンモード

デスクフォンモードでは、次の制約事項が適用されます。

- Unified CM の通知設定は、ピックアップグループではサポートされません。「*CallerA -> CallerB*」というコールピックアップ通知が表示されます。
- 音声と映像に対する Unified CM の設定はサポートされません。常に、ビジュアルアラートが表示されます。

共用回線の動作

デスクフォンと、共有回線を備えたコンピューターでの音声も使用しているユーザに対しては、次の制限が適用されます。

- 使用可能なコールがない場合にデスクフォンを使用してコールのピックアップを試みると、ソフトフォンに「*No call available for PickUp* (ピックアップできるコールなし)」というメッセージが表示されます。
- コールが利用できない場合にデスクフォンを使用してコールのピックアップを試みると、ソフトフォンに「ピックアップ可能コールなし (*No call available for PickUp*)」というメッセージがクライアントで表示されます。

ユーザは関連付けられたグループのメンバーではありません

ユーザが関連グループのメンバーではないときに、別のピックアップグループにコールが着信した場合：

- 着信コールをピックアップするのにダイレクトコールピックアップが使用できます。
- グループピックアップ機能は動作しません。

グループコールピックアップ機能およびダイレクトピックアップ機能の使用時に予想される動作

グループコールピックアップ機能およびダイレクトピックアップ機能の使用時に予想される動作は、次のとおりです。

- 無効な数字を入力すると
 - コンピュータモードの音声: 会話ウィンドウが表示され、即座にアナウンサーが聞こえます。
 - デスクフォンモード: 会話ウィンドウ、高速ビジートーン、またはアナウンサーが発生し、その後に高速ビジートーンが続き、「ピックアップ失敗」のエラーメッセージが表示されます。
- アクティブなコールがない状態で有効な番号を入力すると、次のようにピックアップできます。
 - コンピュータモードの音声: ヘッドセットのトーン、会話ウィンドウが表示されず、「*No call available for pickup* (ピックアップできるコールなし)」のエラーメッセージが表示されます。
 - デスクフォンモード: 会話ウィンドウなし、エラーメッセージ「*No call available for pickup* (ピックアップできるコールなし)」のエラーメッセージが表示されます。
- 関連グループのディレクトリ番号を入力したが、その時点でピックアップできるコールがない場合:
 - コンピュータモードの音声: ヘッドセットのトーン、会話ウィンドウが表示されず、「*No call available for pickup* (ピックアップできるコールなし)」のエラーメッセージが表示されます。

- デスクフォンモード：会話ウィンドウなし、エラーメッセージ「*No call available for pickup*（ピックアップできるコールなし）」のエラーメッセージが表示されます。
- 同じ Unified CM ノードに属すが関連グループにはない電話のディレクトリ番号を入力した場合：
 - コンピュータモードの音声：会話ウィンドウの表示、高速ビジー音。
 - デスクフォンモード：会話ウィンドウの表示、高速ビジー音、「*Pickup faile*（ピックアップ失敗）」のエラーメッセージが表示されます。
- 有効なグループの最初の桁を入力した場合：
 - コンピュータモードの音声：ヘッドセットにトーン、会話ウィンドウの表示、15 秒後にアナンシエータ、それに続いて高速ビジー音。
 - デスクフォンモード：会話ウィンドウの表示、15 秒後にアナンシエータ、高速ビジー音、「*Pickup faile*（ピックアップ失敗）」のエラーメッセージが表示されます。。

コールピックアップグループに含まれていないデスクフォンを使用したコールピックアップユーザが、コールピックアップグループ外のデスクフォンからコールピックアップをしようとすると、一瞬、会話ウィンドウが表示されます。ユーザがコールピックアップグループのメンバーでない場合は、そのユーザによるコールピックアップ機能の使用を設定しないでください。

オリジナルの受信者情報が使用不可

Unified CM の自動コールピックアップ有効 (*Auto Call Pickup Enabled*) が `true` に設定されている場合に、コールをコンピュータの音声 (*audio-on-computer*) モードでピックアップすると、クライアントで受信者情報を使用できなくなります。設定が `false` の場合は、受信者情報を利用できます。

コールピックアップグループの設定

コールピックアップグループ機能により、ユーザは自分のグループ内の着信コールをピックアップできます。

ステップ 1 [Cisco Unified Communication Manager]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コールルーティング (Call Routing)] > [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] の順に選択します。

[コールピックアップグループの検索と一覧表示 (Find and List Call Pickup Groups)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。

[コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 コールピックアップグループの情報を入力します。

- a) コールピックアップグループに対して一意の名前を指定します。
- b) コールピックアップグループに対して一意の電話番号を指定します。
- c) 説明を入力します。
- d) パーティションを選択します。

ステップ 5 (任意) [コールピックアップグループの通知設定 (Call Pickup Group Notification Settings)] セクションで、音声通知または視覚的通知を設定します。

- a) 通知ポリシーを選択します。
- b) 通知タイマーを指定します。

コールピックアップグループの通知設定の詳細については、関連する Cisco Unified Communications Manager のマニュアルでコールピックアップに関するトピックを参照してください。

ステップ 6 保存を選択します。

次のタスク

電話番号にコールピックアップグループを割り当てます。

電話番号の割り当て

電話番号にコールピックアップグループを割り当てます。コールピックアップグループに割り当てられた電話番号だけが、コールピックアップ、グループコールピックアップ、他のグループピックアップ、ダイレクトコールピックアップを使用できます。

始める前に

電話番号にコールピックアップグループを割り当てる前に、コールピックアップグループを作成する必要があります。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 次のいずれかの方法で、電話番号にコールピックアップグループを割り当てます。

- [コールルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択し、電話番号を検索して選択し、[コール転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)] エリアで、コールピックアップグループのドロップダウンリストからコールピックアップグループを選択します。
- [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択し、電話を検索して選択し、[関連付け情報 (Association Information)] リストで、コールピックアップグループを割り当てる電話番号を選択します。

ステップ3 データベースに変更を保存するには、[保存 (Save)] を選択します。

他のコール ピックアップの設定

他グループピックアップ機能を使用すると、ユーザは関連グループの着信コールをピックアップできます。ユーザが **[他グループ (Other Pickup)]** を選択すると、Cisco Unified Communications Manager は関連グループ内の着信コールを自動的に検索し、コール接続を実行します。

始める前に

開始する前に、コール ピックアップ グループを設定してください。

ステップ1 **Cisco Unified Communication Manager Administration** インターフェイスを開きます。

ステップ2 [コール ルーティング (Call Routing)] > [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)] の順に選択します。

[コール ピックアップ グループの検索と一覧表示 (Find and List Call Pickup Groups)] ウィンドウが開きます。

ステップ3 コール ピックアップ グループを選択します。

[コール ピックアップ グループの設定 (Call Pickup Group Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ4 [関連付け先コール ピックアップ グループ情報 (Associated Call Pickup Group Information)] セクションでは、以下を実行できます。

- コール ピックアップ グループを検索し、現在関連付けられているコール ピックアップ グループに追加する。
- 関連付けられているコール ピックアップ グループの順序を変更する、またはコール ピックアップ グループを削除する。

ステップ5 保存を選択します。

ダイレクト コール ピックアップの設定

ダイレクトコールピックアップ機能を使用すると、着信コールを直接ピックアップできます。ユーザはクライアントに電話番号を入力し、**[ピックアップ (Pickup)]** を選択します。Cisco Unified Communications Manager は関連するグループ メカニズムを使用して、ユーザがダイレクト コール ピックアップ機能を使って着信コールをピックアップできるかどうかを制御します。

ダイレクト コール ピックアップを有効にするには、ユーザの関連グループに電話番号が属するピックアップグループを含める必要があります。

ユーザがこの機能を起動し、着信コールをピックアップする電話番号を入力すると、ユーザは指定した電話に着信するコールに接続されます。そのコールが電話番号が属するコールピックアップグループ内で最も長く鳴っているコールかどうかは問われません。

ステップ 1 コール ピックアップ グループを設定し、関連グループを追加します。関連グループのリストには 10 グループまで含めることができます。

詳細については、他のグループピックアップ機能に対するピックアップグループの定義に関するトピックを参照してください。

ステップ 2 Auto Call Pickup Enabled サービス パラメータを有効にして、ダイレクト コール ピックアップでコールに自動的に応答するようにします。

詳細については、自動コール ピックアップの設定に関するトピックを参照してください。

自動コール ピックアップ

Auto Call Pickup Enabled サービス パラメータを有効にすると、コールピックアップ、グループピックアップ、他のグループピックアップ、ダイレクト コール ピックアップを自動化できます。このパラメータが有効になっている場合、Cisco Unified Communications Manager は、ユーザが電話で適切なピックアップを選択すると、ユーザのピックアップグループ、他のピックアップグループ、またはユーザのグループに関連付けられているピックアップグループ内の着信コールにユーザを自動的に接続します。この処理に必要なのは1回のキーストロークだけです。

自動コールピックアップ機能はユーザのグループ内の着信コールにユーザを接続します。ユーザがクライアントで[ピックアップ (Pickup)]を選択すると、Cisco Unified Communications Managerはグループ内の着信コールを検索し、コール接続を実行します。自動化が有効になっていない場合、ユーザは[ピックアップ (Pickup)]を選択してコールに応答し、コール接続を確立する必要があります。

グループコールピックアップ自動化機能は、他のピックアップグループ内の着信コールにユーザを接続します。ユーザは他のピックアップグループのグループ番号を入力し、クライアントで[ピックアップ (Pickup)]を選択します。ピックアップグループ番号を受信すると、Cisco Unified Communications Managerはコール接続を実行します。グループコールピックアップ自動化機能が有効になっていない場合は、他のピックアップグループのグループ番号にダイヤルして、クライアントで[ピックアップ (Pickup)]を選択し、コールに応答して接続を確立します。

他のグループピックアップ自動化機能は、ユーザのグループに関連付けられているグループ内の着信コールにユーザを接続します。ユーザは、クライアントで[その他のピックアップ (Other Pickup)]を選択します。Cisco Unified Communications Managerは関連付けられているグループ内の着信コールを管理者が[コールピックアップグループの設定 (Call Pickup Group

Configuration)]ウィンドウに入力した順序で検索し、コールが見つかりとコール接続を実行します。自動化が有効になっていない場合、ユーザは[その他のピックアップ (Other Pickup)]を選択し、コールに応答してコール接続を確立する必要があります。

ダイレクトコールピックアップ自動化機能は、ユーザのグループに関連付けられているグループ内の着信コールにユーザを接続します。ユーザは鳴っている電話の電話番号を入力し、クライアントで[ピックアップ (Pickup)]を選択します。電話番号を受信すると、Cisco Unified Communications Manager はコール接続を実行します。ダイレクトコールピックアップ自動化機能が有効になっていない場合、ユーザは鳴っている電話の電話番号にダイヤルして、[ピックアップ (Pickup)]を選択します。すると、ユーザの電話でコールが鳴るので、それに応答して接続を確立する必要があります。

コールピックアップの詳細については、『*Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

自動コール ピックアップの設定

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2 [システム (System)]>[サービス パラメータ (Service Parameters)]の順に選択します。
- ステップ 3 [サーバ (Server)]ドロップダウンリストからサーバを選択し、次に、[サービス (Service)]ドロップダウンリストから [Cisco Call Manager]サービスを選択します。
- ステップ 4 [クラスタ全体のパラメータ (機能: コールピックアップ) (Clusterwide Parameters (Feature - Call Pickup))]セクションで、[自動コールピックアップの有効化 (Auto Call Pickup Enabled)]に対して次のいずれかを選択します。
- true : 自動コールピックアップ機能が有効になります。
 - false : 自動コールピックアップ機能は有効になりません。これがデフォルト値です。
- ステップ 5 保存を選択します。

Dial via Office

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
—	—	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—



重要 Dial via Office - リバース (DvO-R) 機能が有効になっている場合は、次の機能がサポートされません。

- URI ダイヤル
- セキュア電話

DvO 機能と組み合わせて使用できるユーザ制御のボイスメールの無効化は、Cisco Unified Communications Manager リリース 9.0 以降でのみ使用可能です。タイマー制御のボイスメールの無効化は Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0 以降で使用できます。

社内ネットワークの外部にいる場合は、Expressway for Mobile and Remote Access 経由で DvO-R コールを行うことができます。DvO-R は、Cisco Expressway X8.7 および Cisco Unified Communications Manager 11.0(1a)SU1 でサポートされています。

DvO 機能は、ユーザが Expressway for Mobile and Remote Access を使用して企業ネットワークに接続する場合にはサポートされません。

DvO 機能を使用すると、ユーザはデバイスのモバイル ボイス ネットワークを使用して、勤務先番号で Cisco Jabber 発信コールを開始できます。

Cisco Jabber は DvO-R (DvO-リバース) コールをサポートしており、次のように動作します。

1. ユーザが DvO-R コールを開始します。
2. クライアントは、Cisco Unified Communications Manager に携帯電話番号にコールするよう通知します。
3. Cisco Unified Communications Manager は携帯電話番号にコールして接続します。
4. Cisco Unified Communications Manager は、ユーザがダイヤルした番号にコールして接続します。
5. Cisco Unified Communications Manager は 2 つのセグメントに接続します。
6. ユーザおよび着信者は、通常のコールと同様に続けます。

着信コールは、ユーザがクライアントで設定したコール オプションに従い、モバイル コネク トまたは Voice over IP を使用します。Dial via Office が動作するために、モバイル コネク トは必要ありません。ただし、勤務先番号に電話がかかってきたときに、ネイティブの携帯電話番号で呼び出し音を鳴らすように、モバイル コネク トを有効にすることをお勧めします。Cisco Unified Communications Manager ユーザ ページから、モバイル コネク トを有効または無効にしたり、設定を使用してモバイルコネク トの動作を調整したりすることができます (たとえば、時間帯ルーティングや呼び出し前の遅延タイマーの設定など)。モバイル コネク トのセットアップの詳細については、「モバイルコネク トのセットアップ」のトピックを参照してください。






(注) 次の状況では、ユーザは Cisco Jabber で着信コールを受信しません。

- ユーザが任意のネットワークで [モバイル ボイス ネットワーク (Mobile Voice Network)] コール オプションを選択し、かつデバイスでシングルナンバー リーチ (SNR) が設定されていない場合は、Cisco Jabber で着信コールを受信されません。
- ユーザが任意のネットワークで [モバイル ボイス ネットワーク (Mobile Voice Network)] コール オプションを選択したときに、[呼び出しスケジュール (Ring Schedule)] でシングルナンバー リーチ (SNR) が設定されていた場合、ユーザは [呼び出しスケジュール (Ring Schedule)] で設定されている時間を超えて Cisco Jabber で着信コールを受信しません。

次の表は、着信コールと発信コールに使用するコールメソッドについて説明します。コールメソッド (VoIP、モバイルコネク、DvO-R、またはネイティブセルラー コール) は、選択されたコール オプションとネットワーク接続によって異なります。

表 2:異なるネットワーク接続を通じたコールオプションで使用するコールメソッド

接続	コールオプション							
	Voice over IP		モバイル ボイス ネットワーク		[自動選択 (Autoselect)]			
 企業 Wi-Fi	発信 : VoIP	着信 : VoIP	発信 : DvO-R	着信 : モバイルコ ネクト	発信 : VoIP		着信 : VoIP	
 企業外 Wi-Fi					発信 : DvO-R		着信 : モバイルコ ネクト	
 モバイル ネット ワーク (3G、4G)					発信 : DvO-R		着信 : モバイルコ ネクト	
電話サービスが未 登録	発信ネイティブセルラー コール						着信モバイルコネク	

Dial via Office - リバース (DvO-R) 機能を設定するには、次の手順を行う必要があります。

1. DvO-R をサポートするための Cisco Unified Communications Manager を設定します。詳細については、「Cisco Unified Communications Manager をセットアップして DvO をサポートする」のトピックを参照してください。

2. iPhone または Android 用の各 Cisco Dual Mode デバイスで DvO を有効にします。詳細については、「各デバイスに対する *Dial via Office* の設定」のトピックを参照してください。

Dial via Office をサポートするための Cisco Unified Communications Manager の設定

Dial via Office - リバース (DvO-R) をサポートするように Cisco Unified Communications Manager を設定するには、次の手順を行います。

1. 次の手順のいずれかまたは両方を実行します。
 - エンタープライズ機能アクセス番号の設定
 - モビリティ プロファイルの設定
2. 「デバイス *COP* ファイルのバージョンの確認」の手順を完了します。
3. 必要な場合は、モバイル ID 電話番号へのコールを発信ゲートウェイにルーティングするアプリケーションダイヤルルールを作成します。モバイル ID 電話番号の形式がアプリケーションダイヤルルールと一致することを確認します。

エンタープライズ機能アクセス番号の設定

Dial via Office - リバースを使用するすべての Cisco Jabber コールに対してエンタープライズ機能アクセス番号を設定するには、次の手順を使用します。

エンタープライズ機能アクセス番号は、この目的のために別の番号がモビリティプロファイルに設定されていない場合、Cisco Unified Communications Manager が、携帯電話およびダイヤル番号とのコールに使用する番号です。

始める前に

- エンタープライズ機能アクセス番号 (EFAN) として使用するダイヤルイン方式 (DID) 番号を予約します。モビリティプロファイルを設定済みの場合、この手順はオプションです。
- この番号に要求される形式を決定します。選択する正確な値は、ゲートウェイが渡す電話番号に依存します (たとえば、7桁または 10桁)。エンタープライズ機能アクセス番号はルーティング可能な番号である必要があります。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コールルーティング (Call Routing)]>[モビリティ (Mobility)]>[エンタープライズ機能アクセス番号設定 (Enterprise Feature Access Number Configuration)]を選択します。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)]を選択します。

ステップ 4 [番号 (Number)]フィールドに、エンタープライズ機能アクセス番号を入力します。

システム内で一意の DID 番号を入力します。

国際電話をサポートするには、この番号の前に + を付けます。

ステップ 5 [ルートパーティション (Route Partition)] ドロップダウン リストから、エンタープライズ機能アクセスに必要な DID のパーティションを選択します。

このパーティションは、[リモート接続先用の着信コーリングサーチスペース (Inbound Calling Search Space for Remote Destination)] 設定の [クラスタ全体のパラメータ (システム - モビリティ) (Clusterwide Parameters (System - Mobility))] セクションの、[システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] で設定します。この設定は、ゲートウェイまたはトランクの着信コーリングサーチスペースか、デバイスの [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで割り当てられたコーリングサーチスペースを指します。

ユーザが DvO コールバック番号を代替番号で設定した場合は、必ず代替電話番号の接続先にルートされるようにトランクのコーリングサーチスペース (CSS) を設定します。

ステップ 6 [説明 (Description)] フィールドにモビリティ エンタープライズ機能アクセス番号の説明を入力します。

ステップ 7 (任意) このエンタープライズ機能アクセス番号をこのシステムのデフォルトにする場合は、[デフォルトのエンタープライズ機能アクセス番号 (Default Enterprise Feature Access Number)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 8 保存を選択します。

モビリティ プロファイルの設定

Cisco Jabber デバイスのモビリティ プロファイルを設定するには、次の手順を使用します。エンタープライズ機能アクセス番号を設定済みの場合、この手順は任意です。

モビリティ プロファイルを使用して、モバイルクライアントの Dial via Office-Reverse を設定できます。モビリティ プロファイルをセットアップしたら、これをユーザまたはユーザのグループ (ある地域や場所にいるユーザ) に割り当てることができます。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コールルーティング (Call Routing)] > [モビリティ (Mobility)] > [モビリティ プロファイル (Mobility Profile)] を選択します。

ステップ 3 [モビリティ プロファイル情報 (Mobility Profile Information)] セクションで、[名前 (Name)] フィールドにモビリティ プロファイルの説明的な名前を入力します。

ステップ 4 [Dial-via-Office-Reverse コールバック (Dial via Office-Reverse Callback)] セクションで、[コールバック発信者 ID (Callback Caller ID)] フィールドに、クライアントが Cisco Unified Communications Manager から受信するコールバック コールの発信者 ID を入力します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

デバイス COP ファイルのバージョンの確認

この Cisco Jabber リリース用の正しいデバイス COP ファイルを使用していることを確認するには、次の手順を使用します。

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2 [デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]の順に選択します。
- ステップ 3 [新規追加] をクリックします。
- ステップ 4 電話タイプ (Phone Type) ドロップダウンリストから、iPhone 用 Cisco デュアルモード (Cisco Dual Mode for iPhone) 、または Android 用 Cisco デュアルモード (Cisco Dual Mode for Android) を選択します。
- ステップ 5 [次へ (Next)]をクリックします。
- ステップ 6 [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)]セクションまでスクロールダウンし、[ビデオ機能 (Video Capabilities)]ドロップダウンリストが表示されることを確認します。
- [ビデオ機能 (Video Capabilities)]ドロップダウンリストが表示された場合、COP ファイルはご使用のシステムにすでにインストールされています。
- [ビデオ機能 (Video Capabilities)]ドロップダウンリストが表示されない場合は、正しい COP ファイルを探してダウンロードします。
-

各デバイスに対する Dial via Office の設定

各 TCT またはボットデバイスに対して、Dial Via Office - リバースをセットアップするには、次の手順を使用します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	各ユーザのモビリティ ID を追加します。	
ステップ 2	各デバイスで Dial via Office を有効にします。	
ステップ 3	モバイルコネクトを有効にした場合は、モバイルコネクトが機能することを確認します。デスクフォンの内線に電話して、関連付けるモバイル ID で指定した電話番号が鳴ることを確認します。	

モビリティ ID の追加

モビリティ ID を追加し、モバイルデバイスの携帯電話番号を接続先番号として指定するには、次の手順を使用します。この接続先番号は Dial via Office やモバイルコネクトなどの機能で使用します。

モビリティ ID を追加するときは、1 つの番号だけ指定できます。モバイル デバイスの 2 つ目の携帯電話番号などの代替番号を指定する場合は、リモート接続先を設定できます。モビリティ ID の設定の特性は、リモート接続先の設定の特性と同じです。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 設定するデバイスに次のように移動します。

- a) [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- b) 設定するデバイスを検索します。
- c) デバイス名を選択して、[電話の設定 (Phone Configuration)]ウィンドウを開きます。

ステップ 3 [関連付けられたモビリティ ID (Associated Mobility Identity)]セクションで [新しいモビリティ ID の追加 (Add a New Mobility Identity)]を選択します。

ステップ 4 接続先番号として携帯電話番号を入力します。

この番号をアウトバウンドゲートウェイにルーティングできる必要があります。通常、この番号は完全な E.164 番号です。

(注) ユーザの Dial via Office - リバース機能を有効にするには、ユーザのモビリティ ID の接続先番号を入力する必要があります。

Dial via Office - リバースを有効にして、モビリティ ID の接続先番号を空のままにした場合は、次のようになります。

- モバイルデータ ネットワークと VPN の使用中にユーザが [自動選択 (Autoselect)]コール オプションを選択すると、電話サービスが接続できなくなります。
- あらゆるタイプのネットワークでユーザが [モバイルボイス ネットワーク (Mobile Voice Network)]コール オプションを選択すると、電話サービスが接続できなくなります。
- 電話サービスが接続できない原因は、ログに示されません。

ステップ 5 コール タイマーの初期値を入力します。

これらの値によって、モバイル デバイスのクライアントで呼び出し音を鳴らす前に、モバイル サービス プロバイダーのボイスメールに通話がルーティングされることがなくなります。エンドユーザのモバイル ネットワークと動作するように、これらの値を調整することができます。詳細については、Cisco Unified Communications Manager のオンライン ヘルプを参照してください。

次に示すのは、Cisco Unified Communications Manager 9.x のモビリティ ID のタイマー情報の例です。

設定	推奨する初期値
[呼び出し開始タイマー (Answer Too Soon Timer)]	3000
呼び出し終了タイマー (Answer too late timer)	20000
呼び出し前の遅延タイマー (Delay before ringing timer)	0 (注) この設定は DVO-R コールには適用されません。

次に示すのは、Cisco Unified Communications Manager 10.x のモビリティ ID のタイマー情報の例です。

設定	推奨する初期値
ビジネス回線にダイヤルされたときに、* 秒経過してからこの電話の呼出音を鳴らす。*	0.0 秒
コールがボイスメールに直接転送されることを検出するまで * 秒待機して、このコールがこの電話のボイスメールに直接転送されないようにする。*	3.0 秒
この電話のボイスメールに接続しないように、電話の呼び出しを * 秒後に停止する。*	20.0 秒

ステップ 6 次のいずれかを実行します。

- Cisco Unified Communications Manager リリース 9 以前 : [モバイル コネクトの有効化 (Enable Mobile Connect)] チェックボックスをオンにします。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 10 : [シングル ナンバー リーチを有効にする (Enable Single Number Reach)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 Dial via Office 機能をセットアップする場合は、[モビリティ プロファイル (Mobility Profile)] ドロップダウン リストで次のいずれかのオプションを選択します。

オプション	説明
空欄のまま	ユーザにエンタープライズ機能アクセス番号 (EFAN) を使用させる場合は、このオプションを選択します。
モビリティ プロファイル	ユーザが EFAN の代わりにモビリティ プロファイルを使用するようになる場合は、作成したモビリティ プロファイルを選択します。

ステップ 8 携帯番号に通話をルーティングするスケジュールを設定します。

ステップ 9 保存を選択します。

各デバイス上での Dial via Office の有効化

各デバイス上で Dial via Office を有効にするには、次の手順を使用します。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 設定するデバイスに次のように移動します。

- a) [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- b) 設定するデバイスを検索します。
- c) デバイス名を選択して、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。

- ステップ 3** [デバイス情報 (Device Information)] セクションの [Cisco Unified Mobile Communicator の有効化 (Enable Cisco Unified Mobile Communicator)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [プロトコル固有情報 (Protocol Specific Information)] セクションの [再ルーティング用コーリング検索スペース (Rerouting Calling Search Space)] ドロップダウンリストで、DvO コールバック番号にコールをルートできるコーリング検索スペース (CSS) を選択します。
- ステップ 5** [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションで [Dial via Office] ドロップダウンリストを [有効 (Enabled)] に設定します。
- ステップ 6** 保存を選択します。
- ステップ 7** [設定の適用 (Apply Config)] を選択します。
- ステップ 8** 機能にアクセスするには、クライアントからログアウトして再度ログインするようにユーザに指示します。

(注) DVO が有効になっているデバイスは、Cisco Unified Communications Manager での登録時に問題が発生する恐れがあります。Cisco Unified Communications Manager 管理デバイスから該当するデバイスをリセットすると、この問題が修正されます。

次のタスク

この機能をテストしてください。

遠端カメラ制御 (FECC)

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—

遠端カメラ制御 (FECC) をサポートしているコールでは、遠端カメラを調整してビデオ コール時の表示を鮮明にすることができます。ユーザがコールしているエンドポイントが FECC をサポートしている場合、ユーザは FECC を使用できます。

ユーザが FECC 対応エンドポイントにアクセス可能かどうかを設定できます。設定パラメータを無効にすると、エンドポイントが FECC に対応している場合でも、ユーザは遠端カメラのエンドポイントを制御できません。FECC を無効にすると、ユーザエクスペリエンスの観点から見ると、FECC 非対応のエンドポイントにダイヤルインするのと同じになります。

FECC を無効化するには、EnableFecc パラメータに false を設定します。このパラメータの詳細については、『Parameters Reference Guide』を参照してください。

制約事項

FECC はポイントツーポイントコールでのみサポートされ、複数のビデオ接続が同じブリッジに接続しているグループ コールや会議ではサポートされません。

FECC はソフトフォンモードでのみサポートされます。

フレキシブル DSCP 値

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
—	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン モード
可	可	可	可

フレキシブル DiffServ コードポイント (DSCP) を使用すると、異なる DSCP 値を指定して、ネットワーク上のオーディオストリームとビデオストリームを分離することができます。

クライアントで DSCP パケットのマーキングを有効または無効にするには、EnableDSCPPacketMarking パラメータを使用します。

DSCP 値は、音声コール、ビデオ コール、ビデオ コールの音声部分、テレプレゼンス コールの音声部分に個々に設定できます。帯域幅管理を適切に行い、オーディオストリームの低下を防止するには、広帯域幅のビデオストリームからオーディオストリームを分離します。これは、ネットワークで輻輳が発生した場合、または通話品質に影響が生じた場合に有効に作用します。

DSCP 値は、Cisco Unified Communications Manager で設定されます。詳細については、『System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager』の「Configure Flexible DSCP Marking and Video Promotion Policy」セクションを参照してください。

ハントグループ

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

すべてのクライアントに適用されます。

ハントグループは階層的に編成された回線のグループで、ハントグループリストの最初の番号が話中の場合は2番目の番号にダイヤルされます。2番目の番号が話中の場合は次の番号がダイヤルされるという具合に続きます。すべてのハントグループには、ハントパイロットと呼ばれるパイロット番号があります。ハントパイロットには、ハントパイロット番号および関連するハントリストが含まれています。ハントパイロットは、ネットワーク設計に柔軟性をもたらします。また、特定デバイスへの直接コールや特定数字パターンの組み込み、削除、変更のためのルートフィルタおよびハントリストを使用します。

ハントパイロット番号は、ユーザがダイヤルする番号です。ハントリストには、一連の回線グループが特定の順序で含まれています。回線グループは、特定の順序で並んだ一連の電話番号から成っています。この順序によって、着信コールで使用可能な電話番号の検索の進行が制御されます。単一の回線グループを複数のハントリストに表示できます。

Unified Communications Manager がルーティングするコールを定義されたハントリストに従って特定した後、Unified CM がハントリストで定義されている回線グループの順序に基づいて最初に使用可能なデバイスを検出します。

EnableHuntGroup パラメータを設定して、ユーザがハントグループにログインしたり、ログアウトしたりできるようにすることができます。PreventDeclineOnHuntCall パラメータを使用して、ユーザがハントグループからのコールを拒否できるかどうかをコントロールします。詳細については、*Parameters Reference Guide for Cisco Jabber* を参照してください。

Unified CM 9.x 以降では、応答がない場合にハントメンバーを自動ログアウトするように設定できます。ユーザがサインアウトすると、ユーザが自動署名されているか、手動でログアウトしたか、または Unified CM 管理者によってログアウトされたかにかかわらず、システムはログアウトの通知を表示します。

制限事項

デスクトップクライアントは、ユーザがハントグループにログインしたり、ハントグループからログアウトしたりする前に、コンピュータモードで音声を使用する必要があります。

回線グループ

回線グループを使用して、電話番号を選択する順序を指定できます。Cisco Unified Communications Manager は、コール分配アルゴリズムと無応答 (RNA) 予約のタイムアウト設定に基づいて、回線グループのアイドル状態または対応可能なメンバーにコールを分配します。

ユーザは、回線グループに属する DN へのコールを、ダイレクト コール ピックアップ機能を使用してピックアップすることはできません。

回線グループの設定

始める前に

電話番号を設定してください。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コール ルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [回線グループ (Line Group)] の順に選択します。

[回線グループの検索と一覧表示 (Find and List Line Groups)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)] を選択します。

[回線グループの設定 (Line Group Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [回線グループ情報 (Line Group Information)] セクションに次の設定を入力します。

1. [回線グループ名 (Line Group Name)] フィールドに一意の名前を指定します。
2. [RNA 復帰タイムアウト (RNA Reversion Timeout)] に秒数を指定します。
3. 回線グループに適用する [分散アルゴリズム (Distribution Algorithm)] を選択します。

ステップ 5 [ハント オプション (Hunt Options)] セクションに次の設定を入力します。

- ドロップダウン リストから [無応答 (No Answer)] の値を選択します。
- [無応答時にハント メンバーを自動的にログアウト (Automatically Logout Hunt Member on No Answer)] を選択して、ハント リストの自動ログアウトを設定します。
- ドロップダウン リストから [ビジー (Busy)] の値を選択します。
- ドロップダウン リストから [使用不可 (Not Available)] の値を選択します。

ステップ 6 [回線グループ メンバー情報 (Line Group Member Information)] セクションでは、以下を実行できます。

- 回線グループに追加する電話番号またはルート パーティションを検索する。
- 回線グループ内の電話番号またはルート パーティションの順序を変更する。

- 回線グループから電話番号またはルートパーティションを削除する。

ステップ7 保存を選択します。

次のタスク

ハントリストを設定し、回線グループをハントリストに追加します。

ハントリスト

ハントリストには、一連の回線グループが特定の順序で含まれています。ハントリストは1つ以上のハントパイロットに関連付けられており、それらの回線グループにアクセスする順序を示します。この順序によって、着信コールで使用可能な電話番号の検索の進行が制御されます。

ハントリストは、回線グループによって定義された電話番号の集合から構成されます。定義されたハントリストに従って、Cisco Unified Communications Manager がルーティングするコールを決定した後、Cisco Unified Communications Manager は、ハントリストで定義されている回線グループの順序に基づいて1番目に使用可能なデバイスを検出します。

ハントリストには、回線グループだけを入れることができます。各ハントリストには、少なくとも1つの回線グループを入れる必要があります。各回線グループには、少なくとも1つの電話番号が含まれます。1つの回線グループが複数のハントリストに表示される場合があります。



- (注) グループコールピックアップ機能とダイレクトコールピックアップ機能では、ハントリストは使用されません。

ハントリストの設定

ステップ1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ2 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] の順に選択します。

[グループの検索とハントリスト (Find and Hunt List Groups)] ウィンドウが開きます。

ステップ3 [新規追加 (Add New)] を選択します。

[ハントリストの設定 (Hunt List Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ4 [ハントリスト情報 (Hunt List Information)] セクションに次の設定を入力します。

1. [名前 (Name)] フィールドに一意の名前を指定します。
2. ハントリストの説明を入力します。

■ ハントリストへの回線グループの追加

3. ドロップダウンリストから [Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)] を選択します。
4. ハントリストを保存すると、新しいハントリストのデフォルトとして [このハントリストを有効にする (Enable this Hunt List)] が選択されます。
5. このハントリストをボイスメールに使用する場合は、[ボイスメール用 (For Voice Mail Usage)] を選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)] を選択してハントリストを追加します。

次のタスク

回線グループをハントリストに追加します。

ハントリストへの回線グループの追加

始める前に

回線グループを構成して、ハントリストを設定する必要があります。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コールルーティング (Call Routing)] > [ルート/ハント (Route/Hunt)] > [ハントリスト (Hunt List)] の順に選択します。

[グループの検索とハントリスト (Find and Hunt List Groups)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 回線グループを追加するハントリストを検索します。

ステップ 4 回線グループを追加するには、[回線グループの追加 (Add Line Group)] を選択します。

[ハントリスト詳細の設定 (Hunt List Detail Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [回線グループ (Line Group)] ドロップダウンリストから回線グループを選択します。

ステップ 6 回線グループを追加するには、[保存 (Save)] を選択します。

ステップ 7 さらに別の回線グループを追加するには、ステップ 4 ~ 6 を繰り返します。

ステップ 8 [保存 (Save)] を選択します。

ステップ 9 ハントリストをリセットするには、[リセット (Reset)] を選択します。ダイアログボックスが表示されたら、[リセット (Reset)] を選択します。

ハントパイロット

ハントパイロットは、アドレスを表す数字のストリングと、ハントリストにコールをルート指定するように関連付けられた数字操作のセットから構成されています。ハントパイロット

は、ネットワーク設計に柔軟性をもたらします。ハントパイロットは、ルートフィルタおよびハントリストと連動して、コールを特定のデバイスに誘導し、特定の数字パターンの組み込み、除外、または変更を行います。ハントパイロットの詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

ハントパイロットの設定オプションの詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* の関連するマニュアルを参照してください。

ハントパイロットの設定

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コールルーティング (Call Routing)]>[ルート/ハント (Route/Hunt)]>[ハントパイロット (Hunt Pilot)]の順に選択します。

[ハントパイロットの検索と一覧表示 (Find and List Hunt Pilots)]ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [新規追加 (Add New)]を選択します。

[ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)]ウィンドウが開きます。

ステップ 4 数字とワイルドカードを含む、ハントパイロットを入力します。

ステップ 5 [ハントリスト (Hunt List)]ドロップダウンリストからハントリストを選択します。

ステップ 6 [ハントパイロットの設定 (Hunt Pilot Configuration)]ウィンドウで追加の設定を入力します。ハントパイロットの設定の詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* の関連するマニュアルを参照してください。

ステップ 7 保存を選択します。

Jabber 間コール

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	—

Jabber 間音声ビデオ コールは、*Cisco Unified Communications Manager* を使用せずに、2 つの Cisco Jabber クライアント間に基本的な通話機能を提供します。Cisco Jabber ユーザは Cisco

Unified Communications Manager に登録されていない場合でも、Cisco Jabber から Jabber 間コールを発信できます。



- (注)
- Jabber ツー Jabber コールは、Cisco Webex Messenger サービスのユーザ認証のみサポートしています。
 - Windows 版 Cisco Jabber クライアントが Jabber 間コール機能を使用する場合は、Internet Explorer 10 以降を実行することをお勧めします。この機能を以前のバージョンの Internet Explorer、または互換モードの Internet Explorer で使用すると、問題が発生する場合があります。これらの問題は、Cisco Jabber クライアントのログイン（非 SSO 設定）または Jabber 間コール機能（SSO 設定）に関連しています。

Jabber 間コールのエクスペリエンス

Jabber 間コールでは、Cisco Unified Communication Manager コールのすべての機能はサポートされていません。Jabber 間コールは、一度に 1 つの連絡先とだけ行うことができます。Jabber 間コールでは、ユーザについて次のシナリオが考えられます。

- モバイル用 Cisco Jabber クライアントは縦方向モードの HD ビデオをサポートしていません。HD ビデオを記録するには、コール中に電話機を縦方向から横方向モードに切り替える必要があります。
- 2 人のユーザが Jabber 間コールを相互に同時に開始すると、コードが自動的に接続されます。その場合、どちらのユーザも着信コール通知を受信しません。
- ユーザが Jabber 間コール中に別のコールを発信する必要がある場合、進行中のコールは、コールの相手が応答しない場合でも、即座に終了します。
- Jabber 間コール中に Jabber 間コールが着信した場合は、[コールを終了して応答 (End Call And Answer)] が表示されます。ユーザがこのボタンを選択すると、現行の Jabber 間コールは終了し、着信コールへの応答が行われます。
- モバイルクライアント用 Cisco Jabber での Jabber 間コールでは、次のシナリオが考えられます。
 - モバイル用 Cisco Jabber クライアントは縦方向モードの HD ビデオをサポートしていません。HD ビデオを記録するには、コール中に電話機を縦方向から横方向モードに切り替える必要があります。
 - ユーザが Jabber 間コール中に Cisco Unified Communications Manager コールを行うと、相手が応答しない場合でも、進行中の Jabber 間コールが直ちに終了します。
 - ユーザがモバイル通話中は、Jabber 間コールに応答できません。Jabber 間通話の着信は、不在着信としてリストされます。
 - ユーザが Jabber 間コール中にモバイル通話が着信した場合は、次のようになります。
 - iPhone では、相手が応答しない場合でも、Jabber 間コールが直ちに終了します。

- Android 電話では、相手が着信モバイル通話に応答した場合に、Jabber 間コールが直ちに終了します。

サポートされる着信機能

Jabber 間コール中は、次の機能がサポートされます。

- Jabber 間コールを終了する
- オーディオをミュートまたはミュート解除する
- ビデオを開始または停止する
- 音量コントロール
- セルフビデオを開始または停止する
- フロントカメラとバックカメラを切り替えるこの機能は、Cisco Jabber モバイルクライアントでのみ使用できます。

Jabber 間コールのクラウド展開

Jabber 間コールのクラウド展開では、SDP/HTTPS の設定が使用されます。クラウド展開の場合は、以下を確認してください。

- Jabber 間コール機能を使用するには、GoDaddy Class 2 Certification Authority Root Certificate ルート証明書をインストールします。この証明書名に関する警告を解決するには、必要な GoDaddy 証明書をインストールします。
- プロキシ サーバ バイパス リストに次のサーバを含めます。
 - <https://locus-a.wbx2.com/locus/api/v1>
 - <https://conv-a.wbx2.com/conversation/api/v1>

プロキシサーバリストの詳細については、『Cisco Jabber Deployment Guides』の「*Configure Proxy Settings*」を参照してください。

- UDP 経由の RTP/SRTP に対してメディアポートとプロトコルの次の範囲を有効にします：33434 ~ 33598 および 8000 ~ 8100。HTTPS 経由の Jabber 間コール設定の場合は、ポート 443 を有効にします。
- Jabber 間コールの機能を有効にする前に、次の作業を実行してください。
 - 組織を Cisco Common Identity サーバに登録するよう要求するには、シスコカスタマーサポート チームまたは Cisco Customer Success Manager にお問い合わせください。Common Identity サーバにユーザを追加するプロセスにはある程度時間がかかります。また Jabber 間コール機能にアクセスする必要があります。
 - シングル サインオン (SSO) のユーザについては、Common Identity の SSO を設定する必要があります。SSO の設定に関する詳細については、Cisco Webex Messenger のド

キュメント (<https://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/webex-messenger/products-installation-guides-list.html>) を参照してください。

クラウド導入では、次のいずれかの方法によって、Cisco Webex Messenger 管理ツールで Jabber 間コールを設定します。

- [設定タブ (Configuration Tab)] セクションで [P2P 設定 (P2P settings)] を使用します。詳細については、『*Cisco Webex Messenger Administrator's Guide*』を参照してください。
- Cisco Webex Messenger 管理ツールのポリシーエディタで **内部 VoIP (Internal VoIP)** および **外部 VoIP (External VoIP)** 設定を使用します。Jabber 間コールのビデオ サービスは、[内部ビデオ (Internal Video)] および [外部ビデオ (External Video)] ポリシー アクションを使用して制御できます。詳細については、『*Cisco Webex Messenger Administration Guide*』の「*Policy Editor*」セクションを参照してください。Jabber 間コールは、ユーザのグループまたはすべてのユーザに対して有効にできます。

Jabber 間ハイブリッド モード

ハイブリッド モードでの Jabber 間コールのエクスペリエンス

Jabber 間コールと Cisco Unified Communications Manager コールを使用する場合には、Jabber 間の制限に加えて、次のシナリオが考えられます。

- ユーザが Jabber 間コール中に Cisco Unified Communications Manager コールを行うと、相手が応答しない場合でも、進行中の Jabber 間コールが直ちに終了します。
- ユーザが Jabber 間コール中に Cisco Unified Communications Manager コールを保留してから再開すると、Jabber 間コールが直ちに終了します。
- ユーザが Jabber 間コール中に Cisco Unified Communications Manager コールを着信すると、通知と [コールを終了して応答 (End Call And Answer)] ボタンが表示されます。ユーザがこのボタンを選択すると、進行中の Jabber 間コールが終了し、着信コールへの応答が行われます。
- ユーザが Cisco Unified Communications Manager コールを受信した場合は、進行中の Cisco Unified Communications Manager コールを保留にして新しいコールに応答できます。
- ユーザが Cisco Unified Communications Manager コール中に Jabber 間コールを行うように選択すると、Jabber 間コールの参加者がコールに応答しない場合でも、Cisco Unified Communications Manager コールが直ちに保留になります。
- ユーザが Cisco Unified Communications Manager コール中に Jabber 間コールに応答した場合は、Cisco Unified Communications Manager コールが直ちに保留になります。
- ユーザの回線が Cisco Unified Communications Manager でコールに自動応答するように設定されている場合、Jabber 間コール中に Cisco Unified Communications Manager コールを受信すると、Jabber 間コールが通知なく直ちに終了し、Cisco Unified Communications Manager コールに応答します。

Jabber 間帯域幅

Jabber 間コールに使用される最大帯域幅（キロビット/秒単位）を指定します。コールのビデオ画質（解像度）は、この帯域幅制限に適合するように下げられます。この機能は J2JMaxBandwidthKbps パラメータを使用して設定されます。

このパラメータの詳細については、ご使用のリリースに対応する『*Parameter Reference Guide*』を参照してください。

ボイスメールを使用しないユーザが通話無視できるようにする

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ボイスメールを使用しないユーザの場合は、[ボイスメールなし (No Voicemail)] プロファイルを選択します。Jabber では、これらのユーザに対して **通話無視する (Ignore call)** オプションが表示されます。

ボイスメールを使用しないデバイスのセットアップ

ボイスメールを使用しないデバイスを設定でき、ユーザは Jabber クライアントでの着信コールを無視できます。

- ステップ 1 Cisco Unified CM IM およびプレゼンス管理から、デバイス > 電話機に移動します。
- ステップ 2 デバイスを探して選択します。
- ステップ 3 関連情報で、ディレクトリ番号を選択します。
- ステップ 4 [ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Settings)] で、[ボイスメールプロファイル] (Voice Mail Profile)] の [NoVoicemail] を選択します。
- ステップ 5 保存して設定の適用の順にクリックします。

携帯電話に移動

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
—	—	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—

ユーザはアクティブな VoIP コールを、Cisco Jabber からモバイルネットワーク上の自分の携帯電話番号に転送できます。この機能は、ユーザが通話しながら Wi-Fi ネットワークを離れる場合（たとえば、建物を離れて車まで歩いていくときなど）や、Wi-Fi ネットワークを経由すると音声品質に問題がある場合に便利です。



(注) モバイルへの移動機能を使用するには、電話番号のある携帯電話ネットワークに接続する必要があります。ユーザは TCT または BOT デバイスを持っている必要があります。

この機能を有効にする方法は2通りあります。無効にすることもできます。

実装方法	説明	手順
ハンドオフ DN	<p>モバイルデバイスは、モバイルネットワークを使用して Cisco Unified Communications Manager を呼び出します。</p> <p>この方法には、ダイヤルイン (DID) 番号が必要です。</p> <p>サービス プロバイダーは、設定の DID の値を正確に提供する必要があります。また、Cisco IOS ゲートウェイが Cisco Unified Communications Manager への通信に H.323 または SIP を使用する場合、Cisco IOS を使用して、ゲートウェイで着信者番号を操作し、番号をハンドオフ DN で設定したとおりに Cisco Unified Communications Manager に表示することができます。</p> <p>この方法は、iPod Touch デバイスでは動作しません。</p>	<p>詳細については、「VoIP からモバイルネットワークへのハンドオフの有効化」のトピックを参照してください。</p>
モビリティ ソフトキー	<p>Cisco Unified Communications Manager は、モバイルデバイスの PSTN モバイルサービスプロバイダーの電話番号に発信します。</p>	<p>詳細については、「VoIP からモバイルネットワークへの転送の有効化」のトピックを参照してください。</p>
上記以外	<p>ユーザから利用できるようにしない場合は、この機能を無効にします。</p>	<p>TCT デバイスページの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションで、[モバイルネットワークへ転送 (Transfer to Mobile Network)] オプションに対して [無効 (Disabled)] を選択します。</p> <p>BOT デバイスページの [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションで、[モバイルネットワークへ転送 (Transfer to Mobile Network)] オプションに対して [無効 (Disabled)] を選択します。</p>

VoIP からモバイル ネットワークへのハンドオフの有効化

Cisco Unified Communications Manager が VoIP からモバイル ネットワークにアクティブ コールをハンドオフするために使用できる、電話番号を設定します。Cisco Unified Communications Manager がユーザを認識できるようにするために、ユーザの発信者 ID をモビリティ ID と一致させます。VoIP からモバイル ネットワークへのハンドオフをサポートするように、TCT デバイスおよびモバイル デバイスをセットアップします。

Cisco Unified Communications Manager が VoIP からモバイル ネットワークにアクティブ コールをハンドオフするために使用できる、電話番号を設定します。Cisco Unified Communications Manager がユーザを認識できるようにするために、ユーザの発信者 ID をモビリティ ID と一致させます。VoIP からモバイル ネットワークへのハンドオフをサポートするように、BOT デバイスおよびモバイル デバイスをセットアップします。

ハンドオフ DN の設定

始める前に

必要な値を識別します。選択する値は、ゲートウェイが渡す電話番号によって異なります（たとえば、7 桁や 10 桁など）。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [コール ルーティング (Call Routing)]>[モビリティ (Mobility)]>[ハンドオフ設定 (Handoff Configuration)]を選択します。

ステップ 3 デバイスが VoIP コールをモバイル ネットワークにハンドオフする際に使用するダイヤルイン (DID) 番号のハンドオフ番号を入力します。

サービスプロバイダーは、設定の DID の値を正確に提供する必要があります。また、H.323 または SIP を使用して Cisco Unified Communications Manager に通信する Cisco IOS ゲートウェイの場合は、Cisco IOS を使用して、ゲートウェイで着信者番号を操作し、その番号をハンドオフ番号で設定したとおりに Cisco Unified Communications Manager に表示することができます。

(注) Cisco Unified Communications Manager 内でトランスレーションパターンや他の操作を使用して、受信 DID 番号を設定済みハンドオフ DN と照合することはできません。

ステップ 4 ハンドオフ DID の [ルートパーティション (Route Partition)]を選択します。

このパーティションは、リモート接続先インバウンドコーリング検索スペース (CSS) で参照するコーリング検索スペースで、使用できる必要があります。具体的に参照されるコーリング検索スペースは、ゲートウェイ、トランクの着信 CSS またはリモート接続先プロファイルの CSS です。

この機能は、このページのその他のオプションを使用しません。

ステップ 5 保存を選択します。

発信者 ID とモビリティ ID の一致

許可された電話機だけが外線発信できるようにするには、システム内に設定された電話機から発信されるようにする必要があります。そのため、システムは要求元電話番号の発信者 ID と、既存のモビリティ ID との照合を試みます。デフォルトでは、デバイスがハンドオフ機能を起動したときに、ゲートウェイから Cisco Unified Communications Manager に渡される発信者 ID が、そのデバイス用に入力したモビリティ ID 番号と完全に一致している必要があります。

ただし、システムの設定によっては、こうした番号が完全一致しない場合があります。たとえば、モビリティ ID 番号に国番号が含まれ、発信者 ID には含まれないことがあります。その場合は、部分一致を認識するようシステムを設定する必要があります。

異なるエリアコードまたは異なる国に、同じ電話番号が存在する可能性について考えておく必要があります。また、サービスプロバイダーが可変桁数の通話を識別する場合は、部分一致に影響があることに注意してください。たとえば、ローカルコールは 7 桁 (555 0123 など) を使用して識別されるが、エリア外コールは 10 桁 (408 555 0199 など) を使用して識別されることがあります。

始める前に

モビリティ ID を設定します。詳細については、「モビリティ ID の追加」のトピックを参照してください。

この手順をすべて行う必要があるかどうかを確認するには、次の手順を行ってください。モバイルデバイスからシステムにダイヤルインし、発信者 ID の値と、モビリティ ID の宛先番号を比較します。値が一致しない場合は、この手順に従う必要があります。予想されるすべてのロケールおよびエリアコード内で支給されたデバイスに対して、この手順を繰り返します。

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。
 - ステップ 3 アクティブ サーバを選択します。
 - ステップ 4 [Cisco CallManager (アクティブ) (Cisco CallManager (Active))] サービスを選択します。
 - ステップ 5 [クラスタ全体のパラメータ (システム - モビリティ) (Clusterwide Parameters (System - Mobility))] セクションまでスクロールします。
 - ステップ 6 [発信者 ID とリモート接続先の照合 (Matching Caller ID with Remote Destination)] を選択し、この値に関する重要な情報を確認します。
 - ステップ 7 [部分一致による発信者 ID とリモート接続先の照合 (Partial Match for Matching Caller ID with Remote Destination)] を選択します。
 - ステップ 8 [発信者 ID の部分一致の桁数 (Number of Digits for Caller ID Partial Match)] を選択し、この値に関する重要な要件を確認します。
 - ステップ 9 部分一致に必要な桁数を入力します。
 - ステップ 10 保存を選択します。
-

ハンドオフのためのユーザおよびデバイス設定のセットアップ

始める前に

- Cisco Unified Communications Manager でユーザ デバイスを設定します。
- ユーザのモビリティ ID を設定します。

ステップ 1 [Cisco Unified CM Administration] インターフェイスで、BOT デバイスページに移動し、[モバイルネットワークへ転送 (Transfer to Mobile Network)] オプションに [ハンドオフ DN 機能を使用 (Use Handoff DN Feature)] を選択します。

iPod Touch デバイスでは、この方法は割り当てないでください。代わりにモビリティ ソフトキーの方法を使用します。

ステップ 2 [Cisco Unified CM Administration] インターフェイスで、BOT デバイスページに移動し、[モバイルネットワークへ転送 (Transfer to Mobile Network)] オプションに [ハンドオフ DN 機能を使用 (Use Handoff DN Feature)] を選択します。

ステップ 3 iOS デバイスで、[設定 (Settings)] > [電話 (Phone)] > [発信者 ID を表示 (Show My Caller ID)] をタップして、発信者 ID がオンになっていることを確認します。

ステップ 4 一部の Android デバイスおよびオペレーティングシステムの組み合わせでは、発信者 ID がオンになっていることを確認できます。Android デバイスで電話アプリケーションを開き、[メニュー (Menu)] > [通話設定 (Call Settings)] > [追加設定 (Additional settings)] > [発信者 ID (Caller ID)] > [番号の表示 (Show Number)] をタップします。

ステップ 5 この機能をテストしてください。

VoIP からモバイル ネットワークへの転送の有効化

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 システム レベル設定で、電話のコール状態が「接続中 (Connected)」および「オンフック (On-hook)」のときに、[モビリティ (Mobility)] ソフトキーが表示されることを確認します。

- [デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] の順に選択します。
- デバイスにモバイルコネクトを設定したときに選択したのと同じソフトキーテンプレートを選択します。
- 右上の[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで、[ソフトキーレイアウトの設定 (Configure Softkey Layout)] を選択し、[移動 (Go)] を選択します。
- コール状態のドロップダウンリストで [オンフック (On-hook)] 状態を選択し、選択されているソフトキーのリストに [モビリティ (Mobility)] キーが入っていることを確認します。
- コール状態のドロップダウンリストで [接続中 (Connected)] 状態を選択し、選択されているソフトキーのリストに [モビリティ (Mobility)] キーが入っていることを確認します。

ステップ 3 設定するデバイスに次のように移動します。

- a) [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- b) 設定するデバイスを検索します。
- c) デバイス名を選択して、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。

ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager のユーザ単位およびデバイス単位の設定で、特定のデバイスからコールをモバイル ボイス ネットワークに転送するときに [モビリティ (Mobility)] ソフトキーを使用するように設定します。モバイルデバイスに対してモビリティ ID およびモバイルコネクットの両方をセットアップしていることを確認します。転送機能が動作するようになったら、ユーザは自分の都合に合わせて、転送機能をいじることなくモバイルコネクットを有効にしたり無効にしたりできるようになります。

デバイスが iPod Touch の場合は、代替電話番号 (ユーザの携帯電話など) を使用してモビリティ ID を設定できます。

- a) デバイス ページの [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] を選択します。
- b) [モビリティ ユーザ ID (Mobility User ID)] を選択します。通常、この値は [オーナーのユーザ ID (Owner User ID)] と同じです。
- c) [プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration Layout)] セクションの [モバイル ネットワークへの転送 (Transfer to Mobile Network)] オプションで、[モビリティ ソフトキーの使用 (Use Mobility Softkey)] または [ハンドオフ DN 機能を使用 (Use HandoffDN Feature)] を選択します。

ステップ 5 [ユーザ ロケール (User Locale)] フィールドで、[英語、アメリカ合衆国 (English, United States)] を選択します。

ステップ 6 保存を選択します。

ステップ 7 [設定の適用 (Apply Config)] を選択します。

ステップ 8 機能にアクセスするには、クライアントからログアウトして再度ログインするようにユーザに指示します。

次のタスク

VoIP からアクティブなコールをモバイル ネットワークに転送して、設定をテストします。

マルチライン

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ユーザが Cisco Jabber のデイリータスクを実行する複数の電話回線を設定できます。ユーザごとに最大 8 回線までの電話回線を追加できます。Cisco サービスフレームワーク (CSF) デバイスでは、ユーザに複数回線を設定できます。

Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5 SU3 以降のバージョンでは、複数回線がサポートされています。ただし、Cisco Unified Communications Manager リリース 11.5 SU3 および Cisco Unified Communications Manager リリース 12.0 を使用している場合は、すべてのクラスタノードに [Cisco オプションパッケージ \(COP\)](#) ファイルを手動でインストールし、Cisco Unified Communications Manager を再起動して、複数回線を有効にする必要があります。

複数回線のインストールおよび設定の完了後、次のことを行ってください。

- コールを発信する優先回線を選択してください。
- 不在着信とボイスメール (voicemails) を表示します。
- すべての回線で不在転送、転送、会議通話が使用できます。
- 各回線にカスタム着信音を割り当てます。

マルチラインは、すべての回線上で次の機能をサポートしています。

- デスクフォン版 CTI コントロール
- Far End Camera Control (FECC/遠端カメラ制御) 、 Binary Floor Control Protocol (BFCP)
- ハント グループ
- 通話録音とサイレント モニタリング
- 共有回線、ダイヤルルール、ディレクタリルックアップ
- アクセサリマネージャ

マルチラインが有効になっている場合、次の機能はプライマリかいせんラインでのみ使用できます。

- コール ピックアップ
- 拡張機能と接続機能

複数回線の設定

始める前に

Cisco Unified Communications Manager の作成とユーザの追加



重要 Cisco Jabber Softphone for VDIの場合、通話のマージ機能の使用には次の設定が必要になります:

- 結合とダイレクトトランスファー ポリシー (**Join And Direct Transfer Policy**)を、同じ回線、行をまたいで有効に設定します。
- [共通設定の上書き (**Override Common Settings**)]チェックボックスをオンにします。

ステップ1 Cisco Unified CM 管理から、デバイス > 電話機に進み、デバイスを探して選択します。

ステップ2 各回線で次のように設定します:

1. 新しい DN を追加をクリックして、ディレクトリ番号を入力します。
2. 追加の設定を任意で追加して **保存** をクリックします。

マルチライン MRA アクセスを有効にする

マルチラインは、モバイルおよび Remote Access (MRA) モードでデスクトップ用 Cisco Jabber を使用する場合にサポートされます。この機能は、Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS-C) で有効にすることができます。

ステップ1 VCS-C に移動します。

ステップ2 VCS-C 設定 > ユニファイドコミュニケーション > 設定 > SIP パスヘッダーを選択して、オンに設定します。

パーソナル ルーム

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	はい

パーソナル ルームはいつでも利用可能な仮想会議室であり、ミーティングに使用できます。Cisco Jabber では、Cisco Webex Meetings のパーソナル会議室機能でクライアントの **いますぐミーティング** オプションを使用すると、すぐに連絡先とミーティングができます。

- ステップ 1** パーソナル会議室は、Cisco Webex Meetings のユーザに対してデフォルトで有効になっています。詳細については、こちらでアクセス可能な Cisco Webex Meetings のマニュアルを参照してください：
<https://www.cisco.com/c/en/us/support/conferencing/webex-meeting-center/products-installation-and-configuration-guides-list.html>
- ステップ 2** Cisco Webex Meetings ですべてのインスタントミーティングにパーソナル会議室を使用 (**Use Personal Room for all my instant meetings**) を選択することで、すべてのインスタントミーティングに対してパーソナル会議室を設定できます。

Cisco Jabber ビデオおよび音声通話のプッシュ通知サービス

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
—	—	可	対応

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—

Cisco Jabber のユーザは、Jabber 音声およびビデオ通話プッシュ通知を受信します。この機能は、デバイスがロックされているときに、Jabber がバックグラウンドやフォアグラウンドで動作しているかにかかわらず、また、Jabber IM サービスに接続されているかどうかにかかわらず機能します。

IM のプッシュ通知の詳細については、[IM 用プッシュ通知サービス \(39 ページ\)](#) を参照してください。

Jabber for iPhone/iPad

リリース 12.1 以降では、Apple Push Notification (APN) の実装は、ユーザのプッシュ通知をサポートしています。Jabber がバックグラウンドで実行されている間は、Apn を使用してチャットメッセージとコールを確実に受信します。



- (注) iOS 上の Jabber MAM のクライアントは、IM ではなくボイス コールのプッシュ通知のみをサポートします。

Jabber for Android

リリース 12.9.1 以降では、Firebase Cloud Messaging (FCM) の実装は、ユーザのプッシュ通知をサポートしています。Jabber がバックグラウンドで実行されている間は、FCM を使用してチャットメッセージとコールを確実に受信します。

前提条件

- iPhone および iPad 版 Jabber
 - Cisco Unified Communications Manager バージョン 11.5.1 SU3 以降
ただし、2021 年 4 月以前のバージョン 11.5.1 SU8 またはバージョン 12.5.1 SU3 にアップグレードする必要があります。
 - Cisco Expressway X8.10
ただし、2021 年 4 月以前のバージョン X12.6 にアップグレードする必要があります。
- Android 版 Jabber
 - Cisco Unified Communications Manager 12.5.1 SU3 バージョン以降
 - CISCO IM and Presence 12.5.1.1 SU3 (Jabber のみ)
 - Cisco Expressway X12.6

プッシュ通知の Jabber への送信方法

サインインプロセス中に、Jabber は APN サービスに登録されます。ユーザは、Jabber にログインしてプッシュ通知サービスを受信する必要があります。

Unified CM サーバが通知を Cisco Cloud サーバにプッシュし、Cisco Cloud server がこの通知を APN サービスにプッシュします。その後、APN サービスは、iPhone や iPad などの Cisco Jabber デバイスの Jabber にこの通知を送信します。これらのデバイスは Jabber を再起動して Unified CM サーバからのコールを取得します。これにより、着信コールをいつでも受信できるようになります。



- (注) プッシュ通知サービスが有効になっているユーザが Jabber を手動で終了した場合、**ForceLogoutTimerMobile** パラメータは機能しません。Cisco では、**Forcelogouttimermobile** パラメータを使用する場合は、プッシュ通知サービスを無効にすることをお勧めしています。

サポートされるサービス

- 電話機のみおよび完全な UC モード
- 共有回線 (1 つのデバイスからコールを受け、保留と再開機能を使用して Jabber に転送することができます)
- CallKit (Jabber のコール、Jabber からネイティブコール、およびネイティブから Jabber へのネイティブコールへの切り替えが可能)

制約事項

- Jabber が Unified CM サーバのコールを取得する前に着信コールが切断された場合、不在着信または通話履歴は録音されません。
- Cisco Jabber と Cisco Webex Teams の両方がインストールされている場合、最初に着信コールを受信するアプリケーションには、callkit が表示されます。
- リリース 12.9 の時は、ピアツーピアコール (locus コール) はサポートされていません。
- Jabber を強制終了またはサスペンドし、着信に応答すると、Jabber は Unified CM との接続を開始します。この場合、「通話接続」フェーズが表示される場合があります。
- Jabber クライアントは、次のようにプッシュ通知を無効にします。
 - デバイスに Google サービスが存在しない場合 (Huawei Mate 30 以降など)、クライアントはサーバ上で有効にした場合でも、プッシュ通知を無効にします。
 - デバイスに Google サービスが存在し、その地域が「中国本土」の場合、クライアントはサーバ上でプッシュ通知を有効にした場合でも、プッシュ通知を無効にします。
 - 中国の他のデバイスの場合、クライアントはプッシュ通知にサーバ設定を使用しません。

Cisco Unified Communications Manager のプッシュ通知サービスを有効にする

ステップ 1 Cisco Unified CM の管理 > 詳細機能 > Cisco Cloud オンボーディングを選択します。

ステップ 2 通知の設定で、[Push notification を有効にする (Push notification)] をオンにします。

ステップ 3 [保存 (Save)] をクリックします。

(オプション) シングルナンバー リーチでのプッシュ通知の使用

プッシュ通知の処理時間が、シングルナンバー リング (SNR) に干渉する場合があります。SNR でプッシュ通知を使用する場合は、リング前の待機時間を 13 秒以上に延長することを推奨します。この時間によって、通話に応答する時間を与えます。

- ステップ 1** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。
- ステップ 2** 関連付けられているモビリティ ID を選択し、**タイマー情報**を検索します。
- ステップ 3** [ビジネス回線にダイヤルされたときに、* X 秒経過してからこの電話を呼び出す (Wait * X seconds before ringing this phone when my business line is dialed)] を 13 以上に設定します。

(オプション) ボイスメールでのプッシュ通知の使用

ボイスメールにコールを送信する場合の [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] のデフォルト設定は 12 秒です。プッシュ通知処理は、ほとんどの時間を使用できます。ボイスメールでプッシュ通知を使用する場合は、時間を 25 秒以上に延長することを推奨します。この時間によって、通話に応答する時間を与えます。

- ステップ 1** Cisco Unified CM の管理で、[コール ルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します。
- ステップ 2** ディレクトリ番号を選択して、[通話転送とコールピックアップの設定 (Call Forward and Call Pickup Settings)] を検索します。
- ステップ 3** [無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration、秒)] を 25 以上に設定します。

単一番号リーチ

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

シングルナンバーリーチ (SNR) を使用すると、次の場合に、ユーザは仕事用番号から携帯電話に通話を自動的に転送できます:

- Cisco Jabber は利用できません。

Jabber が再び使用可能になり、企業ネットワークに接続した後、Unified CM は SNR を使用せずに Jabber クライアントに通話を発信します。

- Jabber モバイルユーザは、**モバイルボイスネットワーク**を選択するか、または**自動選択**し、かつ、Wi-Fi ネットワーク外で存在します。

ユーザは、Cisco Jabber から SNR の宛先番号を選択またはクリアできます。

単一番号リーチを有効にする

次の手順でユーザに対して単一番号リーチを有効にします。

始める前に

すでにデバイスが割り当てられていることを確認してください。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 次のように単一番号リーチを使用するようにエンドユーザを設定します。

- ユーザ管理 > エンドユーザに移動して、ユーザを検索し、ユーザ名をクリックします。
- モビリティ情報セクションで、**モビリティの有効化** チェックボックスをオンにします。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 9.0 以前の場合は、[プライマリユーザデバイス] を指定します。
- [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 3 リモート接続先プロファイルを作成します。

- デバイス > デバイス設定 > リモート接続先プロファイル > 新規追加に進みます。
- 必要に応じて値を入力し、保存をクリックします。
- 新しいディレクトリ番号を追加をクリックし、リモート通知先プロファイルに関連付けるデスクフォンのディレクトリ番号を入力します。
- [保存] をクリックします。
- リモート通知先を追加をクリックしてリモート通知先の番号を宛先番号に入力し、ユーザ ID を選択します。
- ユニファイドモビリティ機能の有効化をクリックして、次のオプションをクリックします。
 - 単一番号リーチを有効にする
 - [携帯電話への移動を有効にする (Enable Move to Mobile)]
- [保存 (Save)] をクリックします。

制約事項

バージョン 8.10.X よりも前の Cisco TelePresence Video Communication Server Control (VCS) では、次のように設定して、モバイルおよび Remote Access で Cisco Jabber を使用するユーザ向けにシングルナンバー リーチを有効にする必要があります。

ステップ 1 Cisco TelePresence Video Communication Server コントロール (VCS) から、**構成 > ユニファイド コミュニケーション > HTTP 許可リスト > 編集可能な受信ルール** を選択

ステップ 2 **新規** をクリックして新しいエントリを作成する

ステップ 3 次の詳細を入力します。

- 説明: 次の説明を入力します。
- UR: URL の詳細を入力します。たとえば、https://[(CUCM domain name)]: ポート番号。
- 許可されているメソッド: デフォルト値をチェックします。たとえば、GET、POST、PUT
- 一致タイプ: ドロップダウンリストから **プレフィックスの照合** を選択します。

ステップ 4 **[保存]** をクリックします。

URI ダイアル

URI ダイアル機能は、オンプレミスの展開に対して使用できます。URI ダイヤリングには、Cisco Unified Communications Manager リリース 9.1(2) 以降のバージョンが必要です。



重要 Dial via Office - リバース (DvO-R) 機能が有効な場合、モバイルクライアントは URI ダイアルをサポートしません。

この機能が `EnableSIPURIDialling` パラメータを使用する `jabber-config.xml` ファイルで有効になるようにしてください。

例: `<EnableSIPURIDialling>True</EnableSIPURIDialling>`

パラメータの値の詳細については、「共通のポリシー」の項を参照してください。

URI ダイアルは、ユーザが Uniform Resource Identifier (URI) を使用したコールの発信や連絡先の解決を実行できるようにします。たとえば、アダム・マッケンジー (Adam McKenzie) という名前ユーザが `amckenzi@example.com` という自分のディレクトリ番号と関連付けられた次の SIP URI を持っていたとします。URI ダイアルを使用すると、アダムのディレクトリ番号ではなく、アダムの SIP URI でコールを発信できるようになります。

URI ダイアル要件の詳細および ILS のセットアップを含む詳細設定については、『Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド』の「URI Dialing」の項を参照してください。

URI とディレクトリ番号の関連付け

ユーザが URI コールを発信すると、Cisco Unified Communications Manager はその URI に関連付けられた電話番号に着信コールをルーティングします。このため、URI と電話番号を関連付ける必要があります。URI を使用して電話番号を自動的に入力するか、URI を使用して電話番号を設定します。

URI を使用した電話番号の自動入力

ユーザを Cisco Unified Communications Manager に追加するときは、[ディレクトリ URI (Directory URI)] フィールドに有効な SIP URI を入力します。Cisco Unified Communications Manager はその SIP URI をエンドユーザ設定に保存します。

ユーザのプライマリ内線を指定すると、Cisco Unified Communications Manager はエンドユーザの設定から電話番号の設定にディレクトリ URI を入力します。このため、ユーザの電話番号のディレクトリ URI が自動的に入力されます。Cisco Unified Communications Manager はその URI をデフォルトのパーティションにも配置します。これが **ディレクトリ URI (Directory URI)** です。

次のタスクは、電話番号が URI を継承するように Cisco Unified Communications Manager を設定する手順を大まかに説明しています。

-
- ステップ 1 デバイスを追加します。
 - ステップ 2 デバイスに電話番号を追加します。
 - ステップ 3 デバイスとユーザを関連付けます。
 - ステップ 4 ユーザのプライマリ内線を指定します。
-

次のタスク

ディレクトリ URI が電話番号に関連付けられていることを確認します。

URI を使用した電話番号の設定

ユーザに関連付けられていない電話番号用の URI を指定できます。URI を使用した電話番号は、テストと評価の目的でのみ設定する必要があります。

URI を使用した電話番号を設定するには、以下の手順に従ってください。

-
- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。
 - ステップ 2 [コール ルーティング (Call Routing)] > [電話番号 (Directory Number)] を選択します。
[電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウが開きます。
 - ステップ 3 適切な電話番号を検索して選択します。
[ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 4 [ディレクトリ URI (Directory URIs)] セクションを探します。

ステップ 5 [URI] 列で有効な SIP URI を指定します。

ステップ 6 適切なパーティションを [パーティション (Partition)] 列から選択します。

(注) システムの [ディレクトリ URI (Directory URI)] パーティションには、URI を手動で追加できません。URI は電話番号と同じルートパーティションに追加する必要があります。

ステップ 7 ユーザが電話番号にコールを発信できるように適切なコーリング検索スペースにパーティションを追加します。

ステップ 8 保存を選択します。

ディレクトリ URI パーティションの関連付け

Cisco Unified Communications Manager が URI を配置するデフォルトのパーティションを、電話番号を含むパーティションと関連付ける必要があります。



重要 URI ダイアルを有効にするには、デフォルトのディレクトリ URI パーティションを、電話番号を含むパーティションと関連付ける必要があります。

コーリング検索スペース内に電話番号のパーティションがない場合は、パーティションを作成して、適切に設定する必要があります。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [システム] > [エンタープライズパラメータ] を選択します。

[エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 3 [エンドユーザのパラメータ (End User Parameters)] セクションを探します。

ステップ 4 [ディレクトリ URI エイリアスパーティション (Directory URI Alias Partition)] 行で、ドロップダウンリストから適切なパーティションを選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

デフォルトのディレクトリ URI パーティションは電話番号を含むパーティションと関連付けられています。それにより、Cisco Unified Communications Manager は着信 URI コールを正しい電話番号にルーティングできます。

ユーザが電話番号にコールを発信できるようにパーティションが適切なコーリング検索スペースにあることを確実にする必要があります。

連絡先の解決のための SIP 要求における FQDN の有効化

URI による連絡先の解決を有効にするには、Cisco Unified Communications Manager が SIP 要求で完全修飾ドメイン名 (FQDN) を使用するように設定する必要があります。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 [デバイス (Device)]>[デバイス設定 (Device Settings)]>[SIP プロファイル (SIP Profile)]を選択します。

[SIP プロファイルの検索と一覧表示 (Find and List SIP Profiles)]ウィンドウが開きます。

ステップ 3 適切な SIP プロファイルを検索して選択します。

メモ デフォルトの SIP プロファイルは編集できません。必要に応じて、デフォルトの SIP プロファイルのコピーを作成して変更します。

ステップ 4 [SIP 要求で完全修飾ドメイン名を使用 (Use Fully Qualified Domain Name in SIP Requests)]を選択し、[保存 (Save)]を選択します。

次のタスク

URI を関連付けるプライマリ内線があるすべてのデバイスと SIP プロファイルを関連付けます。

ボイスメールの無効化

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

ボイスメール回避は、コールがモバイル サービス プロバイダーのボイスメールに回答することを防ぐ機能です。この機能は、ユーザがモバイル デバイスで企業からモバイル コネクト コールを受信するときに便利です。また、DvO-R の受信コールがモバイル デバイスに発信される場合にも便利です。

ボイスメールの無効化は、次の 2 つのいずれかの方法で設定できます。

- **タイマー制御**：（デフォルト）この方式では、Cisco Unified Communications Manager にタイマーを設定して、モバイル ユーザまたはモバイル サービス プロバイダーのボイスメールのどちらによってコールに応答するか決定します。
- **ユーザ制御**：この方式では、コールを先に進める前に、デバイスのキーパッドの任意のキーを押すことによる DTMF トーンの生成をユーザに要求するように Cisco Unified Communications Manager を設定します。

DvO-R を導入する場合は、ユーザ制御のボイスメールの無効化も設定することが推奨されます。ユーザ制御のボイスメールの無効化を設定すると、この機能は DvO-R とモバイル コネクト コールの両方に適用されます。

ボイスメールの無効化の詳細については、ご使用のリリースの『Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide』の「Confirmed Answer and DvO VM detection」の項を参照してください。

タイマーで制御されたボイスメールの無効化のセットアップ

タイマー制御方式をセットアップするには、モビリティ ID またはリモート接続先のいずれかで [呼び出し開始タイマー (Answer Too Soon Timer)] および [呼び出し終了タイマー (Answer Too Late Timer)] を設定します。詳細については、「モビリティ ID の追加」または「リモート接続先の追加 (オプション)」のトピックを参照してください。

始める前に

タイマー制御のボイスメールの無効化は、Cisco Unified Communications Manager リリース 6.0 以降でサポートされています。

ユーザ制御のボイスメールの無効化のセットアップ



重要 ユーザ制御のボイスメールの無効化は、Cisco Unified Communications Manager リリース 9.0 以降で使用できます。

ユーザ制御のボイスメールの無効化を次のようにセットアップします。

1. 「ボイスメールの無効化をサポートするための Cisco Unified Communications Manager の設定」のトピックを使用して Cisco Unified Communications Manager をセットアップします。
2. 次のトピックのいずれかを使用してデバイスをセットアップします。
 - 「モビリティ ID のボイスメールの無効化の有効化」
 - 「リモート接続先のボイスメールの無効化の有効化」



重要 Cisco は、エンドユーザがクライアントで設定した代替番号で DvO-R を使用する場合、ユーザ制御のボイスメールの無効化をサポートしていません。代替番号とは、ユーザのモビリティ ID で設定した電話番号と一致しない、ユーザがクライアントの DvO コールバック番号のフィールドに入力した電話番号です。

代替番号を使用してこの機能を設定する場合、Cisco Unified Communications Manager は、コールバックが誤った番号またはボイスメールシステムに接続しても DvO-R コールを接続します。

ボイスメールの無効化をサポートするための Cisco Unified Communications Manager の設定

ユーザ制御のボイスメールの無効化をサポートするように Cisco Unified Communications Manager を設定するには、次の手順を使用します。

- ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。
- ステップ 2 [システム (System)]>[サービス パラメータ (Service Parameters)]の順に選択します。
- ステップ 3 [サーバ (Server)]ドロップダウンリストで、アクティブな Cisco Unified Communications Manager を選択します。
- ステップ 4 [サービス (Service)]ドロップダウンリストで、[Cisco Call Manager (アクティブ) (Cisco Call Manager (Active))]サービスを選択します。
- ステップ 5 [クラスタ全体のパラメータ (システム-モビリティシングルナンバーリーチボイスメール) (Clusterwide Parameters (System - Mobility Single Number Reach Voicemail))]セクションで設定を構成します。
 - (注) ここでの設定は、Cisco Jabber に固有ではありません。これらを設定する方法については、ご使用のリリースの『Cisco Unified Communication Manager アドミニストレーションガイド』の「*Confirmed Answer and DVO VM detection*」の項を参照してください。
- ステップ 6 [保存 (Save)]をクリックします。

モビリティ ID のボイスメールの無効化の有効化

エンドユーザのモビリティ ID に対してユーザ制御のボイスメールの無効化を有効にするには、次の手順を使用します。

始める前に

- Cisco Unified Communications Manager でアナンシエータを設定します。詳細については、ご使用のリリースの『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「*Annunciator setup*」の項を参照してください。
- Cisco Unified Communications Manager にメディアリソースグループを設定する場合は、メディアリソースグループにアナンシエータを設定します。詳細については、ご使用のリ

リリースの『Cisco Unified Communication Manager アドミニストレーションガイド』の「Media resource group setup」の項を参照してください。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] インターフェイスを開きます。

ステップ 2 設定するデバイスに次のように移動します。

- a) [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。
- b) 設定するデバイスを検索します。
- c) デバイス名を選択して、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウを開きます。

ステップ 3 [関連付けられたモビリティ ID (Associated Mobility Identity)] セクションで、モビリティ ID のリンクをクリックします。

(注) ボイスメールの無効化機能が正常に動作するには、エンドユーザが Cisco Jabber クライアントに入力する DvO コールバック番号が [モビリティ ID の設定 (Mobility Identity Configuration)] 画面で入力する [接続先番号 (Destination Number)] と一致する必要があります。

ステップ 4 ポリシーを次のように設定します。

- Cisco Unified Communications Manager リリース 9 : [シングルナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)] ドロップダウンリストで、[ユーザ制御 (User Control)] を選択します。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 10 (Dial via Office なし) : [シングルナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)] ドロップダウンリストで、[ユーザ制御 (User Control)] を選択します。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 10 (Dial via Office あり)
 - [シングルナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)] ドロップダウンリストで [タイマー制御 (Timer Control)] を選択します。
 - [Dial-via-Office リバース ボイスメール ポリシー (Dial-via-Office Reverse Voicemail Policy)] ドロップダウンリストで [ユーザ制御 (User Control)] を選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

「リモート接続先のボイスメールの無効化の有効化」

エンドユーザのリモート接続先に対してユーザ制御のボイスメールの無効化を有効にするには、次の手順を使用します。

始める前に

- Cisco Unified Communications Manager でアナンシエータを設定します。詳細については、ご使用のリリースの『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』の「Annunciator setup」の項を参照してください。

- Cisco Unified Communications Manager にメディア リソース グループを設定する場合は、メディア リソース グループにアナンシエータを設定します。詳細については、ご使用のリリースの『Cisco Unified Communication Manager アドミニストレーションガイド』の「*Media resource group setup*」の項を参照してください。

ステップ 1 [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)]インターフェイスを開きます。

ステップ 2 設定するデバイスに次のように移動します。

- a) [デバイス (Device)]>[電話 (Phone)]の順に選択します。
- b) 設定するデバイスを検索します。
- c) デバイス名を選択して、[電話の設定 (Phone Configuration)]ウィンドウを開きます。

ステップ 3 [関連付けられたリモート接続先 (Associated Remote Destinations)]セクションで、関連付けられたリモート接続先のリンクをクリックします。

ステップ 4 ポリシーを次のように設定します。

- Cisco Unified Communications Manager リリース 9 : [シングル ナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)]ド롭ダウンリストで、[ユーザ制御 (User Control)]を選択します。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 10 (Dial via Office なし) : [シングル ナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)]ド롭ダウンリストで、[ユーザ制御 (User Control)]を選択します。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 10 (Dial via Office あり)
 - [シングル ナンバー リーチ ボイスメール ポリシー (Single Number Reach Voicemail Policy)]ド롭ダウンリストで [タイマー制御 (Timer Control)]を選択します。
 - [Dial-via-Office リバース ボイスメール ポリシー (Dial-via-Office Reverse Voicemail Policy)]ド롭ダウンリストで [ユーザ制御 (User Control)]を選択します。

ステップ 5 [保存 (Save)]をクリックします。

ボイスメッセージ

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—

ボイスメール画面には、次の追加オプションが含まれています:

- ユーザは、発信せずにボイスメッセージを録音して、メッセージを送信することができます。ユーザは、ボイスメール サーバのカタログから受信者を選択できます。
- ユーザは、ボイスメールの送信者またはそのメッセージのすべての受信者に直接返信できます。
- ユーザは、ボイスメールを新しい受信者に転送することもできます。

ボイスメール サーバの管理者は、ユーザがメッセージを送信できるようにディストリビューションリストを作成することもできます。

送信されたボイスメッセージの表示

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	—	—	—

Cisco Unity Connection で送信メッセージの保有期間を設定すると、ユーザは Jabber で送信されたボイスメッセージにアクセスできるようになります。

ステップ 1 Unity 接続管理で、メッセージの設定に移動します。

ステップ 2 この機能を有効にするには、送信済みメッセージ: 保持期間 (日) を正の数に設定します。

自動応答コール

着信 Jabber コールに自動応答するように CSF デバイスを設定できます。Unified CM では、ヘッドセットまたはスピーカーフォンで自動応答するようにデバイスを設定できます。

すべての接続されているデバイスが自動応答をサポートしていない場合は、共有回線上で自動応答を設定しないでください。



- (注) Zip トーンも有効にした場合、zip トーンは、CSF デバイスがヘッドセットを使用して自動応答したときに Jabber でのみ再生されます。Zip トーンは、スピーカーフォンが通話に自動応答しているときには再生されません。

シスコユニファイドコンタクトセンターを備えた Jabber

Cisco Jabber は、コンタクトセンター環境のエージェント電話として使用できます。Jabber では、次のシスコユニファイドコンタクトセンターの機能がサポートされています。

- **CTI Servitude** : ユニファイドコンタクトセンターの導入は、Jabber によるソフトフォンを、cti を介して制御できます。
- **自動応答** : Unified CM で Jabber CSF デバイスの自動応答を設定できます。ただし、共有回線上のすべてのデバイスは自動応答をサポートしている必要があります。
- **Zip トーン** : ヘッドセットで自動応答させることができる zip トーンを使用できます。スピーカーフォンを使用した自動応答は、zip トーンをサポートしていません。
- **ウィスパアナウンスメント**: ウィスパアナウンスメントを使用して、応答メッセージをエージェントに再生できます。
- **エージェントグリーティング** : エージェントグリーティングを使用して、録音済みのメッセージを顧客に再生できます。
- **サイレントモニタリング** : スーパーバイザーが着信コールを監視できます。
- **スーパーバイザーの入力** : cBarge を使用して、スーパーバイザーはアクティブコールに自らを入れることができます。ネットワークベースのメディアリソースを設定し、Jabber でこの機能をサポートできるようにする必要があります。この機能は、ユーザが Jabber の組み込み型のブリッジ (BiB) を有効にしても、cBarge モードで起動します。
- **通話のレコーディング**: Cisco Unified Contact Center がサポートしているレコーディングサーバにレコーディングストリームを送信できます。



(注) Jabber は、連絡先センターの展開におけるエクステンションモビリティをサポートしていません。

電話番号解決リクエストのサーバ負荷の軽減

Jabber を起動すると、Jabber は、連絡先ソースからの通話履歴にある各発信者を検索しようとします。外部電話番号からのコールのほとんどが連絡先センターにあるような展開では、これらの要求は外部の電話番号の不要なオーバーヘッドになります。大量の外部コールがある場合、これらの要求は LDAP または UDS サーバに大きな負荷をかける可能性があります。

この負荷を軽減する必要がある場合は、`DisableCallHistoryResolution` パラメータを使用できます。



第 4 章

セキュリティおよびモニタリング

- ログアウト非アクティビティ タイマー (101 ページ)
- 問題のレポート (102 ページ)
- デバイス PIN 設定 (105 ページ)
- モバイルクライアントでのバイOMETリック認証 (106 ページ)
- サイレント モニタリングおよびコール録音 (107 ページ)
- Cisco Jabber 分析テレメトリ (108 ページ)
- ワイヤレスロケーション モニタリングサービス (111 ページ)
- インスタントメッセージ用 セキュリティラベル (112 ページ)

ログアウト非アクティビティ タイマー

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

サインアウト非アクティビティタイマーにより、指定された時間にわたって非アクティブ状態のユーザをクライアントから自動的にサインアウトさせることができます。

モバイルクライアントでの「非アクティブ」には次の状態が含まれます。

- クライアントがバックグラウンド動作になる。
- 音声コールに関するユーザ操作がない。

この機能をモバイルクライアントで ForceLogoutTimerMobile パラメータを使用して設定することができます。

デスクトップクライアントでの「非アクティブ」には次の状態が含まれます。

- キーボードまたはマウスの操作がない。
- コール発信および応答のための接続済みアクセサリに関するユーザ操作がない。

この機能をモバイルクライアントで ForceLogoutTimerMobile パラメータを使用して設定することができます。

このパラメータを設定していない場合、クライアントは自動的にサインアウトしません。

問題のレポート

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

問題レポートをセットアップすると、クライアントの使用中に発生した問題の概要を送信できるようになります。次のように、問題レポートを送信する方法は2つあります。

- クライアント インターフェイスを介して問題レポートを直接送信する。
- 問題レポートをローカルに保存し、後でアップロードする。

クライアントは、HTTP POST メソッドを使用して問題レポートを送信します。POST 要求を受け入れるカスタムスクリプトを作成し、設定パラメータとして HTTP サーバ上のスクリプトの URL を指定します。ユーザは問題レポートをローカルに保存できるため、ユーザが問題レポートをアップロードできるようにするフォームを含む HTML ページを作成する必要もあります。

始める前に

環境の準備を行うには、次の手順を実行します。

1. HTTP サーバをインストールして設定します。
2. HTTP POST 要求を受け入れるカスタム スクリプトを作成します。

3. ユーザが、ローカルに保存されている問題レポートをアップロードできる HTML ページを作成します。HTML ページには、.ZIP アーカイブとして保存された問題レポートを受け入れ、カスタムスクリプトを使用して問題レポートを送信するアクションが含まれているフォームがあります。

次に、問題レポートを受け入れるフォームの例を示します。

```
<form name="uploadPrt" action="http://server_name.com/scripts/UploadPrt.php" method="post"
  enctype="multipart/form-data">
  <input type="file" name="zipFileName" id="zipFileName" /><br />
  <input type="submit" name="submitBtn" id="submitBtn" value="Upload File" />
</form>
```

ステップ 1 HTTP サーバ上でカスタム スクリプトをホストします。

ステップ 2 設定ファイルの `PrtLogServerUrl` パラメータの値としてスクリプトの URL を指定します。

問題レポートの復号化

問題レポートの復号化用のコマンドライン ツール `CiscoJabberPrtDecrypter.exe` は、インストーラに含まれており、Windows マシンでのみ使用できます。このツールには次の引数があります。

- `--help` : ヘルプ メッセージを表示します。
- `--privatekey` : 秘密キー ファイルを指定します。これはプライバシー強化メール (.pem) または個人情報交換 PKCS#12 (.pfx) 形式です。
- `--password` : 入力された秘密キー ファイルがパスワードで保護されている場合のオプション。
- `--encryptionkey` : `file.zip.esk` など、暗号化秘密キー ファイルを指定します。
- `--encryptedfile` : `file.zip.enc` など、暗号化されたファイルを指定します。
- `--outputfile` : `decryptedfile.zip` など、出力ファイルを指定します。

始める前に

問題レポートを復号化するには、次のものがが必要です。

- 暗号化を使用して問題レポートを生成したときに作成した zip ファイルに含まれる、次の 2 つのファイル
 - `file.zip.esk` : 暗号化された対称キー
 - `file.zip.enc` : AES256 を使用して暗号化された元のデータ
- データの暗号化に使用した証明書の秘密キー

ステップ 1 Windows でコマンドプロンプトを開きます。

ステップ 2 C:\Program Files(x86)\Cisco Systems\CUCILync\ ディレクトリに移動します。

ステップ 3 コマンドとパラメータを入力します。

```
デスクトップクライアントの例 : CiscoJabberPrtDecrypter.exe --privatekey C:\PRT\PrivateKey.pfx
--password 12345 --encryptedfile C:\PRT\file.zip.enc --encryptionkey C:\PRT\file.zip.esk --outputfile
C:\PRT\decryptedfile.zip
```

復号化が成功すると出力ファイルが作成されます。無効なパラメータがあると復号化が失敗し、コマンドラインにエラーが表示されます。

リモートでの PRT ログの収集

ユーザが PRT ログをアップロードするまで待機する代わりに、**Unified CM の管理**でリモートからログを生成することができます。

始める前に

この機能を使用するには、展開で **Unified CM リリース 12.5.1 SU 1** 以降が必要です。

RemotePRTServer パラメータは、サーバに PRT ログをアップロードするためのスクリプトを指定します。

ステップ 1 [デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] の順に選択します。

ステップ 2 ログが必要なデバイスを選択します。

ステップ 3 選択された PRT の PRT の生成をクリックします。

スクリプトは、PRT のログをサーバにアップロードします。



(注) Cisco Sunkist ヘッドセットからログを収集するには、ファームウェアバージョン 1.3 またはそれ以降が必要です。

リモート PRT ログコレクションのセットアップ

PRT ログをリモートで収集する前に、**Unified CM の管理**でログをアップロードするためのスクリプトを指定する必要があります。

ステップ 1 [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Service)] を選択します。

ステップ2 Jabber クライアント設定 (jabber-config) の UC サービスタイプで新しい UC サービスを追加します。

ステップ3 次の値を含む Jabber 設定パラメータを追加します。

- セクション : ポリシー
- パラメータ : RemotePRTServer
- [値 (Value)]: アップロードスクリプトの URL。

デバイス PIN 設定

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
—	—	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—

Jabber はセキュアなデバイスのみを使用することを推奨します。デバイスがセキュアかどうかを確認するには、ForceDevicePin パラメータの値を **true** に設定します。

例 :

```
<ForceDevicePin>true</ForceDevicePin>
```

デバイスがセキュアでない場合 :

- Jabber は PIN を設定する通知を表示します。この通知には期限が設定されており、ユーザが 13 秒以内に [PIN 設定 (SET PIN)] をタップしなかった場合は、そのユーザは Jabber からサインアウトされます。

PIN 設定 オプションをタップした後、ユーザはデバイス設定に進んで、PIN または指紋認証でデバイスを保護する必要があります。

- ユーザが Jabber にサインインし、すぐに Jabber をバックグラウンドに移すと、Jabber はユーザがそのデバイスを保護したかどうかを確認します。デバイスが保護されていない場合、ユーザは Jabber からサインアウトされます。

モバイルクライアントでのバイオメトリック認証

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
—	—	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—

Cisco Jabber は、ユーザーが安全にログインするための指紋または顔認識による認証指紋をサポートしています。これらの認証方法を使用して、ユーザがモバイルデバイスの Cisco Jabber に迅速かつ安全にログインできることを確認してください。

指紋または顔認識によるは、次のシナリオで使用されます。

- Android 版 Cisco Jabber ユーザが手動サインアウトや自動サインアウト後に Jabber にサインインする場合に、指紋または顔認識での認証ができます。
- iPhone および iPad 版 Cisco Jabber のユーザが手動でログアウトしたときや、その cisco jabber を使用したユーザが Cisco Jabber にログインしたときに、その Cisco Jabber にログインした場合、その Cisco Jabber にログインするには、Touch ID または顔 ID 認証を使用します。

パラメータ、localauthenticationwithbiometricsを設定することにより、Cisco Jabber のユーザがこの認証方法でサインインできるようにしてください。

このパラメータは、次のいずれかの値を使用して設定できます。

- AdminEnabled: Cisco Jabber は、指紋または顔認証 ユーザが Cisco Jabber にログインするには、バイオメトリック認証を使用する必要があります。ただし、ユーザのデバイスがバイオメトリック機能をサポートしていない場合、ユーザはパスワードを使用してログインする必要があります。
- UserDecision (デフォルト): Cisco Jabber は、指紋または顔認識 ユーザは、生体認証を使用して、Cisco Jabber にログインするかどうかを決定できます。
- AdminDisabled—Cisco Jabber は、指紋や顔認識による認証 ユーザにはプロンプトが表示されません。

認証に失敗すると、Cisco Jabber は、ユーザがログインするたびにログイン情報を入力するように求めるメッセージを表示します。

例: <LocalAuthenticationWithBiometrics>AdminDisabled</LocalAuthenticationWithBiometrics>

バイOMETリック認証のためのデバイス要件

この機能は、オペレーティングシステムがバイOMETリック認証をサポートしているデバイスでのみ使用できます。

サイレント モニタリングおよびコール録音

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

サイレントコールモニタリングは、Cisco Unified Communications Manager の機能です。サイレントコールモニタリングにより、スーパーバイザには通話参加者双方の声が聞こえますが、どちらの通話参加者にもスーパーバイザの声は聞こえません。

コール録音は Unified CM の機能の 1 つですが、これを利用すると録音サーバでエージェントの会話を記録できます。

- Cisco Jabber では、サイレントモニタリングまたはコール録音を開始するインターフェイスを提供していません。コールをサイレント モニタリングまたは録音するための適切なソフトウェアを使用してください。
- Jabber は現在、通知トーンの監視をサポートしていません。
- サイレント モニタリング機能およびコール録音機能のみ使用できます。Jabber は、割り込み、ウィスパー コーチングなど、その他の機能をサポートしていません。

サーバ要件:

- Cisco では、サイレントモニタリングおよび通話録音は、オンプレミス展開に対してのみサポートいたします。
- Windows 版 Cisco Jabber と Mac 版 Cisco Jabber には、Cisco Unified Communications Manager 9.x 以降のバージョンが必要です。
- iPhone、iPad および Android 版 Cisco Jabber では、Cisco Unified Communications Manager 11.0 以降が必要です。

UnifiedCM の一部のリリースでは、デバイスパッケージでモニタリングおよび録音機能を有効にする必要があります。組み込みブリッジ フィールドが、デバイスの電話機の設定ウィンド

ウで可用性があることを確認してください。このフィールドが使用できない場合は、最新のデバイスパッケージをダウンロードして適用してください。

サイレントモニタリングまたはコール録音の設定方法の詳細については、『*Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

オンデマンドレコーディング

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

すべての通話を記録するのではなく、ユーザに対して、いつ録音するのかを柔軟性に選択することができます。

ユニファイドコミュニケーションマネージャリリース 12.5 (1) 以降の展開では、Jabber の組み込みブリッジを使用した統一 CM のオンデマンド録音をサポートしています (BiB)。Cisco Unified CM 管理で、**デバイス > 電話機 > 録音オプション(選択的着信)** をオンにしてこの機能を有効にします。また、クラスタ全体または個々の電話機に対して、BiB を有効にします。

この機能を有効にすると、[コール制御 (call control)] メニューには、ユーザがいつでも録音を開始および停止するためのレコードオプションが含まれます。

アクセスできるレコーダー間の優先順位

デフォルトでは、通話録音の外部ブリッジをセットアップした会議通話に参加すると、Jabber が外部ブリッジで録音を行うようになっています。ただし、一部の組織はコンプライアンス目的ですべての録音を希望して Jabber BiB を使用する場合があります。このような使用例では、Prefer_BIB_recorder パラメータを使用して Jabber BiB での録音をエンフォーサします。

Cisco Jabber 分析テレメトリ

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	はい

ユーザエクスペリエンスと製品パフォーマンスを向上させるために、Cisco Jabber は、個人識別が不可能な利用状況とパフォーマンスに関するデータを収集してシスコに送信する場合があります。収集されたデータは、シスコによって、Jabber クライアントがどのように使用され、どのように役立っているかに関する傾向を把握するために使用されます。

テレメトリ機能を使用するには、GoDaddy Class 2 Certification Authority Root Certificate という名前のルート証明書をインストールする必要があります。テレメトリサーバ証明書名は "metrics-a.wbx2.com" です。この証明書名に関する警告を解決するには、必要な GoDaddy 証明書をインストールします。証明書の詳細については、『Planning Guide』を参照してください。

デフォルトで、テレメトリ データはオンになっています。次のテレメトリ パラメータを設定できます。

- **Telemetry_Enabled** : 分析データを収集するかどうかを指定します。デフォルト値は true です。
- **TelemetryEnabledOverCellularData** : 分析データを携帯データ ネットワークと Wi-Fi 経由で送信する (true) のか、WiFi 経由のみで送信する (false) のかを指定します。デフォルト値は true です。
- **TelemetryCustomerID** : このオプション パラメータは分析情報の送信元を指定します。この ID は、個別の顧客を明示的に識別する文字列にすることも、顧客を識別せずに共通の送信元を識別する文字列にすることもできます。Global Unique Identifier (GUID) を生成するツールを使用して 36 文字の一意の ID を作成するか、逆ドメイン名を使用することをお勧めします。



(注) テレメトリを無効にするオプションは、Jabber チームメッセージングモードのユーザは使用できません。

これらのパラメータの詳細については、『Parameters Reference Guide』を参照してください。

Cisco の分析データの処理方法については、<https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/privacy-full.html> を参照してください。

Webex Control Hub Jabber 分析

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	—	—

Jabber 分析には、Webex Control Hub を介してアクセスできるようになりました。ユーザーデータは、[分析 (Analytics)] ページの **Jabber** タブからアクセスできます。Jabber 分析では、次のような、重要なパフォーマンス指標 (傾向含む) を提供します。

- アクティブ ユーザ
- メッセージが送信されました
- Jabber で作成または受信した通話
- Jabber のスクリーン共有

Jabber 分析にアクセスするには、Webex Control Hub をセットアップする必要があります。これらのパラメータを `jabber-config.xml` で設定します。

- `TelemetryEnabled true`
- `TelemetryEnabledOverCellularData true` へ
- 管理ハブから `orgid` への `TelemetryCustomerID`

この機能は、次の展開モードで使用できます。

- オンプレミスと完全な UC
- オンプレミスの IM のみ
- オンプレミスの電話専用
- Jabber と Webex Messenger



(注) これは、Jabber の展開に影響を与える Webex Control Hub の新機能です。この機能には、Jabber の任意のリリースでアクセスできます。

ワイヤレスロケーション モニタリングサービス

適用対象: すべてのクライアント

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
はい	はい	はい	はい

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	はい

ワイヤレスロケーション モニタリングサービス: 社内ネットワークにアクセスしている Cisco Jabber ユーザの物理的な場所を判断できます。この情報は、Cisco Unified Communications Manager に格納されます。

Cisco Unified Communications Manager 11.5 以降のワイヤレスロケーション モニタリングサービスの設定については、『[Cisco Unified Communications Manager 用システムコンフィギュレーションガイド](#)』を参照してください。

Cisco Jabber は、ユーザの位置情報をモニタリングし、サービスセット ID (SSID) と基本サービスセット ID (BSSID) の情報を収集して、この情報を少なくとも 24 時間ごとにまたは次の時間ごとに、Unified CM に送信します。

- その現在のアクセスポイントは変更されます。
- Cisco Jabber にサインインします。
- モバイルおよび Remote Access ネットワークのオンプレミスおよび Expressway 間で切り替われます。
- Cisco Jabber はスリープ状態から再開するか、アクティブになります。

オンプレミスの展開の場合は、値 `true` を使用する `EnableE911OnPremLocationPolicy` パラメータを使用してワイヤレスロケーション モニタリングを設定します。

モバイルおよび Remote Access 展開の Expressway の場合は、最大 30 SSID までのリストにある値 `true` と `E911EdgeLocationWhiteList` で `EnableE911EdgeLocationPolicy` を使用して、セミコロンで区切られたワイヤレスロケーション モニタリングを設定します。

パラメータの詳細については、最新の『[Parameters Reference Guide for Cisco Jabber](#)』を参照してください。

インスタントメッセージ用セキュリティラベル

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	—	—	可

閲覧できるユーザやデータを制限するデータ処理ルールが顧客側に用意されていることはよくあります。展開する場合は、コンプライアンスサーバを使用してインスタントメッセージをフィルタリングしてください。リリース 12.7 では、Jabber は XEP-0258: XMPP のセキュリティラベル標準規格をサポートし、これらのフィルタリングが有効化されています。

InstantMessageLabels パラメータを使用して、セキュリティラベルのカタログを定義してください。カタログが、チャット入力フィールド上の選択リストに入力します。

セキュリティラベルを実装する場合、IM 送信に関して一般的なワークフローは次のようになります。

1. IM を送信する前に、ユーザはセキュリティラベルを選択する必要があります。
2. Jabber は、IM に XMPP セキュリティラベルを付加します。
3. IM は、コンプライアンスサーバに送信されます。
4. コンプライアンスサーバは、そのルーティングルールによって受信者がその分類の IM を表示できるかどうかをチェックします。
 - [はい (yes)] の場合、コンプライアンスサーバは IM を許可します。
 - [いいえ (no)] の場合、コンプライアンスサーバは IM を拒否します。
5. Jabber でチャットウィンドウに IM が表示される場合、セキュリティラベルがテキストの上に表示されます。

InstandMessageLabels パラメータの使用法の詳細については、Cisco Jabber のパラメータリファレンスガイドを参照してください。この設定は、Unified CM Administration または jabber-config.xml 設定ファイルで構成できます。

次の例は、セキュリティラベルタグで <label> 要素を使用する方法を示しています：

```
<InstantMessageLabels>
  <item selector="Classified|SECRET">
    <securitylabel xmlns='urn:xmpp:sec-label:0'>
```

```
<displaymarking fgcolor='black' bgcolor='red'>SECRET </displaymarking>
<label>
  <edhAttrs xmlns="https://www.surevine.com/protocol/xmpp/edh">
    <specification>2.0.2</specification>
    <version>XXXX:1.0.0</version>
    <policyRef></policyRef>
    <originator>Acme</originator>
    <custodian>Acme</custodian>
    <classification>A</classification>
    <nationalities>Acme</nationalities>
    <organisations>Acme</organisations>
  </edhAttrs>
</label>
</securitylabel>
</item>
<item...> ... </item>
</InstantMessageLabels>
```

このパラメータを設定すると、Jabber は設定の変更を検出し、Jabber にもう一度サインインするようユーザに要求します。セキュリティラベルをサポートしていないバージョンの Jabber を実行しているデバイスの場合、IM はセキュリティラベルなしでメッセージの内容を表示します。



第 5 章

Platform

- [カスタム埋め込みタブ \(115 ページ\)](#)
- [Chromebook Android 版 Cisco Jabber の設定 \(126 ページ\)](#)
- [Cisco Jabber モバイルアプリのプロモーション \(128 ページ\)](#)

カスタム埋め込みタブ

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	可	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

カスタム埋め込みタブは、クライアントインターフェイスでHTMLコンテンツを表示します。Cisco Jabber のカスタム埋め込みタブ定義を作成します。これで、プログラムに従ってカスタムタブを現在のクライアントテーマに調整できるようになりました。



- (注)
- Jabber 埋め込みブラウザでは、SSO が有効になっている Web ページからのポップアップのある cookie の共有はサポートされていません。ポップアップウィンドウのコンテンツをロードできない場合があります。
 - エンタープライズ内の任意の Web サービス (アクセスの必要がある Jabber クライアントをリモート処理する) の HTTP サーバ許可リスト (ホワイトリスト) を設定します。詳細については、『*Mobile and Remote Access via Cisco Expressway Deployment Guide*』を参照してください。

カスタム埋め込みタブの定義

カスタム組み込みタブは jabber-config.xml ファイルを使用してか設定できます。次の XML スニペットに、カスタム タブ定義の構造を示します。

```
<jabber-plugin-config>
  <browser-plugin>
    <page refresh="" preload="" internal="">
      <tooltip></tooltip>
      <icon></icon>
      <url></url>
    </page>
  </browser-plugin>
</jabber-plugin-config>
```

Windows 版 Cisco Jabber は、カスタム埋め込みタブのコンテンツを表示する Chromium 埋め込みフレームワークを使用します。

Mac 版 Cisco Jabber は Safari WebKit のレンダリング エンジンを使用して埋め込みタブのコンテンツを表示します。

次の表は、カスタム埋め込みタブ定義のパラメータについて説明します。

パラメータ	説明
browser-plugin	カスタム埋め込みタブのすべての定義が含まれます。 値にはすべてのカスタム タブ定義が含まれます。
ページ	1 つのカスタム埋め込みタブ定義が含まれます。
refresh	コンテンツが更新されるのを制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • true: ユーザがタブを選択するたびに、コンテンツが更新されます。 • false (デフォルト) : ユーザがクライアントを再起動するか、またはサインインしたときに、コンテンツが更新されます。 このパラメータはオプションであり、ページ要素の属性です。
preload	コンテンツが読み込まれるのを制御します。 <ul style="list-style-type: none"> • true : クライアントが開始したときにコンテンツがロードされます。 • false (デフォルト) : ユーザがタブを選択したときにコンテンツがロードされません。 このパラメータはオプションであり、ページ要素の属性です。
tooltip	カスタム埋め込みタブのマウスを置いたときに表示されるテキストを定義します。 値は Unicode 文字の文字列です。

パラメータ	説明
icon	<p>タブのアイコンを指定します。ローカルアイコンまたはホステッドアイコンを指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ローカルアイコン: 次のように URL を指定します。 file://file_path/icon_name ホステッドアイコン: 次のように URL を指定します。http://path/icon_name <p>次のように、ローカルおよびホストされたアイコンを、<code>%JabberTheme%</code>変数を使用して現在の Jabber のテーマに一致するように変更することもできます。 http://path/icon_name_%JabberTheme%.jpg</p> <p>Jabber クライアントは、アイコンを要求するときに <code>%JabberTheme%</code> を解釈します。値は次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> デフォルト: デフォルトの Jabber のテーマ dark: Jabber の「ダーク」テーマ distinct: Jabber の「ハイコントラスト」テーマ highcontrast: Windows のハイコントラストテーマ <p>URLに<code>%jaburl%</code>が含まれていない場合、そのテーマによってアイコンが変更されることはありません。各アイコンのファイル名にテーマ名を含めることができます。カスタムアイコンのダウンロードに失敗した場合、または選択したテーマのアイコンが存在しない場合は、Jabber クライアントがデフォルトの画像を使用します。</p> <p>.JPG、.PNG、および.GIF形式など、クライアントブラウザがレンダリング可能であれば、どのアイコンでも使用できます。</p> <p>このパラメータはオプションです。アイコンを指定しない場合、クライアントはHTML ページからファビコンを読み込みます。ファビコンがない場合、クライアントはデフォルトアイコンを読み込みます。</p>

パラメータ	説明
url	<p>埋め込みタブのコンテンツが格納される URL を指定します。</p> <p>クライアントは、ブラウザのレンダリングエンジンを使用して埋め込みタブのコンテンツを表示します。そのため、ブラウザがサポートするコンテンツであれば、どのコンテンツでも指定できます。</p> <p>Mac 版 Cisco Jabber の場合、URL 要素に HTTP または HTTPS が含まれていなければなりません。</p> <p>このパラメータは必須です。</p> <p>(注) ターゲットの Web ページで Windows 統合認証が必要な場合、Jabber はユーザにサインイン資格情報を要求するメッセージをデフォルトで表示します。このメッセージが表示されないようにするには、Windows レジストリで認証サーバのホワイトリストを設定します。</p> <p>次の場所にホワイトリストされた URL を追加します:</p> <ul style="list-style-type: none"> • HKEY_LOCAL_MACHINE \SOFTWARE\Policies\Google\Chrome\AuthServerWhitelist • HKEY_LOCAL_MACHINE \SOFTWARE\Policies\Google\Chrome\AuthNegotiateDelegateWhitelist <p>たとえば、AuthServerWhitelist リストとAuthNegotiateDelegateWhitelistポリシーを *example.com、*foobar.com、*baz に設定するとします。'example.com'、'foobar.com'、または'baz'のいずれかで終わる Url が許可リストに含まれています。'*'プレフィックスがない場合、URL は完全に一致する必要があります。</p>
internal	<p>Web ページが、ネットワークの内部ページまたは外部ページであることを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • True (デフォルト): Web ページはネットワークの内部ページです。 • false: Web ページはネットワークの外部ページです。

ユーザのカスタムタブ

クライアントユーザインターフェイスを使用して、ユーザに、カスタム埋め込みタブに対するタブ名および URL を指定することを許可します。ユーザは、カスタム埋め込みタブの他のパラメータを設定できません。

ユーザが自分のタブをカスタマイズできるようにするには、AllowUserCustomTabsをtrueに設定します。

```
<Options>
  <AllowUserCustomTabs>true</AllowUserCustomTabs>
</Options>
```



(注) AllowUserCustomTabsの既定値は**true**です。

カスタム アイコン

最適な結果を得るには、カスタム アイコンは次のガイドラインに準拠する必要があります。

- 寸法 : 20 X 20 ピクセル
- 透明な背景
- PNG ファイル形式

特定のテーマに合わせて、さまざまなバージョンのアイコンを含めることができます。詳細については、`icon` パラメータの説明を参照してください。

カスタム タブからのチャットとコール

プロトコルハンドラを使用し、カスタム埋め込みタブからチャットやコールを開始できます。カスタム埋め込みタブが HTML ページであることを確認してください。

チャットを開始するには、XMPP: または IM: プロトコルハンドラを使用します。
音声通話やビデオ通話を開始するには、TEL: プロトコルハンドラを使用します。

UserID トークン

`${UserID}` トークンを `url` パラメータの値の一部として指定できます。ユーザがサインインすると、クライアントにより、`${UserID}` トークンがログインしたユーザのユーザ名に置き換えられます。



ヒント また、クエリー文字列に `${UserID}` トークンを指定することもできます (例 : `www.cisco.com/mywebapp.op?url=${UserID}`) 。

次の例は、`${UserID}` トークンの使用方法を示しています。

1. カスタム埋め込みタブで次の内容を指定します。
`<url>www.cisco.com/${UserID}/profile</url>`
2. Mary Smith がサインインします。Mary のユーザ名は `msmith` です。
3. クライアントにより、`${UserID}` トークンが次のように Mary のユーザ名に置き換えられます。
`<url>www.cisco.com/msmith/profile</url>`

JavaScript 通知

カスタム埋め込みタブで JavaScript 通知を使用できます。Jabber は JavaScript 通知のメソッドを提供します。非同期サーバーコールに対する JavaScript 通知の使用法と他のカスタム実装に関する説明は、このガイドでは取り扱いません。詳細については、JavaScript のマニュアルを参照してください。



重要 Apple は WebView オブジェクトを置き換えました。Windows と Mac で異なる方法を使用する必要があります。詳細については、JavaScript のセクションを参照してください。

通知メソッド

クライアントには、JavaScript 通知のこれらのメソッドを提供するインターフェイスが含まれています。

- **SetNotificationBadge** : クライアントから JavaScript でこのメソッドを呼び出します。このメソッドの文字列の値は、次のいずれかになります。
 - 空 : 空の値にすると、既存の通知バッジすべてが削除されます。
 - 1 ~ 999 の数字
 - 2 桁の英数字の組み合わせ (例 : A1)
- **onPageSelected()** : ユーザがカスタム組み込みタブを選択すると、クライアントはこのメソッドを呼び出します。
- **onPageDeselected()** : ユーザが別のタブを選択すると、クライアントはこのメソッドを呼び出します。



(注) iPhone および iPad 版 Jabber には適用されません

- **onHubResized()** : ユーザがクライアントハブウィンドウをサイズ変更または移動すると、クライアントはこのメソッドを呼び出します。
- **onHubActivated()** : クライアントハブウィンドウがアクティブになると、クライアントはこのメソッドを呼び出します。
- **onHubDeActivated()** : クライアントハブウィンドウが非アクティブになると、クライアントはこのメソッドを呼び出します。

カスタムタブでのプレゼンスの登録

これらの JavaScript メソッドを使用して、連絡先のプレゼンスを登録し、クライアントからプレゼンスの更新情報を受信することができます。

- **SubscribePresence()** : このメソッドにユーザの IM アドレスを使用してストリング値を指定します。
- **OnPresenceStateChanged** : このメソッドを使用すると、ユーザは連絡先のプレゼンスに関してクライアントから更新情報を取得できます。文字列として次の値のいずれか1つを指定できます。
 - IM アドレス
 - 基本プレゼンス (Available (対応可)、Away (不在)、Offline (オフライン)、Do Not Disturb (着信拒否))
 - 高度なプレゼンス (会議中、コール中、カスタム プレゼンス状態)



- (注)
- [連絡先] リストに登録されていないユーザのサブスクリプションは、68分後に期限切れになります。サブスクリプションの有効期限が切れた後、そのユーザのプレゼンスデータを表示するには、再度サブスクライブする必要があります。
 - iPhone および iPad 版 Jabber は、OnPresenceStateChanged のみサポートしています。

Custom タブでのロケール情報を取得する

これらの JavaScript メソッドを使用すると、連絡先の現在のロケール情報をクライアントから取得できます。

- **GetUserLocale()** : このメソッドを使用して、クライアントにロケール情報を要求できます。
- **OnLocaleInfoAvailable** : このメソッドを使用して、クライアントからロケール情報を取得できます。クライアントのロケール情報を含む文字列値を使用できます。



- (注) iPhone および iPad 版 Jabber は、OnLocaleInfoAvailable のみサポートしています。

クライアントテーマに合わせてカスタムタブを調整する

これらの JavaScript メソッドを使用して、現在のクライアントテーマを返すことができます。

- **QueryCurrentTheme ()**: このメソッドを使用すると、現在の Jabber のテーマを取得できます。
- **Onchanges Echanged (テーマ)**: Jabber でテーマが変更された場合、このメソッドは受動的に新しいテーマを受け取ります。

テーマでは、次の値を使用できます。

- デフォルト: デフォルトの Jabber のテーマ

- dark: Jabber の「ダーク」テーマ
- distinct: Jabber の「ハイコントラスト」テーマ
- highcontrast: Windows のハイコントラストテーマ

Windows 版 Jabber の JavaScript の例

1 ~ 999 の数字を入力できるフォームを表示するために JavaScript を使用する HTML の例を示します。

```
<html>
  <head>
    <script type="text/javascript">
      function OnPresenceStateChanged(jid, basicPresence, localizedPresence)
      {
        var cell = document.getElementById(jid);
        cell.innerHTML = basicPresence.concat(" ", localizedPresence);
      }

      function GetUserLocale()
      {
        window.external.GetUserLocale();
      }

      function SubscribePresence()
      {
        window.external.SubscribePresence('johndoe@example.com');
      }

      function OnLocaleInfoAvailable(currentLocale)
      {
        var cell = document.getElementById("JabberLocale");
        cell.innerHTML = currentLocale;
      }

      function onHubActivated()
      {
        var cell = document.getElementById("hubActive");
        cell.innerHTML = "TRUE";
      }

      function onHubDeActivated()
      {
        var cell = document.getElementById("hubActive");
        cell.innerHTML = "FALSE";
      }

      function onHubResized()
      {
        alert("Hub Resized or Moved");
      }

      function OnLoadMethods()
      {
        SubscribePresence();
        GetUserLocale();
      }
    </script>
  </head>
```

```

<body onload="OnLoadMethods()">
  <table>
    <tr>
      <td>John Doe</td>
      <td id="johndoe@example.com">unknown</td>
    </tr>
  </table>
  <table>
    <tr>
      <td>Jabber Locale: </td>
      <td id="JabberLocale">Null</td>
    </tr>
    <tr>
      <td>Hub Activated: </td>
      <td id="hubActive">---</td>
    </tr>
  </table>
</body>
</html>

```

この例の JavaScript フォームをテストするには、前述の例を HTML ページにコピーしてから、そのページをカスタム埋め込みタブとして指定します。

Mac 版 Jabber の JavaScript の例

Apple は以前の Jabber リリースが使用していた `NSWebView` を廃止しました。代替の `WKWebView` は、`window.external` をサポートしていません。Mac のカスタム埋め込みタブでは、`window.external` を `window.webkit.messageHandlers` に置き換えます。

新しいメソッドの例を次に示します。

```

<html>
<h3>
  Jabber MAC
</h3>
<div style="padding: 10px;">
  <label title="" id="themestring"></label>
  <button onclick="QueryCurrentThemeAction()">QueryCurrentTheme Action</button>
  <button onclick="SetNotificationBadgeAction()">SetNotificationBadge Action</button>
  <button onclick="GetUserLocaleAction()">GetUserLocale Action</button>
  <label title="" id="UserLocal"></label>
  <button onclick="SubscribePresenceAction()">SubscribePresence Action</button>
  <label title="" id="Presence"></label>
</div>

<script>

function OnThemeChanged(themeString) {
  var themeLabel = document.getElementById('themestring');
  themeLabel.innerHTML = themeString
}

function OnLocaleInfoAvailable(userLocal) {
  var localUserLabel = document.getElementById('UserLocal');
  localUserLabel.innerHTML = userLocal;
}

function QueryCurrentThemeAction() {
  var themeDiv = document.getElementById('MyTheme');
  themeDiv.style.backgroundColor = 'green';
  window.webkit.messageHandlers.QueryCurrentTheme.postMessage(null);
}

```

```

}

function SetNotificationBadgeAction() {
    window.webkit.messageHandlers.SetNotificationBadge.postMessage(40);
}

function GetUserLocaleAction() {
    window.webkit.messageHandlers.GetUserLocale.postMessage(null);
}

function SubscribePresenceAction() {

window.webkit.messageHandlers.SubscribePresence.postMessage('quxie@hz.jabberqa.cisco.com');
}

function OnPresenceStateChanged(contactUri, presenceState, localizedPresenceString) {
    var Label = document.getElementById('Presence');
    Label.innerHTML = contactUri + presenceState + localizedPresenceString;
}

</script>
</html>

```

カスタムタブでのコールイベントの表示

カスタムタブでコールイベントを表示するために次の JavaScript 関数を使用できます。

OnTelephonyConversationStateChanged : テレフォニーサービスの API は、クライアントがカスタム埋め込みタブでコールイベントを表示できるようにします。カスタムタブに **OnTelephonyConversationStateChanged JavaScript** 関数を実装できます。クライアントはテレフォニーのカンバセーションの状態が変化するたびに、この関数を呼び出します。この関数は、クライアントがコールイベントを取得するために解析する JSON 文字列を受け入れます。

次のスニペットは、コールイベントを保持する JSON を示します。

```

{
    "conversationId": string,
    "acceptanceState": "Pending" | "Accepted" | "Rejected",
    "state": "Started" | "Ending" | "Ended",
    "callType": "Missed" | "Placed" | "Received" | "Passive" | "Unknown",
    "remoteParticipants": [{participant1}, {participant2}, ..., {participantN}],
    "localParticipant": {
    }
}

```

JSON の各参加者オブジェクトには、次のプロパティを含めることができます。

```

{
    "voiceMediaDisplayName": "<displayName>",
    "voiceMediaNumber": "<phoneNumber>",
    "translatedNumber": "<phoneNumber>",
    "voiceMediaPhoneType": "Business" | "Home" | "Mobile" | "Other" | "Unknown",
    "voiceMediaState": "Active" | "Inactive" | "Pending" | "Passive" | "Unknown",
}

```

次に、この関数のカスタム埋め込みタブでの実装例を示します。この例では、state と acceptanceState プロパティの値を取得し、これらの値をカスタムタブに表示します。

```
function OnTelephonyConversationStateChanged(json) {
    console.log("OnTelephonyConversationStateChanged");
    try {
        var conversation = JSON.parse(json);
        console.log("conversation id=" + conversation.conversationId);
        console.log("conversation state=" + conversation.state);
        console.log("conversation acceptanceState=" + conversation.acceptanceState);
        console.log("conversation callType=" + conversation.callType);
    }
    catch(e) {
        console.log("cannot parse conversation:" + e.message);
    }
}
```

次に、この関数の考えられるすべてのフィールドでの実装例を示します。

```
function OnTelephonyConversationStateChanged(json) {
    console.log("OnTelephonyConversationStateChanged");
    try {
        var conversation = JSON.parse(json);
        console.log("conversation state=" + conversation.state);
        console.log("conversation acceptanceState=" + conversation.acceptanceState);
        console.log("conversation callType=" + conversation.callType);
        for (var i=0; i<conversation.remoteParticipants.length; i++) {
            console.log("conversation remoteParticipants[" + i + "]=");
            console.log("voiceMediaDisplayName=" +
conversation.remoteParticipants[i].voiceMediaDisplayName);
            console.log("voiceMediaNumber=" +
conversation.remoteParticipants[i].voiceMediaNumber);
            console.log("translatedNumber=" +
conversation.remoteParticipants[i].translatedNumber);
            console.log("voiceMediaPhoneType=" +
conversation.remoteParticipants[i].voiceMediaPhoneType);
            console.log("voiceMediaState=" +
conversation.remoteParticipants[i].voiceMediaState);
        }
        console.log("conversation localParticipant=");
        console.log("  voiceMediaDisplayName=" +
conversation.localParticipant.voiceMediaDisplayName);
        console.log("  voiceMediaNumber=" +
conversation.localParticipant.voiceMediaNumber);
        console.log("  translatedNumber=" +
conversation.localParticipant.translatedNumber);
        console.log("  voiceMediaPhoneType=" +
conversation.localParticipant.voiceMediaPhoneType);
        console.log("  voiceMediaState=" + conversation.localParticipant.voiceMediaState);
    }
    catch(e) {
        console.log("cannot parse conversation:" + e.message);
    }
}
```

カスタム埋め込みタブの例

次に、1つの埋め込みタブを含む設定ファイルの例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<config version="1.0">
  <Client>
    <jabber-plugin-config>
      <browser-plugin>
        <page refresh ="true" preload="true">
```

```

<tooltip>Cisco</tooltip>
<icon>https://www.cisco.com/web/fw/i/logo.gif</icon>
<url>https://www.cisco.com</url>
</page>
</browser-plugin>
</jabber-plugin-config>
</Client>
</config>

```

Chromebook Android 版 Cisco Jabber の設定

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
—	—	—	可

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	—

Chromebook Android 版 Cisco Jabber の設定チェックリスト

タスク	詳細
デバイスモデルと OS がサポートされていることを確認する	サポートされている <i>Android OS</i> 要件と <i>Chromebook</i> モデルを参照してください
企業のネットワークに MRA 設定を追加する	「企業のネットワークでの MRA 設定の追加」を参照してください。
Chromebook ユーザをタブ (TAB) デバイスタイプとして設定する	タブ (TAB) デバイスタイプとしての <i>Chromebook</i> ユーザの設定を参照してください。
必要なポートを開いたままにして、ユーザが Chromebook のすべての Cisco Jabber サービスにアクセスできるようにします。	ポートの設定を参照

サポートされている Android OS 要件および Chromebook モデル

Chromebook に Chrome OS v53 以降が搭載されている必要があります。Android 版 Cisco Jabber は、Google Play ストアからダウンロードすることができます。

サポートされている Chromebook モデル:

- HP Chromebook 13 G1 ノートブック PC
- Google Chromebook Pixel
- Samsung Chromebook Pro

企業のネットワークに MRA 設定を追加する

企業およびモバイルおよび Remote Access (MRA) ネットワークから接続している間は、Cisco Jabber を使用します。コールサービスを使用するには、Cisco Jabber が MRA ネットワークを使用してログインしている必要があります。

ユーザーが企業ネットワーク内で動作しているときに MRA ネットワークに接続するには、内部ドメインネームサーバー (DNS) を "_collab-edge._tls.<domain>.com" SRV レコードで設定します。DNS の完全な詳細については、「サービスの発見 *Cisco Jabber* プランニングガイド 12.1 を参照してください。

Chromebook ユーザをタブ (TAB) デバイスタイプとして設定する

Chromebook ユーザをタブ (TAB) デバイスタイプとして設定します。ユーザー向けソフトフォンサービス設定方法の詳細については、『*Cisco Jabber* のオンプレミス展開ガイド 12.1』の「ソフトフォンの設定」を参照してください。

ポートの設定

これらのポートが Chromebook で Cisco Jabber サービスにアクセスできることを確認してください:

目的	プロトコル	オンプレミス ネットワーク (送信元)	Expressway-E (宛先)
XMPP (IM & P)	[TCP]	>=1024	5222
HTTP プロキシ (UDS)	[TCP]	>=1024	8443
Media	UDP	>=1024	36002 ~ 59999
SIP シグナリング	TLS	>=1024	5061

制約事項

ビデオコール中に、ユーザーが別のアプリに切り替えた場合、ビデオは停止します。

Cisco Jabber モバイルアプリのプロモーション

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

Windows 版 Cisco Jabber のユーザの通知を有効にして、モバイルアプリ 版 (Android および iOS) Cisco Jabber の使用を促進することができます。通知をクリックすると、[設定 (Settings)] ページがユーザに移動し、Google Play または iTunes ストアからアプリをダウンロードするかを選択できるようになります。これらの通知をコントロールするように、新しいパラメータ EnablePromoteMobile が追加されています。この機能はデフォルトで無効に設定されています。

このパラメータ設定の詳細情報については、『Parameter Reference Guide for Cisco Jabber』を参照してください。



第 6 章

サードパーティ製品との統合

- [カレンダーの統合および連絡先の解決 \(129 ページ\)](#)
- [Microsoft Outlook のチャット履歴 \(131 ページ\)](#)
- [IBM Notes の連絡先検索とカレンダー統合 \(136 ページ\)](#)
- [Microsoft 製品との統合 \(137 ページ\)](#)
- [ミーティング用 Mac カレンダーの統合 \(138 ページ\)](#)
- [Microsoft Outlook カレンダー統合 \(139 ページ\)](#)
- [Microsoft Outlook プレゼンスの統合 \(140 ページ\)](#)

カレンダーの統合および連絡先の解決

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

カレンダーの統合と連絡先の解決には、次のクライアントアプリケーションを使用できます。

- Microsoft Outlook 2019、32 bit and 64 bit
- Microsoft Outlook 2016 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Outlook 2013 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Outlook 2010 (32 ビットおよび 64 ビット)
- IBM Lotus Notes 9 (32 ビット)

- IBM Lotus Notes 8.5.3 (32 ビット)
- IBM Lotus Notes 8.5.2 (32 ビット)
- IBM Lotus Notes 8.5.1 (32 ビット)
- Google カレンダー (カレンダーの統合のみ)

カレンダーの統合と連絡先の解決は、次のパラメータの 1 つ以上を使用して実行します。

- **CalendarIntegrationType** クライアントの [会議 (Meetings)] タブと統合するカレンダーを決定します。ユーザは、 [オプション (Options)] ウィンドウの [カレンダー (Calendar)] タブにある [カレンダーの統合タイプ (Calendar integration type)] フィールドでこの値を上書きできます。
- **EnableLocalAddressBookSearch** ユーザがローカルの Microsoft Outlook または IBM Notes の連絡先を検索して自分の連絡先リストに追加できるかどうかを指定します。
- **EnableLotusNotesContactResolution** ユーザがローカルの IBM Notes の連絡先を検索して自分の連絡先リストに追加できるようにします。

次の表に、サードパーティ製品とのカレンダーの統合と連絡先の解決を実行するために、これらのパラメータが対話する方法を示します。

表 3: カレンダーの統合と連絡先の解決のオプション

パラメータ値			連絡先の解決	カレンダーの統合
EnableLocalAddressBookSearch	EnableLotusNotesContactResolution	CalendarIntegrationType		
false	false	0 : なし	None	None
true	false	0 : なし	None	None
false	true	0 : なし	None	None
true	true	0 : なし	Microsoft Outlook	None
false	false	1 : Microsoft Outlook	None	Microsoft Outlook
true	false	1 : Microsoft Outlook	Microsoft Outlook	Microsoft Outlook
false	true	1 : Microsoft Outlook	None	Microsoft Outlook
true	true	1 : Microsoft Outlook	Microsoft Outlook	Microsoft Outlook
false	false	2 : IBM Notes	None	IBM Notes

パラメータ値			連絡先の解決	カレンダーの統合
EnableLocalAddressBookSearch	EnableLotusNotesContactResolution	CalendarIntegrationType		
true	false	2 : IBM Notes	None	IBM Notes
false	true	2 : IBM Notes	None	IBM Notes
true	true	2 : IBM Notes	IBM Notes	IBM Notes
false	false	3 : Google	None	Google
true	false	3 : Google	None	Google
false	true	3 : Google	None	Google
true	true	3 : Google	None	Google

Microsoft Outlook のチャット履歴

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

サポートされている Microsoft Exchange サーバ: 2010、2013、2016、2019、および Office 365 (Exchange Online)

Jabber は、ユーザーのチャット履歴を自動的に Microsoft Outlook アプリケーションのフォルダに保存します。ユーザがチャットウィンドウを閉じると、クライアントは IM のメッセージ交換を Exchange サーバに保存します。

この機能を有効にするには、次の手順を実行する必要があります:

- ステップ 1 パラメータを EnableSaveChatHistoryToExchange と SaveChatHistoryToExchangeOperationMode に設定します。
- ステップ 2 Exchange の展開の種類に基づいた手順を実行します。

オプション	説明
Office 365 (Exchange Online)	Microsoft のクラウドベースの Exchange サービスを使用する組織向け。
オンプレミスの Exchange サーバ	オンプレミスの Exchange サーバを使用する組織向け。

チャット履歴の保存にパラメータをセットアップする

この機能を有効にするには、EnableSaveChatHistoryToExchange と SaveChatHistoryToExchangeOperationMode パラメータを設定する必要があります。

ステップ 1 EnableSaveChatHistoryToExchange パラメータを *true* に設定します。

例：

```
<EnableSaveChatHistoryToExchange>true</EnableSaveChatHistoryToExchange>
```

ステップ 2 SaveChatHistoryToExchangeOperationMode パラメータを次のいずれかの値に設定します：

- EnabledByPolicy:** チャットは Microsoft Outlook に保存されます。チャットセッションを **Microsoft Outlook の [Cisco Jabber チャット] フォルダに保存する** オプションは、クライアントで表示されますが、ユーザーはアクセスできません。
 このオプションを使用する場合、クライアントがログイン情報を同期することによって Exchange サーバーで認証するように認証をセットアップする必要があります。
- DisabledByDefault:** ユーザはチャットを Microsoft Outlook に保存できます。 **Microsoft Outlook の [Cisco Jabber チャット] フォルダにチャットセッションを保存する** オプションは、クライアントでオフになっていますが、ユーザーは変更できます。
- EnabledByDefault:** ユーザがチャットを Microsoft Outlook に保存できます。 **Microsoft Outlook の [Cisco Jabber チャット] フォルダにチャットセッションを保存する** オプションは、クライアントでオフになっていますが、ユーザーは変更できます。
- OnPremOnlyByPolicy:** チャットが Microsoft Outlook に保存されるのは、Jabber が社内ネットワーク上にある場合のみです。Jabber は、MRA 上のチャットを Outlook に保存しません。 [オプション (Options)] メニューの [Outlook] タブに [チャット履歴を Microsoft Outlook の "Cisco Jabber Chats" フォルダに保存します (Save chat sessions to "Cisco Jabber Chats" Folder in Microsoft Outlook)] オプションが表示されますが、グレー表示でありユーザはこのオプションを変更できません。
- OnPremOnlyByDefault:** チャットを Outlook に保存できるオプションが使用できるのは、Jabber が企業ネットワークに接続している場合のみです。Jabber は、MRA 上のチャットを Outlook に保存しません。 [オプション (Options)] メニューの [Outlook] タブで [チャット履歴を Microsoft Outlook の "Cisco Jabber Chats" フォルダに保存します (Save chat sessions to "Cisco Jabber Chats" Folder in Microsoft Outlook)] オプションがオンになっていますが、ユーザはこれを変更できます。

例 :

```
<SaveChatHistoryToExchangeOperationMode>EnabledbyPolicy</SaveChatHistoryToExchangeOperationMode>
```

Office 365 (Exchange Online)

Office 365 (Exchange オンライン) を使用してチャット履歴を Outlook に保存するには、ExchangeModernAuthenticationパラメータを有効にする必要があります。ユーザは、クライアントの設定メニューにアカウントの詳細を入力します。

ステップ 1 ExchangeModernAuthentication パラメータを *true* にします。

例 :

```
<ExchangeModernAuthentication>true</ExchangeModernAuthentication>
```

ExchangeModernAuthenticationを有効にすると、Jabber が次のパラメータを無視します:

- ExchangeAuthenticateWithSystemAccount
- InternalExchangeServer
- ExternalExchangeServer
- ExchangeAutodiscoverDomain

ステップ 2 パラメータ Exchange_UseCredentialFrom には値が含まれていないことを確認してください。

次のタスク

Cisco Jabber® では、Azure AD で管理者の同意が必要です。Azure AD テナントのデフォルト設定では、ユーザは Jabber などのサードパーティのマルチテナントアプリケーションに同意を付与できます。テナント管理者がその権限を制限している場合、ユーザは Jabber の Azure AD アカウントにサインインできません。

テナント管理者は、ブラウザにこれらの URL を入力し、プロンプトに従うことによって、ユーザが Jabber に同意を付与する権限を付与できます。

- **Windows 版 Jabber:** https://login.microsoftonline.com/common/adminconsent?client_id=b7dc2580-cbaf-41a6-94ce-f6b495cc5815&state=12345&redirect_uri=ciscojabber%3A%2F%2Fo365oauth
- **Mac 版 Jabber:** https://login.microsoftonline.com/common/adminconsent?client_id=fbf6d76d-2021-4972-994c-ebd0957cdf4a&state=12345&redirect_uri=ciscojabber%3A%2F%2Fo365oauth

オンプレミスの Exchange サーバ

オンプレミスの Exchange サーバを使用してチャット履歴を Outlook に保存するには、Jabber が、Exchange サーバのサーバアドレスを認証および提供するために使用する資格情報を指定する必要があります。

認証のログイン情報を指定する

Jabber は Exchange サーバでユーザを自動的に認証しますが、使用するログイン情報を最初に指定する必要があります。認証が完了すると、クライアントに Exchange Server の Outlook フォルダにチャット履歴を保存できるようになります。

使用するログイン情報を指定しない場合、ユーザは、クライアントの [設定] メニューでユーザのログイン情報を手動で入力する必要があります。

Windows ドメインユーザアカウントを使用して認証する

Windows で展開する場合、Jabber はドメインのユーザアカウントの詳細を使用して Exchange サーバでの認証を行います。この認証方式には、Windows NT LAN Manager プロトコルを使用します。

Cisco では、Windows アカウントが複数のユーザによって共有されている場合、認証にドメインユーザアカウントの詳細を使用するようには推奨していません。クライアントをリセットして別のユーザとしてサインインする場合でも、Jabber は Exchange での Windows アカウントの認証を行います。ユーザのチャット履歴は、別の Outlook フォルダに保存される場合があります。

始める前に

ユーザおよびそのコンピュータは、ドメインユーザアカウントを使用する必要があります。この認証方法は、ローカル Windows アカウントでは機能しません。

jabber-config.xml ファイルで、ExchangeAuthenticateWithSystemAccount パラメータを *true* に設定します。

Cisco ログイン情報で認証する

Jabber は、Cisco の IM およびプレゼンスサービス、ユニファイドコミュニケーションマネージャー、または Webex からの資格を使用して Exchange で認証ができます。

Exchange_UseCredentialsFrom パラメータを *CUP* (IM およびプレゼンス用)、*CUCM* (ユニファイドコミュニケーションマネージャー用)、または *Webex* (Webex 用) に設定します。

例 :

```
<Exchange_UseCredentialsFrom>CUCM</Exchange_UseCredentialsFrom>
```

この例では、Cisco Unified Communications Manager が Exchange サーバに認証用のログイン情報を提供するサービスとして定義されます。

Exchange サーバのアドレスの指定

Exchange サーバのアドレスを定義するか、あるいは特定のドメインで Exchange サーバを自動的に検出するよう Jabber を設定します。

クライアントがサーバを検索する方法を指定しない場合、ユーザは、クライアントの [設定 (settings)] メニューでサーバのアドレスを手動で入力する必要があります。

サーバアドレスの自動検出

ユーザのドメインに基づいて自動的に Exchange Server を検出するようにクライアントを設定できます。このドメインは、ユーザのクレデンシャルに対して指定されたドメインを使用して認証方式をセットアップしたときに定義されます。

ステップ 1 jabber-config.xml ファイルで、ExchangeAutodiscoverDomain パラメータを設定します。たとえば、`<ExchangeAutodiscoverDomain>domain</ExchangeAutodiscoverDomain>` のようにします。

ステップ 2 Exchange Server を検出するドメインとしてパラメータの値を定義します。クライアントは、このドメインを使用して、次の Web アドレスのいずれかで Exchange Server を検索します。

`https://<ドメイン>`

`https://autodiscover.<ドメイン>`

サーバアドレスの定義

コンフィギュレーション ファイルで内部と外部の Exchange Server アドレスを定義できます。

ステップ 1 jabber-config.xml ファイルで、InternalExchangeServer パラメータと ExternalExchangeServer パラメータを設定します。

ステップ 2 Exchange Server アドレスを使用してパラメータの値を定義します。

Outlook フォルダに保存するチャット履歴の制限事項

CUCM アカウント

ユーザは Cisco Unified Communications Manager アカウントを持っている必要があります。

Cisco Expressway for Mobile and Remote Access

Expressway 経由でモバイルおよび Remote Access に接続するユーザの場合は、次の制限が適用されます。

- ユーザが Expressway 経由で接続していることを検出した場合、クライアントは Exchange 接続に外部サーバオプションを使用します。外部サーバが設定されていない場合は、内部サーバが使用されます。
- ユーザが Expressway 経由で接続していないことを検出した場合、クライアントは Exchange 接続に内部サーバオプションを使用します。内部サーバが設定されていない場合は、外部サーバが使用されます。
- ただし、内部サーバまたは外部サーバが設定されているが、Cisco Jabber が何らかの理由でそのサーバに接続できない場合、クライアントはもう一方のサーバを使用しません。

IBM Notes の連絡先検索とカレンダー統合

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

前提条件: IBM Notes の連絡先は、[メッセージ ID] フィールドに有効な値を含める必要があります。それ以外の場合は、ユーザは IBM Notes の連絡先を連絡先リストに追加できません。

Windows 版 Cisco Jabber では、クライアントの [会議 (Meetings)] タブでの IBM Notes のカレンダー統合がサポートされています。Cisco Jabber を使用すれば、IBM Notes からローカル連絡先を検索または追加することができます。IBM Notes との統合を有効にするには、次のパラメータを設定する必要があります。

- EnableLocalAddressBookSearch=true
- EnableLotusNotesContactResolution=true
- CalendarIntegrationType=2

CalendarIntegrationType パラメータはユーザが上書きできます。IBM Notes とのカレンダー統合と連絡先解決を有効にするには、ユーザは [オプション (Options)] ウィンドウの [カレンダー (Calendar)] タブで [カレンダー統合 (Calendar integration)] タイプが [IBM Notes] に設定されていることを確認する必要があります。



(注) Cisco Jabber は、IBM Notes *nsf*ファイルのバックアップがロードされている場合は、連絡先検索とカレンダー統合を実行できません。

IBM Notes 統合のための C および C++ ライブラリ

Jabber が IBM Notes と統合されている場合は、デフォルトで C ライブラリを使用します。EnableLotusNotesCLibrarySupportパラメータを使用して、ライブラリを C++ に変更します。詳細については、『Parameters Reference Guide』を参照してください。

着信コールの連絡先の解決

Windows 版 Cisco Jabber は着信コールに関して IBM Notes のアドレス帳を検索しないため、通話履歴には IBM Notes の連絡先の電話番号のみが表示されます。その後 Cisco Jabber のユーザが電話番号に関連付けられた連絡先を検索すると、通話履歴が変更され、電話番号の代わりに連絡先の名前が表示されるようになります。

Microsoft 製品との統合

Clients			
ウィンドウ	MAC	iPhone および iPad	Android
対応	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
はい	はい	はい	はい

Windows 版 Cisco Jabber は、アプリケーションと統合するさまざまな Microsoft 製品をサポートします。このセクションでは、これらの製品のサポートと統合について説明します。

オフィス

次のバージョンの Office との統合 (その Mac クライアントを含む) がサポートされます。

- Microsoft Office 2019 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Office 2016 (32 ビットと 64 ビット)
- Microsoft Office 2013 (32 ビットと 64 ビット)
- Microsoft Office 2010 (32 ビットと 64 ビット)

Office 365

Microsoft Office 365 は、プランまたはサブスクリプションタイプによって異なる設定タイプをサポートします。Windows 版 Cisco Jabber は Microsoft Office 365 の Small Business プラン P1 でテスト済みです。このプランにはオンプレミス Active Directory サーバが必要です。

Microsoft Office 365 とのクライアント側統合は、次のアプリケーションでサポートされます。

- Microsoft Office 2010 (32 ビットと 64 ビット)
- Microsoft Office 2016 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Office 2013 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Office 2010 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft SharePoint 2010

SharePoint

次のバージョンの SharePoint との統合がサポートされます。

- Microsoft SharePoint 2013
- Microsoft SharePoint 2010

Microsoft SharePoint サイトの可用性ステータスは、ユーザが Microsoft Internet Explorer を使用してこのサイトにアクセスしている場合にのみサポートされます。Microsoft Internet Explorer で信頼済みサイトのリストに Microsoft SharePoint サイトを追加する必要があります。

Skype for Business

Windows 版 Jabber と Skype for Business は、Windows API およびその他の Windows リソースと競合する可能性があります。この問題を潜在的に緩和するには、次のコマンドで Jabber をインストールします。

```
msiexec.exe /i CiscoJabberSetup.msi CLICK2X=DISABLE
```

ミーティング用 Mac カレンダーの統合

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
—	可	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージングモード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

カレンダーを Cisco Jabber クライアントに接続するオプションをユーザに付与します。
 カレンダーを統合する場合は、次のアプリケーションを使用してください。

- Exchange サーバ 2019、2016、2013、2010
- Office 365
- Mac カレンダー

カレンダーを統合する場合は、次のパラメータで設定します。

- **MacCalendarIntegrationType**: ユーザが Cisco Jabber で選択できるカレンダーオプションを定義します。
 - 0 は「該当なし」
 - 1 (デフォルト) は Microsoft Outlook
 - 2 は Mac カレンダー
- **InternalExchangeServer**、**ExternalExchangeServer**、または**ExchangeAutodiscoverDomain**を使用して、どのサーバに接続するかを定義します。
- **Exchange_UseCredentialsFrom**または**ExchangeDomain**を使用して、これらのサーバに対する認証を行います。
- **CalendarAutoRefreshTime**: カレンダーが更新されるまでの時間を分単位で定義します。デフォルト値は 0 で、カレンダーは自動的に更新されないことを意味します。
- **EnableReminderForNoneWebexMeeting**: そのカレンダーにある Webex 以外のミーティングに関する Cisco Jabber からの通知を受信するかどうかを指定します。
- **DisableNonAcceptMeetingReminder**: は、ユーザが承認しない Cisco Webex Meetings に関する Cisco Jabber からの通知を受信するかどうかを指定します。

パラメータのセットアップ方法の詳細については、最新の『*Parameters Reference Guide for Cisco Jabber*』を参照してください。

Microsoft Outlook カレンダー統合

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

予定表イベントが Windows 版 Cisco Jabber に表示されるように、Microsoft Outlook で設定を適用する必要があります。

ステップ 1 次の例のように、Microsoft Outlook で電子メールアカウント設定を開きます。

- a) [ファイル (File)] > [アカウント設定 (Account Settings)] を選択します
- b) [アカウント設定 (Account Settings)] ウィンドウの [電子メール (Email)] タブを選択します。

ステップ 2 サーバ名をダブルクリックします。

ほとんどの場合、サーバ名は **Microsoft Exchange** です。

ステップ 3 [キャッシュされた Exchange モードの設定 (Cached Exchange Mode setting)] チェックボックスを選択します。

ステップ 4 設定を適用してから、Microsoft Outlook を再起動します。

ユーザが Microsoft Outlook で予定表イベントを作成すると、[ミーティング (Meetings)] タブにそれらのイベントが表示されます。

Microsoft Outlook プレゼンスの統合

Clients			
ウィンドウ	Mac	iPhone および iPad	Android
可	—	—	—

導入			
On-Premises	Webex Messenger	チームメッセージング モード	VDI 版ソフトフォン
可	可	可	可

Microsoft Outlook との統合を有効にするには、Active Directory の proxyAddresses 属性の値として SIP:user@cupdomain を指定します。その後、Microsoft Outlook の可用性を共有してください。

OutlookContactResolveModeパラメータを使用して、Microsoft Outlook での連絡先のプレゼンスを Jabber で解決する方法を選択します。

- **自動 (デフォルト)** : SIP:user@cupdomain を使用して proxyaddress 属性を設定すると、Jabber は Jabber ID として user@cupdomain を使用します。Proxyaddress 属性を SIP なしで設定した場合、Jabber は Microsoft Outlook で連絡先のプレゼンスを解決するように電子メールアドレスを使用します。
- **[電子メール (email)]** : SIP : user@cupdomain を使用して proxyaddress 属性を設定すると、jabber は電子メールアドレスとして user@cupdomain を使用します。Proxyaddress 属性を SIP なしで設定した場合、Jabber は Microsoft Outlook で連絡先のプレゼンスを解決するように電子メールアドレスを使用します。

proxyAddresses 属性を変更するには、次のいずれかの方法を使用します。

- **Active Directory ユーザとコンピュータなどの Active Directory 管理ツールを使用する**

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを使用すれば、Microsoft Windows Server 2008 以降の属性を編集できます。

- **ADSchemaWizard.exe ユーティリティ**

ADSchemaWizard.exe ユーティリティは Cisco Jabber 管理パッケージで使用できます。このユーティリティが生成する LDIF ファイルにより、SIP:user@cupdomain の値を持つ proxyAddresses 属性をすべてのユーザーに追加するよう、ディレクトリが変更されません。

ADSchemaWizard.exe ユーティリティは、Active Directory ユーザおよびコンピュータ用管理ツールの属性編集機能をサポートしていないサーバで使用します。ADSIEditなどのツールを使用して、ADSchemaWizard.exe ユーティリティを使用して適用した変更を確認できます。

ADSchemaWizard.exe ユーティリティでは、Microsoft .NET Framework バージョン 3.5 以降が必要です。

- **Microsoft Windows PowerShell でスクリプトを作成する**

Microsoft Outlook でのプレゼンスを有効にするスクリプトの作成については、対応する Microsoft のマニュアルを参照してください。

Active Directory ユーザとコンピュータ ツールとのプレゼンスの有効化

次の手順を実行し、Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを使用して Microsoft Outlook で個別ユーザのプレゼンスを有効にします。

ステップ 1 Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを起動します。

Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールを実行するには、管理者権限が必要です。

- ステップ 2** メニューバーで [表示 (View)] を選択し、ドロップダウン リストから [拡張機能 (Advanced Features)] オプションを選択します。
- ステップ 3** Active Directory ユーザとコンピュータ管理ツールの対象ユーザに移動します。
- ステップ 4** ユーザをダブルクリックして [プロパティ (Properties)] ダイアログボックスを開きます。
- ステップ 5** [属性エディタ (Attribute Editor)] タブを選択します。
- ステップ 6** [属性 (Attributes)] リストボックスで、proxyAddresses 属性を見つけて選択します。
- ステップ 7** [編集 (Edit)] を選択し、[複数値文字列エディタ (Multi-valued String Editor)] ダイアログボックスを開きます。
- ステップ 8** [追加する値 (Value to add)] テキスト ボックスに SIP:user@cupdomain の値を指定します。

例 : SIP:msmith@cisco.com

user@cupdomain 値は、ユーザーのインスタントメッセージングアドレスです。cupdomain は、Cisco Unified Presence or Cisco Unified Communications ManagerIM and Presence Service のドメインに対応します。

Microsoft Outlook からのローカル連絡先の追加

Windows 版 Cisco Jabber を使用すれば、Microsoft Outlook 内のローカル連絡先を検索または追加することができます。

Microsoft Outlook のすべてのローカル連絡先には、インスタントメッセージアドレスと電話番号が含まれている必要があります。これらの詳細情報により、ユーザが次の操作を実行できるようになります。

- Microsoft Outlook のローカル連絡先を自分の連絡先リストに追加する。
- クライアントで連絡先の写真を表示する。
- インスタント メッセージをローカル連絡先に送信する。
- クライアントからローカル連絡先にコールする。

管理者のタスク

この Microsoft Outlook との統合を有効にするには、Microsoft Exchange Server で Exchange キャッシュ モードを有効にします。

ユーザがクライアントから Microsoft Outlook 内のローカル連絡先を検索できるようにするには、Microsoft Outlook でプロファイルを設定する必要があります。

ユーザのタスク

ユーザはクライアントで適切な予定表設定を指定する必要があります。

1. [ファイル (File)] > [オプション (Options)] を選択します。
2. [予定表 (Calendar)] タブを選択します。

3. [Microsoft Outlook]を選択します。
4. 変更を適用するには、Cisco Jabber を再起動してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。